

作業療法学科 夜間部			令和2年度改定新カリキュラム							
ページ	授業科目	講師	1年		2年		3年		4年	
			単位	時間	単位	時間	単位	時間	単位	時間
244	統計学	河邊 宗知	1	24						
245	情報科学	山田 慶	2	30						
246	心理学	小野寺 哲夫	2	30						
247	哲学	竹村 香織	1	24						
248	教育学	井上 環	1	24						
249	英語	伊勢村 定雄	2	30						
250	保健体育	小平 健太郎	2	30						
251	社会学	千田 佳遠里	1	24						
252	人間関係論	川村 啓輔	2	30						
253	解剖学Ⅰ	五十嵐 広明	1	30						
254	解剖学Ⅱ	五十嵐 広明	1	30						
255	解剖学Ⅲ	五十嵐 広明	1	30						
256	生理学Ⅰ	小平 健太郎	1	30						
257	生理学Ⅱ	越智 広樹	1	30						
258	生理学実習	渡辺 信博	1	30						
259	機能解剖学Ⅰ	小笹 久志	1	24						
260	機能解剖学Ⅱ	山田 慶	1	24						
261	運動学Ⅰ	田中 克一	1	30						
262	人間発達学	大山 敬子	1	30						
263	臨床心理学	小野寺 哲夫	2	30						
264	小児科学	江添 隆範	1	15						
265	精神医学	河邊 宗知	2	30						
266	リハビリテーション医学概論Ⅰ	草野 修輔	2	30						
267	作業療法概論	深瀬 勝久	1	30						
268	基礎作業学	山下 高介	1	24						
269	基礎作業学演習	松生 容一・田中 克一	1	30						
270	身体障害評価学Ⅰ	田中 克一・山田 慶	1	30						
271	運動学Ⅱ	山田 慶			1	30				
272	運動学実習	山田 慶			1	30				
273	病理学概論	何 聰（カ ソウ）			1	15				
274	内科学・老年学Ⅰ	本間 博			2	30				
275	内科学・老年学Ⅱ	本間 博			2	30				
276	整形外科Ⅰ	武内 俊次			2	30				
277	整形外科Ⅱ	武内 俊次			2	30				
278	神経内科学Ⅰ	大供 孝			2	30				
279	神経内科学Ⅱ	大供 孝			2	30				
280	リハビリテーション医学概論Ⅱ	石川 秀志 他			2	30				
281	地域実習セミナー	松生 容一			1	30				

282	作業療法管理学	深瀬 勝久			2	30				
283	身体障害評価学Ⅱ	松生 容一			2	48				
284	身体障害評価学演習	小笹 久志			1	45				
285	精神障害評価学	山下 高介			1	30				
286	発達障害評価学	大西 麓子			1	30				
287	作業療法基礎演習	深瀬 勝久・小笹 久志			2	30				
288	身体障害治療学Ⅰ	井口 佳晴			1	30				
289	身体障害治療学Ⅱ	小笹 久志			1	30				
290	精神障害治療学Ⅰ	山下 高介			1	30				
291	発達障害治療学Ⅰ	大西 麓子			1	30				
292	発達障害治療学Ⅱ	大西 麓子			1	30				
293	日常生活活動学	田中 克一			1	30				
294	地域作業療法学Ⅰ	田中 克一			2	30				
295	地域実習	OT学科教員			1	45				
296	作業療法研究法	河邊 宗知					1	15		
297	作業療法特講	田中 克一 他					1	24		
298	作業療法総合演習Ⅰ	OT学科教員					2	60		
299	作業療法臨床セミナーⅠ	OT学科教員					2	60		
300	身体障害治療学Ⅲ	伊藤・仲木・木下					1	30		
301	身体障害治療学演習	松生 容一・小笹 久志					1	45		
302	精神障害治療学Ⅱ	山下 高介					1	30		
303	精神障害治療学演習	深瀬 勝久					1	45		
304	発達障害治療学演習	大西 麓子					1	45		
305	老年期障害治療学	松生 容一					2	60		
306	日常生活活動学演習	山田 慶					1	45		
307	高次脳機能障害治療学	伴野 麻矢					1	30		
308	職業関連活動学	手塚 雅之・田中 克一					1	30		
309	作業療法総合演習Ⅱ	OT学科教員					2	60		
310	臨床実習Ⅰ	OT学科教員					6	270		
311	作業療法臨床セミナーⅡ	OT学科教員							2	60
312	地域作業療法学Ⅱ	松生 容一 他							2	30
313	作業療法特論	OT学科教員							12	360
314	臨床実習Ⅱ	OT学科教員							16	720
			35	753	36	783	24	849	32	1170

作業療法学科 夜間部			
科 目	統計学	単位・時間数	1単位・24時間
担当講師	河邊 宗知	学 年	1年生 後期
実績経験	資格	実務経験 21年 作業療法士として、精神科病院、精神科訪問看護、発達支援センターにて臨床を行う。また作業療法士養成機関で教員を努めている。	
	作業療法士/公認心理師		

授業の位置づけ	現在、医療・リハビリテーションにおいては、EBM・EBOT（根拠に基づく医療・根拠に基づく作業療法）がますます重要視されるようになっており、その手法として、統計が用いられる。いままで統計に触れたことのない学生にも、基本的事項の確認を行ったうえで、医療・リハビリテーション分野の事例を用いながら、統計ツールを用いて検定をはじめとする処理ができるようになることを目指す。		
到達目標	1．統計学の基本的事項（記述統計と推測統計、尺度、代表値、仮説検定等）について説明できる 2．医療、リハビリテーションにおける、統計学の位置づけ、必要性について説明できる 3．統計ツールの基本的操作および統計ツールを用いて、統計処理を行うことが出来る 4．結果について説明が出来る		
授業形態	講義・演習	併用授業	

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	統計学の概要	統計学の基礎用語・概念。Excelの分析ツールとRについて
2回	データの特性	尺度（データの種類について）、代表値、分散と範囲 ヒストグラムと箱ひげ図
3回	記述統計と推測統計	記述統計と推測統計 母集団と標本 検定の概念（帰無仮説・対立仮説）
4回	正規分布・分散と仮説検定	正規分布とは、分散とは、仮説検定、パラメトリックとノンパラメトリック
5回	統計ソフト、ツールの使用法	Excelの分析ツールとRコマンドーの使用法
6回	2標本の平均値の差の検定	パラメトリック法
7回	2標本の平均値の差の検定	ノンパラメトリック法
8回	1 標本の差の検定	パラメトリック法とノンパラメトリック法
9回	相関係数	散布図。散布図における近似直線 順位相関係数
10回	他の統計手法、検定	回帰分析、カイ 2 乗検定、オッズ比 等
11回	診断の指標	医療、リハビリテーション分野で用いられる診断の指標（感度・特異度、陽性的中率、陰性的中率、カットオフ値）
12回	復習とまとめ	各種統計手法とその手順

成績評価	授業毎の課題提出および知識確認テスト 100%	受講上のルール・留意点	授業内で課題や知識確認テストを行うため、授業ごとにその内容の理解を深め、不明な点は質問をしていたきたい。
------	-------------------------	-------------	--

課題やレポートに関するフィードバック
授業内容の理解を深めるため、授業内で課題の実施や、知識確認テストを行う。結果については、次回の授業で補足、フィードバックを行う予定。

	書名	著書名	出版社名
教科書	特になし		
参考書	配布資料を中心に授業を行う		
オフィスアワー	主として、授業内、授業前後の時間に質問を受け付ける。 必要に応じて、メールでの連絡をしていただきたい m-koube@nichireha.ac.jp		

科 目	情報科学		単位・時間数	2単位・30時間
担当講師	山田 慶		学 年	1年生 前期
実績経験	資格	資格：作業療法士 実務経験：病院（身体障害分野）、通所リハ等 9年、教育機関 6年		
	作業療法士			
授業の位置づけ	教職員および学生間とのやり取りにはメールやオンラインミーティングサービス。学習を進めるにあたっては、蔵書やインターネットの活用。課題作成においては、ワープロ、表計算、プレゼンテーションなどのソフトウェアや、クラウドサービスを利用できることが学生生活において重要である。また、臨床現場においても電子カルテの使用や統計処理などの業務も発生する。この授業では上記のような情報や通信機器の活用法について学習していく。			
到達目標	パソコンを学生生活を送るためのツールとして活用できる。 学習に必要な情報を取り扱うことができる。			
授業形態	「講義・演習・グループワーク」		「対面と遠隔の併用授業」	

授業計画

回数	項目	講義内容
1回	授業概要説明 メールの設定と利用方法、メールの送受信	授業概要説明、Gmailの使い方、添付ファイルの使い方
2回	オンラインミーティング	Zoomの活用法
3回	クラウドサービス① ドライブの活用	インターネット上のドライブの活用法 ドライブからのデータのダウンロード、データのアップロード
4回	クラウドサービス② Classroomの活用	Google Classroomを利用し、課題を提出する、Google Formの紹介
5回	文献検索	図書館蔵書の検索および利用法 文献検索サービス（医中誌Web、メディカルオンライン）の利用法
6回	ワープロ文書作成① 見出しなど	見出し、段落番号、フォント、書体変更など
7回	ワープロ文書作成② レポートについて	レポート様式の作成、表の挿入、図の挿入、写真の挿入
8回	ワープロ文書作成③ 段組みなど	段組み設定（症例レポート、レジュメ様式の作成）、図形描画（家族図の作成）
9回	ワープロ文書作成④ まとめ	①～③までのまとめ、文書作成、ショートカットキーの活用等
10回	プレゼンテーション① 操作法	操作法、作成時の注意点
11回	プレゼンテーション② 発表	作成および発表時の注意点
12回	表計算①利用法	入力上の注意点、加算、集計
13回	表計算②表の作成	表の作成、関数を使う、グラフを描く
14回	表計算③関数、統計	関数、統計
15回	情報リテラシー	情報の取り扱いについて

成績評価	課題提出（100％）	受講上のルール・留意点	・授業時間数の3分の1以上欠席した者には単位を与えません。 ・欠席した場合にも同等の課題を課することがあります。 ・パソコンを持参して授業に臨んでください。 ・よほどMacに慣れていない限りパソコンはWindowsをご準備ください。
------	------------	-------------	---

課題やレポートに関するフィードバック
フィードバックは全体に実施する。

	書名	著書名	出版社名
教科書	指定なし。授業ごとに資料を配布。		
参考書			
オフィスアワー	火曜日以外の午後、もしくはメール。		

作業療法学科 夜間部			
科目	心理学	単位・時間数	2単位・30時間
担当講師	小野寺 哲夫	学 年	1年生 前期
実績経験	資格	神奈川県藤沢市教育委員会学校教育課所属学校訪問相談員として4年間、文科省認定スクールカウンセラーとして、神奈川県海老名市（8年）、大和市（3年）、鎌倉市（3年）の小中学校にて、児童生徒、保護者、教員の相談、およびカウンセリング、管理職に対するコンサルテーション等に従事してきた。2020年には国家資格公認心理師を取得。これらの実務経験を活かし、実例を交えながら講義を行う。	
	公認心理師・臨床心理士 Ph. D		

授業の位置づけ	心理学は、全ての医療専門職の基礎となる学問のひとつである。心理学では、科学としての現代心理学が、誕生以来この100年間、どのようなことを研究してきて、どんなことが明らかになってきたのかなどについて、有名な心理学実験なども紹介しながら心理学の面白さや魅力が伝わるような解説を行う。また、この授業は、講師による一方通行的な講義だけでなく、できる限り貴重な映像を観たり、心理テストを行ったり、お互いにディスカッションしたりしながら、アクティブラーニングの視点に立った参加型の授業を展開していく。また、OT/PTの国家試験を見据えて、高頻度で出題される分野を手厚く授業していく予定である。		
到達目標	O Tの国家試験を見すえながら、心理学の基礎知識を理解する。心理学の全体像を理解し、さらに人間の発達段階における特徴や人間理解の基礎的知識を習得する。		
授業形態	講義・演習	対面授業	

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	心理学の研究法	心理学とは何か？ 心理学の成り立ち、心理学の研究法
2回	心理学の歴史	心理学の歴史と心理学における3つのパラダイム
3回	知覚の心理学①	精神物理学と知覚心理学の基礎
4回	知覚の心理学②	ゲシュタルト心理学の基本原則と注意過程
5回	学習の心理学①	古典的条件づけと恐怖条件づけ
6回	学習の心理学②	オペラント条件づけと応用行動分析
7回	学習の心理学③	社会的学習理論と洞察学習
8回	記憶の心理学①	感覚記憶、短期記憶（ワーキングメモリ）、長期記憶
9回	記憶の心理学②	プライミングと展望記憶、4つの忘却説
10回	記憶の心理学③	神経心理学における記憶過程（即時記憶、近時記憶、遠隔記憶）と記憶障害
11回	動機づけの心理学①	3つの情動理論、生理的動機づけ（ホメオスタシス、内発的動機、接触欲求）
12回	動機づけの心理学②	社会的動機づけ（達成動機づけ、マズロー欲求階層論）、フラストレーション
13回	発達の心理学①	発達の特徴 発達の基礎理論 ピアジェの認知発達理論 フロイトの発達論
14回	発達の心理学②	エリクソンの発達段階論 ユングの発達段階論 老年期の発達 死の受容プロセス
15回	パーソナリティ心理学	パーソナリティとは？ 類型論（クレッチマー）と特性論（5因子理論）

成績評価	期末レポート課題（90％）、毎回のミニレポート課題（10％）で評価する。	受講上のルール・留意点	毎回のミニレポート課題は、授業で学んだ内容について、感想や自分の意見、質問等を比較的自由に書いて提出する。 毎回の授業と試験において、教科書は必ず使用する。
------	--------------------------------------	-------------	--

課題やレポートに関するフィードバック
原則としては、毎回のミニレポート課題についてのフィードバックは行われませんが、必要に応じて行う場合もある。

	書名	著書名	出版社名
教科書	P T・O Tのための心理学テキスト	小野寺哲夫	JFAパブリッシング
参考書	はじめてまなぶ行動療法	三田村仰	金剛出版
オフィスアワー	「授業前後の休憩時間」		

科 目	哲学		単位・時間数	1単位・24時間
担当講師	竹村 香織		学 年	1年生 後期
実績経験	資格	教育機関 25年		
	博士後期課程修了（哲学）			

授業の位置づけ	今日、生命科学の驚異的な発展によって、従来の生命観を揺るがすような医療技術が可能になっています。この授業では、安楽死や遺伝子操作など具体的な医療の問題を取り上げ、そこにある倫理的問題点を整理・検討します。受講者が単なる直感や感情論で判断するのではなく、合理的に医療の問題点については是非を検討する力を養うための授業です。 なお、今年度の授業は教科書とオンデマンド教材を使用した遠隔授業の形態で実施します。		
到達目標	①生命倫理についての基本的な概念を理解し、現状と問題点について知識を得ることができる。（知識・理解） ②広い視野を持ち、様々な立場の人への配慮が伴った倫理的判断を下すことができる。（思考・判断）		
授業形態	講義		遠隔授業

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	ガイダンス、 生命倫理学について	ガイダンスの後、「生命倫理学」という学問の特徴を学ぶ。
2回	倫理的判断の特徴と注意点	倫理的判断の特徴を具体的に理解する。
3回	インフォームド・コンセントと自己決定権 (1)	インフォームド・コンセントをはじめとして、医療倫理の基本概念を学ぶ。
4回	インフォームド・コンセントと自己決定権 (2)・安楽死・尊厳死 (1)	自己決定権、QOL、SOLの概念について知識を整理した後、「安楽死」とはどのような死を意味するのか学ぶ。
5回	安楽死・尊厳死 (2)	「安楽死」概念を整理して理解する。
6回	安楽死・尊厳死 (3)	日本および西洋各国の安楽死をめぐる現状と問題点について理解する。
7回	脳死・臓器移植 (1)	脳死とはどのような状態か理解する。
8回	脳死・臓器移植 (2)	臓器移植の問題点について学ぶ。
9回	遺伝子操作 (1)	遺伝子操作の基本と現状について理解する。
10回	遺伝子操作 (2)	遺伝子操作の倫理的問題点について考察する。
11回	人工妊娠中絶 (1)	人工妊娠中絶の現状をアメリカを中心に学ぶ。
12回	人工妊娠中絶 (2)	人工妊娠中絶の日本における現状と倫理的問題点について学ぶ。

成績評価	成績は、授業への参加を前提に、平常点 5 0 %、学期末レポート 5 0 %で総合的に評価します。	受講上のルール・留意点	全授業の 3 分の 1 以上欠席した場合は失格になります。なお、毎回の授業において課題提出があり、平常点は提出課題の質で評価します。学期末レポートは授業で学んだ内容について2000字程度のものを課す予定で、詳細は授業の中で説明します。
------	---	-------------	---

課題やレポートに関するフィードバック
フィードバックはGoogleClassroom内メッセージ、メール等で行います。

	書名	著書名	出版社名
教科書	『生命倫理の教科書』 [第2版] 2022年	黒崎剛、吉川栄省 編著	ミネルヴァ書房
参考書	必要に応じて授業で指示		
オフィスアワー	初回授業で指示		

作業療法学科 夜間部			
科目	教育学	単位・時間数	1単位・24時間
担当講師	井上 環	学 年	1年生 後期
実績経験	資格		
	教育学博士課程 (満期退学)		

授業の位置づけ	教育学のトピックについて概説します。対人的な営みであるリハビリには、相手に「教える」という働きかけが欠かせません。教育学を学ぶことは、そうしたコミュニケーションのあり方を磨くことに関わっています。同時にそれは、皆さん自身の日々の成長や学びを捉え直すことや、現代の社会や文化への理解を深めることにもつながっています。これらについて、この授業では講義とともに「哲学対話」と呼ばれる実践を重ねながら、共に考えていくことを目指します。		
到達目標	教育学に関わる重要な概念や論点を理解している。 上記を踏まえて、自身の考えを深めそれを適切に表現することができる。 対話を通じた他者との協同的な探究に参加し、その成果を考察・表現することができる。		
授業形態	講義	遠隔授業（オンデマンド型）および対面授業 ※哲学対話の回のみ対面でおこないます	

授業計画

回数	項目	講義内容
1回	ガイダンス	授業の概要・進め方・評価方法、教育学を学ぶ意義、哲学対話とは何か
2回	教える-学ぶの関係	コミュニケーションとしての教えること、学びと教え
3回	教育工学	インストラクショナルデザイン
4回	哲学対話 [1]	日常をめぐる問い
5回	子ども	小さな大人としての「子ども」、「子ども」の発見、「子ども」の消失
6回	教育の目的	有能化・社会化・主体化
7回	哲学対話 [2]	教育をめぐる問い
8回	特別支援教育①	障害児教育の歴史とインクルーシブ教育
9回	特別支援教育②	発達障害のある子どもの教育
10回	ジェンダーとセクシュアリティ	ジェンダーと教育の課題、セクシュアリティと教育の課題
11回	哲学対話 [3]	教育をめぐる問い
12回	まとめ	レポート作成とその注意点

成績評価	①各回における小テスト・小レポート（60%） ②学期末レポート（40%）	受講上のルール・留意点	学期末レポートでは、それまでの授業で行われた議論を踏まえた上で、皆さん自身で自由に問いを設定しそれに応答してもらいます。分量は1,500～2,000字程度を予定しています。「哲学対話」の概要については授業内で説明します。また、各講義のテーマや哲学対話の進め方については、実際の授業の進行状況を見ながら修正を行っていく場合があります。
------	---	-------------	--

課題やレポートに関するフィードバック
課題へのフィードバックは、授業内で全体に対し実施するとともに、必要に応じてGoogle Classroom上での個別的な対応を行います。

	書名	著書名	出版社名
教科書	なし		
参考書	講義中に適宜指示します		
オフィスアワー	授業前後の休憩時間、メール・Google Classroomでの相談		

		作業療法学科 夜 間 部	
科 目	医学英語	単位・時間数	2単位・ 30時間
担当講師	伊勢村 定雄	学 年	1年生 後期
実績経験	資格	通訳の業務経験から、実務経験を活かし講義を行う。	
	全国通訳案内士		

授業の位置づけ	英語の発音・読解の基礎的な確認から始めて、医学英語表現の理解とその習得に努める。加えて、海外からの人々とのコミュニケーションの問題も授業では話題として提供する。教室では、毎回辞書は持参のこと！今後必要になった場合を見据え、自学自習できるように辞書の使い方はマスターしていただきたい。		
到達目標	医学関連の基礎的な英語の語彙と現場での基本的な英語表現を理解する。		
授業形態	講義・演習	「対面授業」。	

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	全体説明＋テキストLesson 1	全体説明の後はずぐテキストの方に入るので、辞書等は準備のこと。
2回	Lesson 2 ＋発音とイントネーションについての説明	テキストの音読説明→問題。
3回	Lesson3 人体に関する専門用語（プリント） 1回目	人体に関する専門用語をリストアップしたプリントを辞書使いながら回答する。
4回	Lesson4	テキストの音読説明→問題
5回	Lesson5	テキストの音読説明→問題
6回	人体に関する英語プリント 2回目	人体に関する専門用語をリストアップしたプリントの2枚目を辞書使いながら回答する。
7回	Lesson6	テキストの音読説明→問題
8回	Lesson7	テキストの音読説明→問題
9回	模擬試験 1	テストの予想問題を解く＋テキストの音読説明→問題
10回	Lesson8	テキストの音読説明→問題
11回	人体に関する英語プリント 3回目	人体に関する専門用語をリストアップしたプリントを復習し、口頭で練習する
12回	Lesson9	テキストの音読説明→問題
13回	Lesson10	テキストの音読説明→問題
14回	模擬試験 2	テストの予想問題を解く＋テキストの音読説明→問題
15回	15回囚体に関する専門用語 4回目	人体に関する専門用語をリストアップしたプリントを復習し、かつ記憶する

成績評価	期末考査[85%] ＋授業参加状況（出席含む） [15%] =100点	受講上のルール・留意点	辞書（中級以上）の英和辞書（電子辞書が望ましい。携帯の辞書では英語については不十分。）
------	---------------------------------------	-------------	---

課題やレポートに関するフィードバック
必要に応じて授業時に開示する。

	書名	著者名	出版社名
教科書	マナーとホスピタリティーの英語 II	古閑博美/土屋宣子/北川宣子 著	鷹書房弓プレス
参考書	特になし。		
オフィスアワー	授業後にお願いします。		

作業療法学科 夜間部			
科目	保健体育	単位・時間数	2単位・30時間
担当講師	小平 健太郎	学 年	1年生 後期
実績経験	資格	運動と健康に関わる現実的課題に対して、これまでトレーニングコーチとして運動選手から一般の方への運動指導経験を講義に反映して展開する。保健医療（理学療法・作業療法、看護、臨書検査、鍼灸理療、柔道整復 等）部門で生理学授業を担当している教員が医療従事者に必須な生体機能の調節機構について日常生活からの視点を例示しながら講義を実施する。	
	NSCA-CSCS, NSCA-CPT, 体育学修士		

授業の位置づけ	運動の重要性は近年特に叫ばれているが、方法によっては逆効果にもなるリスクも潜んでいるため対象者に合わせた適切な方法を経験則だけでなく知見として習得していくことが専門職としても求められる。また、自身の動作での課題の発見や適した改善を図ることは自身の健康を保つためにも必要である。		
	講義における基礎知識の習得だけでなく演習やグループディスカッションを通じて、多方面から運動や動作について考える時間を設ける。		
到達目標	①現代社会において運動が必要とされている背景を説明できる。 ②運動の有効性だけでなくリスクについて説明できる。 ③障がい者スポーツについてその起源や必要性について説明できる。 ④様々な形のスポーツについて説明できる。 ⑤感覚に制限がある中で運動を体験し、その感覚を説明できる。 ⑥既存のスポーツに対して対象者に合わせた柔軟な変更を試行できる。		
授業形態	講義・演習	対面と遠隔の併用授業	

授業計画

回数	項目	講義内容
1回	運動の必要性と有効性	現代で運動が求められる理由と運動の有効性
2回	運動のリスク	運動が身体にもたらすリスクとウォーミングアップの重要性
3回	簡易体力チェック（実技）	体力テスト、ロコモチェックの実践
4回	体育館実技	自体重での運動実践
5回	体育館実技	障がい者スポーツ・レクリエーションスポーツの実践
6回	障がい者スポーツ	障がい者スポーツの歴史、障がい者にとっての運動の必要性
7回	障がい者スポーツ	障がい者スポーツの選手の実際を動画で学ぶ
8回	運動体験	ブラインドウォーキング体験
9回	体育館実技	自体重での運動実践
10回	体育館実技	障がい者スポーツ・レクリエーションスポーツの実践
11回	スポーツ科学の応用	スポーツ科学分野での知見の応用（映像学習）
12回	行動変容	運動・スポーツへの参加を促すための行動変容手法
13回	様々なスポーツの形	レクリエーションスポーツ、ゆるスポーツなど様々な形式のスポーツを学ぶ
14回	体育館実技	自体重での運動実践
15回	体育館実技	障がい者スポーツ・レクリエーションスポーツの実践

成績評価	レポート試験：70%、講義内課題30%の合計100%で評価する。 授業時間数の3分の1以上欠席した者には単位を与えない。	受講上のルール・留意点	講義を踏まえて運動が身体にもたらす影響について総合的に考察したものを課題として出題する。 講義内では授業課題に沿った課題を出題する。
------	---	-------------	---

課題やレポートに関するフィードバック
FBは全体に対して実施する

	書名	著書名	出版社名
教科書	百寿時代の運動・スポーツのトリセツ ー日本臨床スポーツ医学会からの提案ー	日本臨床スポーツ医学会学術委員会	有限会社 ナッパ
参考書			
オフィスアワー	授業前後の休憩時間		

作業療法学科 夜間部			
科目	社会学	単位・時間数	1単位・24時間
担当講師	千田 佳遠里	学 年	1年生 後期
実績経験	資格	人間が社会性を再び獲得する重要性を、国立障害者リハビリテーションセンターの勤務経験をふまえ、医学的リハビリから社会的リハビリの訓練過程の実例を示しながら講義に活用している。	
	高等学校教員社会一種免許		

授業の位置づけ	人間がいかにして社会的存在となり、市民社会の一員となっていくのか、家族集団を中心に社会集団を通して考察する。社会事象を正確に捉え、自分と社会の関係をも把握していく。さらに、違いをもった人間どうしが共生できる社会について解説し学びを深めていく。		
到達目標	人間は社会の中でしか生きていくことができない。ゆえに、文化を学習し社会的人間となる意義と共生社会の重要性について理解できるようになる。		
授業形態	講義	対面	

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	リハビリテーションと社会学	リハビリテーションは人間の尊厳と社会性を取り戻す働きかけ
2回	社会学とはどのような科学か	関係の科学社会学、社会の概念、社会学の成立、
3回	社会学の基本概念	集団の概念・類型、基礎集団と機能集団、社会学の対象領域、医療社会学
4回	人口減少社会を考える	日本の総人口、人口推計、感染症との共存
5回	社会的人間	社会的人間の形成、社会化の概念、文化の概念、言語的社会化
6回	社会的人間	文化の構造・機能、パーソナリティーの形成、社会化のメカニズム
7回	社会学で考える人権	感性で捉える人権、人権とは何か、人権の三本柱、グループワーク
8回	社会学で考える人権	差別の本質・構造、差別行為、多様性と異質性を受け入れる共生社会
9回	基礎集団 家族	家族の概念・特質、 家族形態の変動「核家族化・小家族化」
10回	基礎集団 家族	家族の実態「世帯構造と世帯状況、貧困世帯の現状」、家族の変動と現代化
11回	基礎集団 家族	家族機能の縮小化、家族の構造とジェンダーの視点
12回	日本の現状と抱える問題点	日本の人口動態・人口構造、少子高齢人口減少社会の動向、格差社会等

成績評価	試験50%、レポート50% 原則として60点以上で合格とする	受講上のルール・留意点	授業時間の3分の1以上欠席した者には単位を与えない
------	-----------------------------------	-------------	---------------------------

課題やレポートに関するフィードバック
必要に応じて対応する

	書名	著書名	出版社名
教科書	概要を冊子にしたもの及びPPT資料を配布		
参考書	放送大学 社会学入門、 人権読本-じんけんの詩、他	森岡清志、他 今野俊彦編著	NHK出版 明石書店
オフィスアワー	授業前後の休憩時間		

科目	人間関係論	単位・時間数	2単位・ 30時間
担当講師	川村 啓輔	学 年	1年生 後期
実績経験	資格	臨床心理士・公認心理師として、教育相談、スクールカウンセラー、私設心理相談室などで、子どもから大人まで様々な年齢層のクライアントとカウンセリングをしてきました。イメージを使った心理療法（夢分析、箱庭療法、描画法など）やプレイセラピーに関心があり、研究を続けています。実務の中で経験した事例にも触れながら講義を行います。	
	臨床心理士・公認心理師		

授業の位置づけ	対人援助職を志すみなさんにとって、人間関係やコミュニケーションに関する知識をつけることは必須です。この講義では、人間関係やコミュニケーションにおける基礎的な部分を扱います。はじめに、人間関係やコミュニケーションについての講義を行います。その中に、講師の自験例や参考書の事例などを織り交ぜていきます。その内容をもとにディスカッションをし、様々な視点から事例を捉える体験をしていただきたいと思います。また、人を相手にする職業は、相手だけでなく、同時に自分自身に向き合う必要があります。ですので、模擬的な心理検査を行ったり、ロールプレイをしたりしながら、自分自身の内面や相手を知るという機会にしていきたいと思っています。		
到達目標	臨床現場で必要とされる最も基礎的な能力は人間関係を築く力です。そのためには、人間関係やコミュニケーションに関する知識を身につけることが大切です。また、それと同時に、自分自身を知ることや他者を知ろうとすることも大切なことです。この講義では、これらのことを心がける上で必要な知識の習得を目指します。対人援助職としても、また、一人の“人”としても、他者の視点を持って、人と関われるということは大切なことです。このような、コミュニケーションの“核”となるものを身につけることを目標とします。		
授業形態	講義	対面	

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	オリエンテーション	講義内容・進め方の確認
2回	話を“聴く”こと	対人援助職とは、感情労働，バーンアウト
3回	“私”とは	心の構造や発達理論的に見た“私”について解説します。エゴグラムの実施（レ）
4回	私と私ではないもの	“私”と“私”ではないものについて、臨床心理学的に解説します。
5回	コミュニケーション①	コミュニケーションについて、カウンセリングの技法。
6回	心理検査の体験① 人は何をどう見ているのか	心理検査を用いて，“共感すること”を実践的に学びます（レ）。
7回	コミュニケーション②	コミュニケーションの中で使っているスキルについて解説します。
8回	イメージを使った交流	心理療法場面で使う描画法を通して、イメージを使った交流を体験します（レ）。
9回	コミュニケーション③	臨床場面でのコミュニケーションで留意すべき点について、臨床心理学的な観点も踏まえて解説します。
10回	心理検査の体験② 自分の心の中を表現する	描画テストを用いて、自分の内界について考えていきます（レ）。
11回	身体と心とイメージ	心と身体の繋がりについてレクチャーします。
12回	見立てと発達理論	心の発達についてレクチャーした上で、臨床心理学的な見立て（アセスメント）について解説します。
13回	子どもの臨床・大人の臨床	主に精神疾患や発達障害について取り上げます。
14回	事例検討	教科書に載っている事例を使いディスカッションをします。
15回	まとめ	全体のまとめ、学期末レポートについて

成績評価	レポートの提出	受講上のルール・留意点	授業の中で何度かレポート課題を出します（現段階ではシラバスに表記されている（レ）の回で予定）。さらに、学期末の試験として、もう1回レポート課題を出します。計5回のレポート提出によって、成績の評価をします。 ※下記の参考書『看護のための精神医学』は必要な回にコピーして配布するので、購入しなくて良いです。
------	---------	-------------	--

課題やレポートに関するフィードバック
レポートは紙媒体で提出してください。講義の中で何度か感想を提出していただく場面がありますので、その際に疑問点や質問があれば、書いてください。その次の講義でお答えします。または、講師のメールアドレスを教えますのでメールでも良いです。もちろん、授業の前後の時間で直接お声掛けいただいても構いません。

	書名	著書名	出版社名
教科書	PT・OTのためのコミュニケーション実践ガイド	山口美和	医学書院
参考書	看護のための精神医学	中井久夫・山口直彦	医学書院
オフィスアワー	授業前後の休憩時間		

		作業療法学科	夜 間 部
科 目	解剖学 I	単位・時間数	1単位・ 30時間
担当講師	五十嵐 広明	学 年	1年生 前期
実績経験	資格	東邦大学医学部教員34年（その内専任講師27年）、東京保健医療専門職大学リハビリテーション学部教授（4年）。医学博士の医学部教員として長年解剖学教育に携わって来た経験を基に、単に解剖学用語を羅列して覚えてもらう講義ではなく、その用語の深い意味合い、用語と用語の関連性などを、独自に作成した講義資料、自分で作成した顕微鏡写真、多くの蔵書から選んだ画像などを使用して講義を行う。	
	高等学校教諭二級普通免許状理科 中学校教諭一級普通免許状 理科		

授業の位置づけ	神経組織の成り立ちを学習した後、神経系がどのような過程で形成されるのか（発生）を習得する。末梢から中枢（脳、脊髄）に、あるいは中枢（脳、脊髄）から末梢に情報を伝える神経路（伝導路）を念頭に置いて、脊髄から大脳皮質に至る形で講義を進行させる。末梢から脳へ感覚を伝える代表的な感覚性神経路（上行性神経路）、伝えられた刺激に対する脳の反応を末梢に伝える運動性神経路（下行性神経路）を学んだ後、末梢神経である脳脊髄神経と自律神経系の成り立ちを習得する。最後に、中枢に伝える感覚の受容器が存在する皮膚、および視覚器、平衡聴覚器の発生と構造（つくり）および簡単な働きについて学習する。		
到達目標	神経系を構成する神経組織、および神経系の発生を理解したうえで、神経系（中枢神経系、末梢神経系）の構造（つくり）を理解する。さらに、感覚器（皮膚、視覚器、平衡聴覚器）の構造（つくり）を理解する。		
授業形態	講義	「対面授業」あるいは「対面と遠隔の併用授業」	

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	解剖学総論	解剖学とは、解剖学の歴史、解剖学用語（人体の区分と名称）
2回	組織学総論(神経組織)	組織とは、神経細胞(ニューロン)、神経終末、シナプス、神経膠細胞(グリア)
3回	神経系総論	神経系の発生と区分、脳室、脈絡叢、灰白質、白質、核、神経節、髄膜
4回	神経系各論 （中枢神経系）1	脊髄、菱脳（髄脳）：延髄
5回	神経系各論 （中枢神経系）2	菱脳（後脳）：橋、小脳
6回	神経系各論 （中枢神経系）3	中脳、前脳：間脳
7回	神経系各論 （中枢神経系）4	前脳：終脳
8回	神経系各論 （中枢神経系の神経路）1	神経路（伝導路）の種類、上行性神経路（体性感覚および深部感覚の神経路）
9回	神経系各論 （中枢神経系の神経路）2	上行性神経路(視覚の神経路、聴覚の神経路)、下行性神経路(錐体路系、錐体路系以外の神経路)
10回	神経系各論（末梢神経系）1	脳脊髄神経（脳神経）
11回	神経系各論（末梢神経系）2	脳脊髄神経（脊髄神経）
12回	神経系各論（末梢神経系）3	自律神経系（交感神経、副交感神経）
13回	感覚器1	皮膚
14回	感覚器2	視覚器〔眼球、副眼器（眼瞼、結膜、眼筋）〕
15回	感覚器3	平衡聴覚器（外耳、中耳、内耳）

成績評価	全講義終了後に筆記試験を実施して評価する(100%)。試験の問題形式は国家試験に準拠した多肢選択問題（A-type、 X2-type）とする。	受講上のルール・留意点	授業時間数の3分の1以上欠席した者には単位を与えない
------	---	-------------	----------------------------

課題やレポートに関するフィードバック

	書名	著書名	出版社名
教科書	予め配付するプリントを使用して講義を行うので、特に教科書は指定しない。		
参考書			
オフィスアワー	授業前後の休憩時間		

		作業療法学科	夜 間 部
科 目	解剖学Ⅱ	単位・時間数	1単位・ 30時間
担当講師	五十嵐 広明	学 年	1年生 前期
実績経験	資格	東邦大学医学部教員34年（その内専任講師27年）、東京保健医療専門職大学リハビリテーション学部教授（4年）。医学博士の医学部教員として長年解剖学教育に携わって来た経験を基に、単に解剖学用語を羅列して覚えてもらう講義ではなく、その用語の深い意味合い、用語と用語の関連性などを、独自に作成した講義資料、自分で作成した顕微鏡写真、多くの蔵書から選んだ画像などを使用して講義を行う。	
	高等学校教諭二級普通免許状理科 中学校教諭一級普通免許状理科		

授業の位置づけ	人体にある器官は4種類の組織（上皮組織、支持組織、筋組織、神経組織）により構成される。その組織のうち、支持組織に所属する軟骨組織と骨組織について始めに学ぶ。その上で、人体各部の骨と関節の構造（つくり）を習得する。そして筋組織および筋の一般構造と分類を学び、人体各部（頭部、頸部、背部、胸部、腹部、上肢、下肢）に分布する筋群の構成と神経支配、および筋群を構成する筋の作用を理解する。		
到達目標	運動器系を構成する骨格系に所属する人体各部の骨、およびその骨と骨とを連結する関節の構造（つくり）を理解する。その上で、同じ運動器系に所属する筋系の人体各部に分布する筋群の構成、その筋群に所属する個々の筋の付着部位（起始、停止）およびその筋の作用と神経支配を理解する。		
授業形態	講義	「対面授業」あるいは「対面と遠隔の併用授業」	

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	組織学総論1	軟骨組織
2回	組織学総論2	骨組織
3回	骨・関節学各論1	骨・関節の構造と分類
4回	骨・関節学各論2	頭蓋骨とその連結、脊柱とその連結
5回	骨・関節学各論3	胸郭とその連結、上肢骨とその連結
6回	骨・関節学各論4	骨盤とその連結、下肢骨とその連結
7回	筋組織	筋組織（平滑筋、骨格筋、心筋）
8回	筋学総論・各論	筋学総論(骨格筋の構造、基本形態、起始・停止、分類および筋の補助装置等)、筋学各論(頭部の筋)
9回	筋学各論1	頸部の筋、背部の筋
10回	筋学各論2	胸部の筋
11回	筋学各論3	腹部の筋
12回	筋学各論4	上肢の筋1
13回	筋学各論5	上肢の筋2
14回	筋学各論6	下肢の筋1
15回	筋学各論7	下肢の筋 2

成績評価	全講義終了後に筆記試験を実施して評価する(100%)。試験の問題形式は国家試験に準拠した多肢選択問題（A-type, X2-type)とする。	受講上のルール・留意点	授業時間数の3分の1を超えて欠席した者には単位を与えない
------	---	-------------	------------------------------

課題やレポートに関するフィードバック

	書名	著書名	出版社名
教科書	予め配付するプリントを使用して講義を行うので、特に教科書は指定しない。		
参考書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第5版	野村 巖 編	医学書院
オフィスアワー	授業前後の休憩時間		

		作業療法学科	夜 間 部
科 目	解剖学Ⅲ	単位・時間数	1単位・ 30時間
担当講師	五十嵐 広明	学 年	1年生 後期
実績経験	資格	東邦大学医学部教員34年（その内専任講師27年）、東京保健医療専門職大学リハビリテーション学部教授（4年）。医学博士の医学部教員として長年解剖学教育に携わって来た経験を基に、単に解剖学用語を羅列して覚えてもらう講義ではなく、その用語の深い意味合い、用語と用語の関連性などを、独自に作成した講義資料、自分で作成した顕微鏡写真、多くの蔵書から選んだ画像などを使用して講義を行う。	
	高等学校教諭二級普通免許状理科 中学校教諭一級普通免許状 理科		

授業の位置づけ	単に器官の形態と名称を覚えるだけの解剖学に止まらないように、内臓および循環器系、リンパ様器官の構造（しくみ）に関する少しレベルの高い（医学部の講義の内容に近い）知識を、器官発生学を含んだ講義を通じて習得する。		
到達目標	人体の内臓、すなわち消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系を構成する各器官の構造（しくみ）、およびこれら器官の発生を理解する。そしてさらに、循環器系とリンパ様器官に所属する器官の構造（しくみ）、およびこれらの発生を理解する。		
授業形態	講義	「対面授業」あるいは「対面と遠隔の併用授業」	

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	器官の基本構造 消化器系	中空性器官と実質性器官、消化管（口腔）
2回	消化器系 1	消化管（咽頭、食道、胃）
3回	消化器系 2	消化管（小腸、大腸）
4回	消化器系 3	消化腺（肝臓、胆嚢、膵臓）、消化管と消化腺の発生、腹膜
5回	呼吸器系 1	鼻腔、喉頭、気管、気管支
6回	呼吸器系 2	肺、胸膜、縦隔
7回	泌尿器系 1	腎臓
8回	泌尿器系 2	腎臓、尿管、膀胱、尿道
9回	生殖器系 1	泌尿生殖器系の発生、男性生殖器〔精巣、精巣上体、精管、付属腺（精嚢、前立腺、尿道球腺）、外生殖器〕
10回	生殖器系 2	女性生殖器（卵巣、卵管、子宮、膣、外生殖器）
11回	内分泌系 1	内分泌系の発生、甲状腺、上皮小体
12回	内分泌系 2	下垂体、視床下部、松果体、副腎、膵島（ランゲルハンス島）
13回	循環器系 1	I. 血管系：A：総論、血管の構成、全身の循環路、吻合と終動脈、血管壁の構造、 B. 各論 1. 心臓（含む中隔形成）
14回	循環器系 2	B. 各論 2. 肺循環 3. 体循環(a. 動脈系 b. 静脈系、含む動脈・静脈の発生) II. リンパ管系
15回	リンパ様器官・組織	リンパ小節、扁桃、リンパ節、脾臓、胸腺

成績評価	全講義終了後に筆記試験を実施して評価する(100%)。試験の問題形式は国家試験に準拠した多肢選択問題（A-type, X2-type)とする。	受講上のルール・留意点	授業時間数の3分の1以上欠席した者には単位を与えない
------	---	-------------	----------------------------

課題やレポートに関するフィードバック

	書名	著書名	出版社名
教科書	予め配付するプリントを使用して講義を行うので、特に教科書は指定しない。		
参考書	日本人体解剖学（下巻）改訂20版	金子丑之助 原著	南山堂
オフィスアワー	授業前後の休憩時間		

作業療法学科 夜 間 部			
科 目	生理学 I	単位・時間数	1単位・ 30時間
担当講師	小平 健太郎	学 年	1年生 前期
実績経験	資格	運動と健康に関わる現実的課題に対して、これまでトレーニングコーチとして運動選手から一般の方への運動指導経験を講義に反映して展開する。保健医療（理学療法・作業療法、看護、臨書検査、鍼灸理療、柔道整復 等）部門で生理学授業を担当している教員が医療従事者に必須な生体機能の調節機構について日常生活からの視点を例示しながら講義を実施する。	
	NSCA-CSCS, NSCA-CPT, 体育学修士		

授業の位置づけ	作業療法士として専門分野の理解や臨床へ応用していくためには生命現象や生体機能の調節を理解することが必要となる。また、疾患等を理解するためには正常な機能を把握することが前提となるが、普段日常生活の中でも観察できるものである。 日常的に行われている調節作用に目を向けながら、主に内臓器官の働きについて、教科書だけでなく動画教材などを活用しながら解説を行う。 講義を中心に、グループワークをまじえながら習得した知識の確認を行う		
到達目標	①人体の恒常性を説明できる、②血液の成分と生体内における機能、心臓・血管による循環器系の機能を説明できる ③呼吸機能と呼吸の調節機能を説明できる、④消化器官系の働きと栄養素、代謝について説明できる。 ⑤腎臓の機能と排泄系による調節を説明できる、⑥内分泌系による調節作用について説明できる		
授業形態	講義	対面と遠隔の併用授業	

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	生理学の基礎①	ホメオスタシスとは。細胞～個体、体組成、代謝、物質の移動
2回	生理学の基礎②	ホメオスタシスの調節：人体における情報伝達、調節機構
3回	血液	血液の組成、血球・血漿の働き
4回	循環①	心臓・血管の構造、血液の循環経路、刺激伝導系
5回	循環②	心機能の指標となる血圧・心拍数・心拍出量の概要
6回	循環③	心臓周期、循環調節
7回	呼吸①	呼吸器系の構造、呼息・吸息メカニズム
8回	呼吸②	呼吸器系の調節
9回	消化吸収	消化吸収器官の構造・経路、働き
10回	栄養素と代謝①	栄養素の役割、基礎代謝
11回	栄養素と代謝②	運動時の代謝
12回	排泄	排泄器官の構造・経路について、腎臓の働き
13回	内分泌①	内分泌系の役割、ホルモンの種類・作用
14回	内分泌②	ホルモンと糖代謝
15回	内分泌③	ホルモンと水分代謝

成績評価	試験：85%、講義内小テスト15%の合計100%で評価する。 授業時間数の3分の1以上欠席した者には単位を与えない。	受講上のルール・留意点	試験、小テストともに記述式・選択式の併用で基本事項を踏まえたものを出題する。小テストは5回実施する。
------	---	-------------	--

課題やレポートに関するフィードバック
FBは全体に対して実施する

	書名	著書名	出版社名
教科書	生理学第3版	内田さえ、原田玲子	医歯薬出版株式会社
参考書			
オフィスアワー	授業前後の休憩時間		

作業療法学科 夜間部				
科 目	生理学Ⅱ		単位・時間数	1単位・30時間
担当講師	越智 広樹		学 年	1年生 前期
実績経験	資格	経験年数 教育機関等：10年		
	獣医師			
授業の位置づけ	生理学は人体の機能を理解する学問である。本講義では、人体の運動機能を構成する神経、筋、感覚器を中心に、その構造と機能を学び、外的刺激に対する人体の反射や反応ならびに運動調節の仕組みについても学習する。また、生理学は、作業療法、臨床医学を理解する上で基礎となる科目であるため、実際に臨床で遭遇する病態の内容も踏まえて講義する。			
到達目標	①神経の構造と機能が説明できる。②筋肉の構造と機能が説明できる。③運動制御の仕組みを説明できる。④感覚器官の構造と機能を説明できる。			
授業形態	講義（対面と遠隔の併用授業）			
授業計画				
回数	項目	講義内容		
1回	神経系の基礎Ⅰ	ニューロンの構造、静止膜電位と活動電位		
2回	神経系の基礎Ⅱ	興奮伝導のしくみ		
3回	神経系の基礎Ⅲ	シナプス伝達のしくみなど		
4回	神経系の基礎Ⅳ	神経の可塑性と再生など		
5回	中枢神経系	中神経系の分類と機能		
6回	末梢神経系	末梢神経系の分類と機能		
7回	筋の構造とはたらき	筋の構造と収縮の仕組み		
8回	筋紡錘の構造と機能	筋紡錘の構造と機能、反射経路について		
9回	脊髄・脳幹における運動制御	脊髄、脳幹による運動調節		
10回	高次な運動制御	小脳、大脳基底核、大脳皮質による運動調節		
11回	感覚の一般的性質	閾値や順応など、感覚受容器の性質について		
12回	体性感覚	体性感覚の受容器と伝導路およびその機能		
13回	味覚・嗅覚	味覚・嗅覚の受容器と伝導路およびその機能		
14回	聴覚・前庭感覚	聴覚・前庭感覚の受容器と伝導路およびその機能		
15回	視覚	視覚の受容器と伝導路およびその機能		
成績評価	定期試験（筆記） 100%	受講上のルール・留意点	授業時間数の3分の1以上欠席した者には単位を与えない。	
課題やレポートに関するフィードバック				
フィードバックは講義内で全体に実施する。				
	書名		著書名	出版社名
教科書	生理学 第3版		内田さえ、原田玲子他	医歯薬出版
参考書				
オフィスアワー	授業前後の休憩時間			

科 目	生理学実習		単位・時間数	1単位・30時間
担当講師	渡辺 信博		学 年	1年生 後期
実績経験	資格	生理学の研究者（専門家）としての経験と、教育機関における非常勤講師としての経験を活かし、ヒトに備わった生理機能について理解が深まるよう実習を行います。		

授業の位置づけ	生理学実習はグループ学習が基本となります。ヒトの生理機能の基本となる、血圧や心拍、心電図、皮膚感覚、筋電図について、安静時の状態や、どのような状況（刺激）によりどのような変動を示すのかを実際に自身の体で測定してもらい、さらにグループ内で比較することで個体差についても観察します。測定機器の操作を習得することや生理機能の変化を体験すること、さらに実施した内容をレポートとして文章と図でまとめることで、生理学で学んだ内容の理解をより深めることが本実習の目的です。		
到達目標	人体の生理機能についての理解を深める		
授業形態	対面授業		

授業計画

回数	項目	講義内容
1回	実習の一般的解説	生理学実習における注意事項、授業の進め方の解説
2回	実習①～③の解説	実習内容の予習
3回	①血圧と心拍数-1	血圧と心拍を測定し、安静時および体位変換の影響を理解する
4回		
5回	②血圧と心拍数-2	血圧と心拍を測定し、運動負荷と寒冷負荷の影響を理解する
6回		
7回	③心電図	心電図を記録し、深呼吸や精神負荷の影響を理解する
8回		
9回	実習内容のまとめ又は発表会	実習内容をまとめる、または、グループで実施した実習内容についてプレゼンテーションを実施する
10回	実習④、⑤の解説	実習内容の予習
11回	④皮膚感覚	各皮膚部位による感覚点の測定を実施し、皮膚部位による感覚点の分布の違いや、冷却が皮膚感覚に及ぼす影響を理解する
12回		
13回	⑤随意運動と表面筋電図	筋電図を記録し、安静時や運動時の屈筋と伸筋の働きを理解する
14回		
15回	発表会	グループで実施した実習内容についてプレゼンテーションを実施する

成績評価	・各実習レポート 90% ・発表会やその他の提出物 10%	受講上のルール・留意点	毎実習ごとに各自レポートを作成し、次週の授業開始時に提出していただきます。また、授業時間数の3分の1以上欠席した者には単位を与えることはできません。
------	----------------------------------	-------------	--

課題やレポートに関するフィードバック
FBは講義内で全体に実施します。

	書名	著書名	出版社名
教科書	生理学実習NAVI 第3版	大橋敦子	医歯薬出版
参考書	生理学第3版	内田さえ・原田玲子ほか	医歯薬出版
オフィスアワー	授業前後の休憩時間		

作業療法学科 夜間部			
科 目	機能解剖学 I	単位・時間数	1単位・24時間
担当講師	小笹 久志	学 年	1年生 後期
実績経験	資格	実務経験：医療施設5年、教育機関10年 作業療法士として病院にて評価・治療を行ってきた実務経験を活かし、実例を交えながら講義、演習を行う。	
	作業療法士		

授業の位置づけ	解剖学での骨、筋、神経および関節を踏まえて関節運動を学び、関節可動域測定、徒手筋力検査に向けた学習を行う。 脊柱、自由上肢帯（鎖骨から手指骨）の構造と機能、筋の起始停止や神経支配などを学習する。		
到達目標	脊柱・自由上肢帯の骨、関節名、筋、などを説明することができる。 脊柱、自由上肢帯の筋活動による関節運動、起始停止、神経支配を説明することができる。		
授業形態	講義・演習	対面授業	

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	骨 総論	授業説明、骨の形態分類
2回	筋 総論	筋の解剖、機能
3回	骨 脊柱	脊柱を構成する骨
4回	筋 上肢	上肢を構成する骨
5回	神経 脊柱	脊柱を支配する神経
6回	神経 上肢	上肢を支配する神経
7回	関節 脊柱	脊柱の関節
8回	関節 上肢	上肢の関節
9回	運動 脊柱	脊柱の運動
10回	運動 上肢	上肢の運動
11回	まとめ 脊柱	脊柱のまとめ
12回	まとめ 上肢	上肢のまとめ

成績評価	筆記試験 90% 提出課題 10%	受講上のルール・留意点 提出課題は必要内容を記載して、提出期限内に提出すること。 授業時間数の3分の1を超えて欠席した者には、単位を与えない。
------	----------------------	---

課題やレポートに関するフィードバック
フィードバックは授業内でクラス全体に実施する。

	書名	著書名	出版社名
教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第5版	編集 野村 嶺	医学書院
参考書	基礎運動学 第6版 補訂 新・徒手筋力検査法 原著第10版	著 中村隆一 他 著 Dale Avers 他	医歯薬出版 協同医書出版
オフィスアワー	火、木、金 14：00～17：00位 教員室 G・mailで相談		

科 目	機能解剖学Ⅱ		単位・時間数	1単位・24時間
担当講師	山田 慶		学 年	1年生 後期
実績経験	資格	資格：作業療法士 実務経験：病院（身体障害分野）、通所リハ等 9年、教育機関 6年		
	作業療法士			

授業の位置づけ	人体の構造と運動のつながりの理解は動作分析をはじめとする作業療法評価に重要である。 この授業では、特に下肢帯における、構造物とその機能、および筋の作用や起始停止、神経支配を学習する。		
到達目標	下肢帯の骨、筋、関節の名称・場所・構造を説明できる。 下肢帯の筋の作用、起始停止、神経支配を説明できる。		
授業形態	「講義・演習」		

授業計画

回数	項目	講義内容
1回	関節総論	授業説明、関節の形態分類
2回	骨総論	骨の機能解剖
3回	骨各論	下肢帯の骨の名称、場所、構造
4回	関節各論①	骨盤・股関節の連結と関節可動域
5回	関節各論②	膝・足関節の連結と関節可動域
6回	筋・神経総論	筋・神経の機能解剖
7回	神経各論①	下肢帯の末梢神経①
8回	神経各論②	下肢帯の末梢神経②
9回	筋各論①	股関節の筋の作用、起始停止、神経支配①
10回	筋各論②	膝関節の筋の作用、起始停止、神経支配②
11回	筋各論③	足関節の筋の作用、起始停止、神経支配③
12回	まとめ	まとめ

成績評価	小テスト（30%） 定期試験（70%）	受講上のルール・留意点	・授業時間数の3分の1以上欠席した者には単位を与えません。
------	------------------------	-------------	-------------------------------

課題やレポートに関するフィードバック
フィードバックは適宜実施する。

	書名	著書名	出版社名
教科書	標準理学療法・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第5版	野村 巖	医学書院
参考書	新・徒手筋力検査法 原著第10版	Dale Avers（著），Marybeth Brown（著），津山 直一（翻訳），中村 耕三	協同医書出版
オフィスアワー	火曜日以外の午後、もしくはメール。		

		作業療法学科 夜間部	
科 目	運動学Ⅰ	単位・時間数	1単位・30時間
担当講師	田中 克一	学 年	1年生 後期
実績経験	資格	実務経験：医療・介護施設15年、教育機関4年	
	作業療法士	医療・介護施設での運動学的知識を活用した評価・介入の経験を活かし講義を行う	

授業の位置づけ	「動作分析」や「作業分析」をする上で、その基礎となる人体の筋・関節の動きに関する知識について講義する。この科目は身体障害評価学等の授業科目にも繋がる内容となっている。		
到達目標	・「身体運動の表現方法」について理解する ・「姿勢の分類」「人体の重心・重心線」「身体とてこ」について理解する ・「上肢体と上肢の運動」について理解する		
授業形態	講義	対面と遠隔の併用授業	

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	オリエンテーション 「第1章 運動学とは」	「教育目標・評価方法について」「身体運動の表現方法について」
2回	「第7章 姿勢」	復習 「姿勢の分類について」「人体の重心・重心線（アライメント）について」
3回	「第2章 生体力学の基礎」	復習 「身体とてこについて」
4回	「第4章 四肢と体幹の運動」	復習 「上肢体と上肢の運動について（肩関節複合体）」
5回		
6回		
7回		復習 「上肢体と上肢の運動について（肘複合体）」
8回		
9回		
10回		復習 「上肢体と上肢の運動について（手関節）」
11回		
12回		
13回		復習 「上肢体と上肢の運動について（手指関節）」
14回		
15回		

成績評価	小テスト3回（15%） 期末テスト1回（85%）	受講上のルール・留意点	授業時間数の3分の1以上欠席した者には単位を与えない
------	-----------------------------	-------------	----------------------------

課題やレポートに関するフィードバック
課題返却時に実施する

	書名	著書名	出版社名
教科書	基礎運動学-第6版-補訂	中村隆一 斎藤宏 長崎浩	医歯薬出版株式会
参考書	カラー図解 人体の正常構造と機能（10）運動器 カラー版 カパンディ 関節の生理学 筋骨格系のキネシオロジー	酒井健雄ら カパンディ Donald A. Neumann	医事新報社 医歯薬出版株式会社 医歯薬出版株式会社
オフィスアワー	・「月曜日午後（会議以外の時間）」またはメールで相談 ・上記以外でも空いている際はご相談ください		

		作業療法学科	夜 間 部
科 目	人間発達学	単位・時間数	1単位・30時間
担当講師	大山 敬子	学 年	1年生 後期
実績経験	資格	平成13年作業療法士免許取得後、0歳～50歳代の発達障害児者にかかわり、特別支援学校にて勤務、人間発達学の重要性を講義に取り入れていきたい。	
	作業療法士		

授業の位置づけ	胎児期から高齢期までの人間の発達について学びます。各時期において、身体的機能・運動的機能・認知的機能・情緒的社会機能がどのような相互関係で発達するのかを学習します。		
到達目標	各時期についてまとめたプリントを配布し、プリントに沿って授業を進めて行きます。		
授業形態	講義	対面授業	

授業計画		
回数	項目	
1回	オリエンテーション 人間発達学とは・胎児期	人間発達学で何を学ぶ？発達概念の歴史変遷。
2回	胎児期：反射と反応	人間の発達 は胎児期から始まっている 生きるための反射と反応
3回	新生児期	『出生から4週間目』の新生児の発達
4回	乳児期前半	『出生後4～8週』『出生後2～5ヵ月』の2つの時期。
5回	乳児期後半	『出生後5～8ヵ月』『出生後8～12ヵ月』の2つの時期。
6回	乳児期の摂食『離乳食』	哺乳から離乳食完了までの口腔機能の発達
7回	NATIONAL GEOGRAPHIC 「赤ちゃんの不思議etc」	1歳までの発達の振り返りとビデオでの学習
8回	幼児期前半（1歳台）	『12ヵ月～18ヵ月』『18ヵ月～24ヵ月』の2つの時期。
9回	幼児期前半（2歳台）	『24ヵ月～30ヵ月』『30ヵ月～36ヵ月』の2つの時期。
10回	幼児期後期（年少・年中）	『3歳代(幼少)』『4歳代(年中)』の2つの時期。
11回	幼児期後期（就学期前の1年）	『5歳代(年長・就学前)』
12回	学童期	小学生の発達
13回	青年期	『前期:中学生・高校生』『後期:18～22歳』の1つの時期。
14回	成人期	『前期:22～35歳』『中期:35～50歳』『後期：50～65歳』
15回	高齢期	『65歳～』人間は死ぬまで発達する？

成績評価	筆記試験100%	受講上のルール・留意点	授業時間数の3分の1を超えて欠席した者には単位を与えない
------	----------	-------------	------------------------------

課題やレポートに関するフィードバック

	書名	著書名	出版社名
教科書	コメディカルのための専門基礎分野テキスト 人間発達学 第3版	福田 恵美子 編集	中外医学社
参考書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 人間発達学 障害児者の摂食・嚥下・呼吸リハビリテーション		医学書院 医歯薬出版
オフィスアワー			

		作業療法学科	夜 間 部
科 目	臨床心理学	単位・時間数	2単位・30時間
担当講師	小野寺 哲夫	学 年	1年生 後期
実績経験	資格	神奈川県藤沢市教育委員会学校教育課所属学校訪問相談員として4年間、文科省認定スクールカウンセラーとして、神奈川県海老名市（8年）、大和市（3年）、鎌倉市（3年）の小中学校にて、児童生徒、保護者、教員の相談、およびカウンセリング、管理職に対するコンサルテーション等に従事してきた。2020年には国家資格公認心理師を取得。これらの実務経験を活かし、実例を交えながら講義を行う。	
	公認心理師・臨床心理士 Ph. D		

授業の位置づけ	臨床心理学は、ケアの専門家、および医療専門職が現場で患者とかかわっていく上で必須の知識でありスキルである。授業では、臨床心理学の基礎知識に加えて、代表的な心理検査法や各種心理療法の基礎知識について、臨床現場での20年のカウンセラーとしての経験から得られた実践的なカウンセリングスキルやクライアントとのエピソードを交えて解説する。授業においては、アクティブラーニングの視点から心理テストやロールプレー等の実習を積極的に取り入れた、参加型の授業を展開する。また、PT/OTの国試対策も視野に入れて授業を行っていく。		
到達目標	O T の国家試験を見据えた上での臨床心理学の基礎理論、心理検査および心理療法の各種技法の習得。		
授業形態	講義・演習	対面授業	

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	臨床心理学の概論	臨床心理学とは何か 臨床心理学の原則 臨床心理学の職業倫理
2回	臨床心理学の定義	臨床心理学の定義と臨床心理学の3つのパラダイム
3回	フロイト精神分析①	フロイト精神分析の成り立ち フロイトの局所論と構造論
4回	フロイト精神分析②	防衛機制（基礎）代表的防衛機制
5回	フロイト精神分析③	防衛機制（応用）転移と逆転移
6回	アタッチメント理論	ボウルビーのアタッチメント（愛着）理論とウィニコットの対象関係論
7回	心理アセスメント①	心理検査の定義 信頼性と妥当性 心理検査の分類
8回	心理アセスメント②	知能検査、性格検査（質問紙法・投影法）、神経心理学的検査、作業検査
9回	カール・ロジャーズ①	ロジャーズの経歴 自己理論 非指示療法から来談者中心療法まで
10回	カール・ロジャーズ②	セラピストの中核3条件 傾聴技法 十分に機能する人間
11回	交流分析①	交流分析（TA）の哲学 5つの自我状態の構造分析と機能分析
12回	交流分析②	ストローク分析 ストロークエコノミー OK牧場（人生の立場）
13回	森田療法	森田正馬の生涯 森田療法のキーワード 精神交互作用 生の欲望
14回	認知行動療法①	認知行動療法（CBT）の全体像 6つの基本原則 自動思考とスキーマ
15回	認知行動療法②	認知行動療法（CBT）の応用 認知再構成法と問題解決法

成績評価	期末レポート課題（90％）、毎回のミニレポート課題（10％）で評価する。	受講上のルール・留意点	毎回のミニレポート課題は、授業で学んだ内容について、感想や自分の意見、質問等を比較的自由に書いて提出する。 毎回の授業と試験において、教科書は必ず使用する。
------	--------------------------------------	-------------	--

課題やレポートに関するフィードバック
原則としては、毎回のミニレポート課題についてのフィードバックは行われないが、必要に応じて行う場合もある。

	書名	著書名	出版社名
教科書	『PT・OTのための臨床心理学テキスト（改訂）』	小野寺哲夫	JFAパブリッシング
参考書	伊藤絵美の認知行動療法入門講義 上・下	伊藤絵美	公益財団法人 矯正協会
オフィスアワー	「授業前後の休憩時間」		

		作業療法学科	夜間部
科 目	小児科学	単位・時間数	1単位・15時間
担当講師	江添 隆範	学 年	1年生 後期
実績経験	資格	昭和62年より、小児科医師として病院勤務。治療の経験を活かし、講義を行う。 日本小児科学会専門医	
	小児科医師		

授業の位置づけ	治療に理学療法、作業療法が重要な役割を果たす小児、思春期の疾患について講義形式で習得する。		
到達目標	小児の正常な発育、発達を知る。小児に特有な疾患を理解する。		
授業形態	講義	対面授業	

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	小児の特性、発達	発達、発育（正常）について、小児保健、小児によくみられる症状など
2回	遺伝学、新生児	臨床遺伝学について（染色体異常、遺伝子疾患） 新生児の特徴、低出生体重児、
3回	神経、筋疾患	脳奇形、てんかん、筋疾患（筋シストロフィ症、ミオパチー）
4回	神経、筋疾患	自閉スペクトラム症、AD/HDなどの発達障害
5回	心疾患、感染症	心疾患：先天性心疾患を中心に 感染症：小児期に多い感染症
6回	消化器疾患、内分泌疾患	小児の消化器疾患 ホルモンの異常による小児疾患
7回	血液・腫瘍疾患、アレルギー疾患	血液疾患：貧血、白血病、血友病 アレルギー疾患：ぜん息、アトピー性皮膚炎、食物アレルギー
8回	腎疾患、重症心身障害	腎疾患：腎炎、ネフローゼなど 重症心身障害の定義、身体的特徴と治療

成績評価	筆記試験100%	受講上のルール・留意点	パワーポイントを用いて講義。資料配布あり。
------	----------	-------------	-----------------------

課題やレポートに関するフィードバック

	書名	著書名	出版社名
教科書			医学書院
参考書			
オフィスアワー	授業後の休憩時間		

科 目	精神医学		単位・時間数	2単位・30時間
担当講師	河邊 宗知		学 年	1年生 後期
実績経験	資格	実務経験 22年 作業療法士として、精神科病院、精神科訪問看護、発達支援センターにで臨床を行う。また作業療法士養成機関で教員を努めている。		
	作業療法士/公認心理師			
授業の位置づけ	作業療法において、精神障害のリハビリテーションは起源であり、主要な対象である。その知識的基盤となる精神医学は重要な科目であるといえる。 1. 精神障害に対して、症状の特徴、経過、基本的知識を習得する。 2. 精神障害者を同じ社会で生きる人として、全人的に理解し、将来的にリハビリテーションを提供する臨床家としてかわるために基本的知識を習得する			
到達目標	精神医学の歴史および現状について説明することが出来る 主要な精神疾患の症状について説明することが出来る 精神疾患の経過や治療、生活上の困難さについて説明できる			
授業形態	講義		併用授業	

授業計画

回数	項目	講義内容
1回	総論	精神障害と診断基準（従来の診断法と操作的診断法：ICD、DSM）、精神医学の歴史、脆弱性ストレスモデル
2回	総論	精神機能の障害と精神症状（意識、注意、知能、パーソナリティ、記憶、感情、自我障害、知覚障害、思考障害、病識）
3回	総論	てんかん（分類、症状）
4回	疾患論	依存症（アルコール、その他の物質使用障害、嗜癖行動障害）
5回	疾患論	認知症、高次脳機能障害
6回	疾患論	統合失調症①（主要な精神症状、精神症状の特徴）
7回	疾患論	統合失調症②（症状と生活障害、治療、リハビリテーション）
8回	疾患論	気分障害①（大うつ病）
9回	疾患論	気分障害②（双極性障害、その他の気分障害）
10回	疾患論	神経症性障害①（不安、強迫、ストレス関連障害、解離性障害）
11回	疾患論	神経症性障害②（身体表現性障害、その他の神経症性障害）生理的障害（摂食障害他）
12回	疾患論	パーソナリティ障害（パーソナリティ概説、ICD・DSMに基づく障害分類、治療・援助）
13回	疾患論	生理的障害（摂食障害、睡眠障害ほか）、行動の障害、性の障害
14回	疾患論	器質性精神障害（認知症ほか）
15回	総論	精神科リハビリテーション、コンサルテーション・リエゾン精神医学、多職種連携、精神専門療法、作業療法

成績評価	定期試験80％ 授業での課題、授業内での確認テスト20％	受講上のルール・留意点	授業内で適宜課題や知識確認テストを行うため、授業ごとにその内容の理解を深め、不明な点は質問をしていただきたい。
------	---------------------------------	-------------	---

課題やレポートに関するフィードバック
授業内容の理解を深めるため、授業内で課題の実施や、知識確認テストを行う。結果については、次回の授業で補足、フィードバックを行う予定。

	書名	著書名	出版社名
教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学第4版増補版	編集：上野武治	医学書院
参考書	授業毎の配布資料		
オフィスアワー	主として、授業内、授業前後の時間に質問を受け付ける。 必要に応じて、メールでの連絡をしていただきたい m-koube@nichireha.ac.jp		

		作業療法学科	夜間部
科 目	リハビリテーション医学概論Ⅰ	単位・時間数	2単位・30時間
担当講師	草野 修輔	学 年	1年生 前期
実績経験	資格	20年以上にわたり、リハビリテーション専門医として、臨床においてリハビリテーション医療を行ってきた。また専門学校及び大学において、作業療法学科の学生にリハビリテーション医学の講義も行ってきた。その経験を活かし、リハビリテーション医学全般についてわかりやすく講義する。	
	リハビリテーション専門医		

授業の位置づけ	リハビリテーション医学の歴史、定義、関連職種、障害評価、各種対象疾患のリハビリテーションなどについて紹介し、これからの4年間で学習するリハビリテーション医学について、全般的理解を深めてもらう。		
到達目標	①リハビリテーションの歴史や定義、関連職種、関連法規・社会福祉制度についての説明できる。②リハビリテーションに必要な障害理解、評価法、治療法などについて説明できる。③リハビリテーションが関与する代表的な各種疾患について、病態・リハビリテーションなどについて説明できる。		
授業形態	講義		

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	リハビリテーション医学の歴史と定義、障害分類、リハ関連用語	リハビリテーション医学の歴史的背景や定義、障害分類、リハビリテーション関連用語等について紹介する
2回	リハビリテーションスタッフおよび関連職種、リハビリテーション関係法規および社会福祉制度	リハビリテーションスタッフ・関連職種、リハビリテーション関係法規・社会福祉制度について紹介する
3回	障害学（その1：運動障害・感覚障害）	リハビリテーションにおける障害評価として、運動障害・感覚障害について解説する
4回	障害学（その2：高次脳機能障害 他）	リハビリテーションにおける障害評価として、各種高次脳機能障害他について解説する
5回	各種障害の評価法・検査法、物理療法	リハビリテーションにおける各種障害評価法、関連する検査法、物理療法等について解説する
6回	補助具・義肢・自助	リハビリテーションにおける各種補装具・義肢・自助具などについて紹介する
7回	脳血管障害のリハビリテーション	脳血管障害の病態と障害、実際のリハビリテーションについて解説する
8回	脊髄損傷のリハビリテーション	脊髄損傷の病態と障害、実際のリハビリテーションについて解説する
9回	整形外科疾患のリハビリテーション	骨関節疾患、切断のリハビリテーションについて解説する
10回	小児疾患のリハビリテーション	リハビリテーションの対象となる代表的な小児疾患とそのリハビリテーションについて解説する
11回	がんのリハビリテーション	がんのリハビリテーションについて解説する
12回	内部障害のリハビリテーション	呼吸器疾患、心臓疾患等の内部障害とリハビリテーションについて解説する
13回	認知症のリハビリテーション	認知症の定義、種類、評価法、リハビリテーションについて解説する
14回	廃用症候群他のリハビリテーション	廃用症候群、ロコモ、サルコペニア等の病態とリハビリテーションについて解説する
15回	総まとめ	第1回から第14回までの講義の総まとめ

成績評価	定期試験50%＋レポート課題50%	受講上のルール・留意点	毎回、講義資料を配布するので、しっかりと復習すること
------	-------------------	-------------	----------------------------

課題やレポートに関するフィードバック
毎回、授業内容に則したミニテストを出題するので、しっかりと復習すること

	書名	著書名	出版社名
教科書	特に指定なし		
オフィスアワー	毎週火曜日および金曜日16：30～17：30		

作業療法学科 夜間部			
科目	作業療法概論	単位・時間数	1単位・30時間
担当講師	深瀬 勝久	学 年	1年生 前期
実績経験	資格	作業療法士として病院勤務などの実務経験を活かし、実例を交えながら講義を行う	
	作業療法士		

授業の位置づけ	これから4年間学び、将来的に作業療法士として働くために、作業療法とは何かを理解する。理解が深まることで今後の授業の重要性や必要性を見出していく。 作業療法の基本的な知識について、講義と演習、視聴覚教材を使用して授業を進めていく		
到達目標	作業療法について、定義や法律などを交えて説明が出来るようになる リハビリテーション・作業療法の歴史やの成り立ちを理解出来る 作業療法の流れを理解する 領域ごとの作業療法について説明ができる		
授業形態	講義・演習	対面授業・一部遠隔授業	

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	作業療法の定義	オリエンテーション
2回	作業療法の定義	定義について
3回	リハビリテーション	リハビリテーションの成り立ちについて
4回	作業療法の歴史	世界の作業療法の歴史
5回	作業療法の歴史	日本の作業療法の歴史
6回	作業療法の領域	各領域について
7回	作業療法の流れ	作業療法の一連の流れについて
8回	作業療法の実際	症例を用いて
9回	精神障害の作業療法	対象疾患・評価・治療について
10回	身体障害の作業療法	対象疾患・評価・治療について
11回	発達障害の作業療法	対象疾患・評価・治療について
12回	老年期の作業療法	対象疾患・評価・治療について
13回	療法士に求められる態度	グループワーク①学習に向き合う姿勢
14回	療法士に求められる態度	グループワーク②対象者に向き合う姿勢
15回	まとめ	グループワーク③全体のまとめ

成績評価	発表30% テスト70%	受講上のルール・留意点	グループで行う演習に関して、必ず役割を持ち、傍観者にならないこと。 評価には授業全体の2／3の出席が必要
------	-----------------	-------------	---

課題やレポートに関するフィードバック
終了後にF Bを行う。

	書名	著書名	出版社名
教科書			
参考書	標準作業療法 専門分野 作業療法概論	岩崎テル子	医学書院
オフィスアワー	月～木 14時～21時30分 教員室 k-fukase@nichireha.ac.jp		

科 目	基礎作業学	単位・時間数	1単位・24時間
担当講師	山下 高介	学 年	1年生 後期
実績経験	資格	病院勤務・訪問看護などを経験。それらの実務経験を踏まえたうえで講義を行う。	
	作業療法士		

授業の位置づけ	作業療法の作業が、何を意味しているかを学ぶ。また、作業を構成している要素や分析する視点を理解する。 授業方法：講義、演習（グループワーク）、課題など		
到達目標	作業科学と作業療法の関係について整理できる。 作業分析の際に、作業科学の知見を挙げることができる。		
授業形態	講義・演習	対面授業・一部遠隔授業	

授業計画

回数	項目	講義内容
1回	オリエンテーション	授業の進め方、成績評価について
2回	作業療法の専門性	作業療法の目的
3回	作業療法の視点	b+3B
4回	作業療法士の持つべき知識	作業療法の知識
5回	作業療法士の持つべき技術	作業療法の技術
6回	作業分析	PE0モデル
7回	確認試験	筆記試験
8回	作業分析演習①	ケース①
9回	作業分析演習②	ケース②
10回	作業分析演習③	観察演習①
11回	作業分析演習④	観察演習②
12回	まとめ	授業のまとめ

成績評価	課題 ・授業課題（70%）筆記試験（30%）	受講上のルール・留意点	3分の1を超える授業時間数を欠席したものは試験が受けられない。
------	---------------------------	-------------	---------------------------------

課題やレポートに関するフィードバック
フィードバックは全体に実施する，個別のフィードバックも相談にて可とする

	書名	著書名	出版社名
教科書	作業療法の話しよう	吉川 ひろみ	医学書院
参考書			
オフィスアワー	月～金（火除く） 14時～21時30分 教員室 メールでの対応可：k-yamashita@nichireha.ac.jp		

科 目	基礎作業学演習		単位・時間数	1単位・30時間
担当講師	松生 容一・田中 克一		学 年	1年生 後期
実績経験	資格	実務経験（松生）：病院、施設12年、教育機関18年 実務経験（田中）：医療・介護施設15年、教育機関4年		
	作業療法士	医療・介護施設での基礎作業学の知識に基づいた評価・介入経験を活かし講義を行う		

授業の位置づけ	作業療法的手段として用いられるいくつかの種目に関して、具体的にその手順・工程を実習し、技法の基本（特性、必要な身体機能・精神機能、材料・器具の特徴と使用法など）を学ぶ。		
到達目標	籐細工の特徴、道具の使い方を理解し作品を作ることができる 革細工の特徴、道具の使い方を理解し作品を作ることができる		
授業形態	演習	対面	

授業計画

回数	項目	講義内容
1回	籐細工①	籐細工の特徴を知る。道具の使い方など。
2回	籐細工②	作品づくり（コースター、かごなど）
3回	籐細工③	作品作り
4回	籐細工④	作品作り
5回	籐細工⑤	作品作り
6回	籐細工⑥	作品作り
7回	籐細工⑦	作品作り
8回	籐細工⑧	作品作り
9回	革細工①	革細工の特徴を知る。道具の使い方など。
10回	革細工②	作品づくり（コースター、財布など）
11回	革細工③	作品作り
12回	革細工④	作品作り
13回	革細工⑤	作品作り
14回	革細工⑥	作品作り
15回	革細工⑦	作品作り
16回	革細工⑧	作品作り

成績評価	作品提出（作品の出来、提出状況、レポート）	受講上のルール・留意点	授業時間数の3分の1を超えて欠席した者は単位を与えない。
------	-----------------------	-------------	------------------------------

課題やレポートに関するフィードバック
授業時間内ならびに作品完成後に行う

	書名	著書名	出版社名
教科書	作業活動 実習マニュアル 第2版	古川宏 監修	医歯薬出版
参考書	図画工作・美術用具用法辞典	相田盛二	日本文教出版
オフィスアワー	・「月曜日午後（会議以外の時間）」またはメールで相談 ・上記以外でも空いている際はご相談ください		

作業療法学科 夜間部			
科 目	身体障害評価学 I	単位・時間数	1単位・30時間
担当講師	田中 克一・山田 慶	学 年	1年生 後期
実績経験	資格	実務経験（山田）：医療・介護施設9年、教育機関6年 実務経験（田中）：医療・介護施設15年、教育機関4年 作業療法士として評価・治療を行ってきた実務経験を活かし、実例を交えながら講義、演習を行う。	
	山田：作業療法士 田中：作業療法士		

授業の位置づけ	身体障害分野の作業療法において、身体の関節可動域、筋力の評価・治療は必須となる。 解剖学で学んだ骨格・筋系や、運動学で学んだ関節運動などの知識を基礎として、自身と対象者(相手)の身体を用いて、身体の関節可動域、筋力を把握するために実施する。 関節可動域測定では、関節運動の名称、軸、角度および測定方法を解説する。 徒手筋力検査では、関節を動かす筋、腱および測定方法を解説する。 対象となる疾患・障害における、作業遂行評価について、生活行為やそれを行うのに必要な心身の活動を踏まえ説明・実施する 対象者にとって個別的な目的や価値における作業ニードの評価について説明する		
到達目標	身体障害分野における作業療法評価の目的・方法を理解する。 関節可動域測定、徒手筋力検査の基礎的な知識、技能を習得する。 健常者に対して、正しく実施できる。		
授業形態	講義・演習	対面授業	

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	評価概論	講義 身体障害作業療法における評価概論
2回	関節可動域測定	講義 関節可動域測定の概要
3回	関節可動域測定	実技演習 肩関節
4回	関節可動域測定	実技演習 肘・前腕・手関節
5回	関節可動域測定	実技演習 股関節
6回	関節可動域測定	実技演習 膝・足関節
7回	関節可動域測定	実技演習 母指・手指関節・肩甲帯
8回	徒手筋力検査	講義 徒手筋力検査の概要
9回	徒手筋力検査	実技演習 肩関節
10回	徒手筋力検査	実技演習 肘・前腕・手関節
11回	徒手筋力検査	実技演習 股関節
12回	徒手筋力検査	実技演習 膝・足関節
13回	徒手筋力検査	実技演習 母指・手指関節
14回	徒手筋力検査	実技演習 肩甲帯
15回	徒手筋力検査	実技演習 総復習

成績評価	小テスト 20％ 実技試験 40％ 筆記試験 40％	受講上のルール・留意点	実技演習の服装 ケーシー、リハシューズ、上着 アクセサリーは外しておくこと。 実技試験では、身だしなみを含めて評価する。 髪型、髪色、髭、化粧、匂い、服装、格好など。 授業時間数の3分の1以上欠席した者には、単位を与えない。
------	----------------------------------	-------------	--

課題やレポートに関するフィードバック
フィードバックはクラス全体に実施する。

	書名	著書名	出版社名
教科書	標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 第3版 新・徒手筋力検査法 原著第10版	編集 能登真一 著者 Dale Avers, Marybeth Brown	医学書院 共同医書出版社
参考書			
オフィスアワー	授業間の休憩時間		

科 目	運動学Ⅱ		単位・時間数	1単位・30時間
担当講師	山田 慶		学 年	2年生 後期
実績経験	資格	資格：作業療法士 実務経験：病院（身体障害分野）、通所リハ等 9年、教育機関 6年		
	作業療法士			

授業の位置づけ	「動作分析」を実践する上で、人体の各関節の動きに関する知識は必須である。この授業では運動学Ⅰで学習した生体力学や機能解剖学Ⅱで学習した下肢帯の構造や機能をもとに、下肢・体幹の運動に与える影響や歩行について学習する。さらに運動学習についても学習する。		
到達目標	下肢・体幹の各筋が人体のどのような動作に関与しているかを説明できる。		
授業形態	「講義・演習」 「対面と遠隔の併用授業」		

授業計画

回数	項目	講義内容
1回	総論	授業説明
2回	下肢帯と下肢の運動①	股関節の運動
3回	下肢帯と下肢の運動②	膝関節の運動
4回	下肢帯と下肢の運動③	足関節の運動
5回	頸部・体幹の運動①	頸椎の運動
6回	頸部・体幹の運動②	胸椎・胸郭の運動
7回	頸部・体幹の運動③	腰椎の運動
8回	顔面および頭部の運動①	頭部の筋と運動
9回	顔面および頭部の運動②	眼球の運動
10回	歩行①	歩行の運動学的分析
11回	歩行②	歩行の運動力学的分析
12回	歩行③	小児と高齢者の歩行
13回	歩行④	異常歩行
14回	運動学習①	運動学習の諸理論
15回	運動学習②	練習と訓練

成績評価	小テスト（20%） 定期試験（80%）	受講上のルール・留意点	・授業時間数の3分の1以上欠席した者には単位を与えません。
------	------------------------	-------------	-------------------------------

課題やレポートに関するフィードバック
フィードバックは適宜実施する。

	書名	著書名	出版社名
教科書	基礎運動学 第6版補訂	中村隆一他	医歯薬出版
参考書	筋骨格系のキネシオロジー	Donald A.Neumann	医歯薬出版
オフィスアワー	火曜日以外の午後、もしくはメール。		

科 目	運動学実習		単位・時間数	1単位・30時間
担当講師	山田 慶		学 年	2年生 後期
実績経験	資格	資格：作業療法士 実務経験：病院（身体障害分野）、通所リハ等 9年、教育機関 6年		
	作業療法士			

授業の位置づけ	作業療法において「動作分析」は治療プログラムを立案するために必要な評価である。 この授業では、解剖学、生理学、運動学の知識を用いて、ヒトの正常な基本動作がどのように成り立っているのか、また、「観察」「問題点の抽出」「支援方法の検討」といった「動作分析」の道筋を演習形式で学習する。		
到達目標	解剖学、生理学、運動学の視点から正常な基本動作の成り立ちを説明できる。 正常な基本動作の「観察記録」が記載でき、「動作分析」にどのように用いるか説明できる。		
授業形態	「講義・演習・実技」「グループワーク」		

授業計画

回数	項目	講義内容
1回	総論①	評価とは、動作分析とは
2回	総論②	観察記録と考察
3回	姿勢①	立位姿勢の観察記録
4回	姿勢②	臥位、座位姿勢の観察記録
5回	演習①	四肢の筋の作用と神経支配の復習
6回	演習②	頸部、体幹の筋の作用と神経支配の復習
7回	基本動作①	動作の記録方法、起立、着座の動作と筋活動
8回	基本動作②	寝返り、起き上がりの動作と筋活動
9回	基本動作の分析①	起立、着座の観察記録
10回	基本動作の分析②	起立、着座の動作分析
11回	基本動作の分析③	寝返り、起き上がりの観察記録
12回	基本動作の分析④	寝返り、起き上がりの動作分析
13回	動作分析演習①	基本動作ハンドリング①
14回	動作分析演習②	基本動作ハンドリング②
15回	動作分析演習③	演習

成績評価	課題提出（60%） 定期試験（40%）	受講上のルール・留意点	・授業時間数の3分の1以上欠席した者には単位を与えない。 ・課題提供日に欠席した場合には相談にくるように。 同等の課題を課す場合がある。
------	------------------------	-------------	--

課題やレポートに関するフィードバック
フィードバックは適宜実施する。

	書名	著書名	出版社名
教科書	基礎運動学 第6版補訂	中村隆一他	医歯薬出版
参考書	動作分析-臨床活用講座-	石井慎一郎	MEDICAL VIEW
オフィスアワー	火曜日以外の午後、もしくはメール。		

科目	病理学概論	単位・時間数	1単位・15時間
担当講師	何 聰（カ ソウ）	学 年	2年生
実績経験	資格		
	人体病理病態学 PhD		

授業の位置づけ	病理学は疾病の基本を扱うことから、臨床医学を学ぶうえで最も重要な基礎医学である。本授業では、実際の疾患の原因や病態から説明し、病理学を正しく深く理解した上で、病理学的な考え方を身に付けようと解説する。		
到達目標	国家試験に出題される範囲内での病理学の基本的な知識を理解する		
授業形態	講義	対面授業	

授業計画

回数	項目	講義内容
1回	病理学概要、病因論 退行性病変 進行性病変	病理学の概念、診断病理、実験病理について理解する 疾病の外因・内因を理解する 変生、萎縮、壊死、アポトーシス、肥大、過形成、化生、異型性及び再生について学ぶ
2回	代謝障害	生命を維持するための代謝及び代謝異常により引き起こされる病態について学ぶ
3回	循環障害 炎症・感染症	血液循環の基礎、循環障害の病因・病態について理解する 炎症の経過と生体の反応を理解する
4回	腫瘍	腫瘍の特徴、命名と分類、形態、悪性腫瘍の進展形式を学ぶ 進行度、発生原因と発がんメカニズムを学ぶ
5回	先天異常・奇形	遺伝性疾患、染色体異常と奇形の基礎を学ぶ
6回	循環器	心臓の疾患や血管の疾患を学ぶ
7回	呼吸器	肺や胸膜に見られる疾患、腫瘍を学ぶ
8回	神経系・運動器	脳血管障害、中枢神経系の感染症、脱髄疾患の病理学変化を学ぶ 主要な神経変性疾患の病理学的変化を学ぶ 骨、軟骨、関節、筋肉の疾患について学ぶ

成績評価	受講態度、出席状況、中間テスト、定期試験を通して総合的に評価する	受講上のルール・留意点	試験の出題範囲については、教科書で学んだ内容と国家試験の必須ポイント内です。 毎回の授業は教科書を必ず使用する。
------	----------------------------------	-------------	---

課題やレポートに関するフィードバック

--

	書名	著書名	出版社名
教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 病理学	梶原博毅 著	医学書院
参考書	ルービン カラー基本病理学	エマニュエル・ルービン著 河原ら監訳	西村書店
オフィスアワー	授業前後の休憩時間		

		作業療法学科	夜間 部
科 目	内科学・老年学Ⅰ	単位・時間数	2単位 ・30時間
担当講師	本間 博	学 年	2年生 前期
実績経験	資格	日本内科学会認定内科医、日本循環器学会専門医、日本超音波医学会専門医、日本医師会認定産業医、日本心臓病学会特別会員。今までの医科大学での内科学講義、大学病院臨床経験を活かした授業を行う。	
	医師		

授業の位置づけ	チーム医療でないと治療効果が得られないケースが多くなっている現状で、内科学・老年学を学ぶことは病態を理解し共有する点で重要である。 医療専門職として必要な内科疾患の病態・検査・治療について理解する。 また、高齢者が多くなり複数の病気を持つ場合が多いので老年学を通して高齢者の病態を理解できるようになることも大事である。 授業方法は講義中心で、課題も毎回提示する。		
到達目標	主要な内科疾患の概念を理解し、高齢者の特有な病態を説明できるようになる。 その上で検査、診断、治療といった過程を理解できるようになる。		
授業形態	講義	遠隔授業	

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	内科学総論	内科学の概念、症候学、リハビリテーションとの関係を説明できる。
2回	老年学総論	老年学の概念、症候学、リハビリテーションとの関係を説明できる。
3回	感染症 1	感染症総論：病原体の種類、感染の経過、感染経路、予防、治療を説明できる。
4回	感染症 2	代表的な細菌感染症、ウイルス感染症、真菌感染症の病態、検査、治療を説明できる。
5回	循環器疾患 1	循環生理、検査を説明できる。高血圧、メタボリックシンドロームの病態、治療の説明ができる。
6回	循環器疾患 2	急性冠症候群（狭心症、心筋梗塞）の病態、検査、治療の説明ができる。
7回	循環器疾患 3	弁膜症、先天性心疾患、心不全、不整脈の病態、検査、治療を説明できる。
8回	呼吸器疾患 1	呼吸器の解剖、機能、検査の説明ができる。感染性肺疾患の病態、検査、治療を説明できる。
9回	呼吸器疾患 2	慢性閉塞性肺疾患、拘束性肺疾患、呼吸不全の病態、検査、治療の説明ができる。腫瘍性肺疾患、アレルギー性肺疾患の病態、検査、治療を説明できる。
10回	消化器疾患 1	消化器各臓器の解剖、機能、検査を説明できる。食道、胃の疾患の病態、検査、治療の説明ができる。
11回	消化器疾患 2	小腸、大腸、腹膜疾患の病態、検査、治療を説明できる。
12回	肝、胆、膵臓疾患	肝、胆、膵の解剖、機能、検査を説明できる。各疾患の病態、検査、治療を説明できる。
13回	脳神経疾患 1	脳神経の解剖、機能、症候、検査を説明できる。
14回	脳神経疾患 2	脳血管障害の病態、検査、治療を説明できる。
15回	脳神経疾患 3	脳腫瘍、脊髄疾患、脱髄・変性疾患の病態、検査、治療を説明できる。

成績評価	定期試験	受講上のルール・留意点	定期試験は五者択一の50題。 毎回提示する課題も五者択一問題でトレーニングしていく。
------	------	-------------	--

課題やレポートに関するフィードバック
事務局を通してメールで質問を受け付ける。

	書名	著書名	出版社名
教科書	なし		
参考書	なし		
オフィスアワー	事務局を通して質問を受け付ける。		

作業療法学科				夜間 部	
科 目	内科学・老年学Ⅱ		単位・時間数	2単位・30時間	
担当講師	本間 博		学 年	2年生 後期	
実績経験	資格	日本内科学会認定内科医、日本循環器学会専門医、日本超音波医学会専門医、日本医師会認定産業医、日本心臓病学会特別会員。今までの医科大学での内科学講義、大学病院臨床経験を活かした授業を行う。			
	医師				
授業の位置づけ	チーム医療でないと治療効果が得られないケースが多くなっている現状で、内科学・老年学を学ぶことは病態を理解し共有する点で重要である。医療専門職として必要な内科疾患の病態・検査・治療について理解する。また、高齢者が多くなり複数の病気を持つ場合が多いので老年学を通して病態を理解できるようになることも大事である。授業方法は講義中心で課題も毎回提示する。				
到達目標	主要な内科疾患の概念を理解し、高齢者の特有な病態も説明できるようになる。その上で検査、診療、治療の過程を理解できるようになる。				
授業形態	講義		遠隔授業		

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	内分泌疾患 1	内分泌器官の解剖、機能を説明できる。視床下部、下垂体疾患の病態、検査、治療を説明できる。
2回	内分泌疾患 2	甲状腺、副腎、膵臓、卵巣、精巣疾患の病態、検査、治療を説明できる。
3回	糖尿病、代謝疾患	糖尿病、脂質代謝異常、痛風の病態、検査、治療を説明できる。
4回	アレルギー、免疫疾患	アレルギー、免疫のメカニズムを説明できる。 アレルギー疾患、免疫不全症の病態、検査、治療を説明できる。
5回	膠原病 1	膠原病の概念の変遷、病態、検査、治療を説明できる。
6回	膠原病 2	関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、シェーグレン症候群、強皮症、ベーチェットなどの疾患の病態、検査、治療を説明できる。
7回	腎、泌尿器疾患	腎臓、泌尿器の解剖、機能を説明できる。急性・慢性腎障害、腎不全、尿管・膀胱・前立腺疾患の病態、検査、治療を説明できる。
8回	血液浄化療法、臓器移植療法	急性腎不全症例による透析例が増加しているが、透析と移植の現状を理解する。
9回	血液疾患	血液・造血器疾患の概念の変遷、病態、検査、治療を説明できる。
10回	骨代謝と疾患、フレイル、ロコモティブ	骨の解剖、代謝を説明できる。骨粗鬆症の病態、検査、治療を説明できる。また、フレイル、ロコモティブを理解する。
11回	中毒、環境因子による疾患	中毒にはどのようなものがあり、環境要因がどのように関わっているのかを理解できる。
12回	緩和ケアと終末医療	終末医療は現在どうなっているのか、また緩和ケアの現状を理解する。
13回	IgG4関連疾患	新しい全身疾患として注目されているIgG4関連疾患について理解する。
14回	内科と皮膚疾患	内科疾患と皮膚疾患との関連について理解する。
15回	認知症	認知症とどう向き合うかを考え、理解する。

成績評価	定期試験	受講上のルール・留意点	定期試験は五者択一問題 5 0 題。毎回の課題も五者択一問題でトレーニングしていく。
------	------	-------------	--

課題やレポートに関するフィードバック
事務局を通してメールで質問を受け付ける。

	書名	著書名	出版社名
教科書	なし		
参考書	なし		
オフィスアワー	事務局を通してメールで質問を受け付ける。		

		作業療法学科	夜 間 部
科 目	整形外科学 I	単位・時間数	2単位・30時間
担当講師	武内 俊次	学 年	2年生 前期
実績経験	資格	昭和54年より、医師として病院勤務、現在は整形外科医業医として、治療を行っており、その治療経験を講義に反映させる。	
	医師		

授業の位置づけ	整形外科学は、上肢、下肢、体幹の運動器官を専門に扱う科で、骨、関節、筋肉、神経などが関係する分野である。骨折や捻挫などの外傷と、変形性関節症や関節リウマチなど、さまざまな疾患がある。 これら運動器の外傷や疾患の治療には、リハビリテーションに関わる理学療法士、作業療法士、などの参加が極めて重要である。 前期では、整形外科学の概論から、主に骨疾患、関節リウマチ等の講義を行う。 後期では、神経系の疾患や外傷、および小児整形などの特殊な項目の講義を行う。		
到達目標	整形外科学の講義、前期、後期を通じて、疾患、障害を理解して、治療手段につなげる能力を学ぶ		
授業形態	講義	対面授業	

授業計画

回数	項目	講義内容
1回	骨疾患①	1, 骨折
2回	骨疾患①	2, 骨折
3回	骨疾患②	1, 骨折の治療
4回	骨疾患②	2, 骨折の治療
5回	骨疾患③	1, 偽関節と骨壊死
6回	骨疾患③	2, 偽関節と骨壊死
7回	変形性関節症①	
8回	変形性関節症②	
9回	変形性関節症③	
10回	関節リウマチ①	診断
11回	関節リウマチ②	評価
12回	関節リウマチ③	治療
13回	関節リウマチ④	類縁疾患
14回	軟骨・関節の疾患、その他	
15回	靱帯の外傷・疾患	

成績評価	筆記試験100%	受講上のルール・留意点	全授業時間数の3分の2以上出席すること
------	----------	-------------	---------------------

課題やレポートに関するフィードバック

	書名	著書名	出版社名
教科書	はじめての講義 リハビリテーションのための整形外科学の歩き方	田中栄 監修	南江堂
参考書			
オフィスアワー	授業前後の休憩時間		

		作業療法学科	夜 間 部
科 目	整形外科Ⅱ	単位・時間数	2単位・30時間
担当講師	武内 俊次	学 年	2年生 後期
実績経験	資格	昭和54年より、医師として病院勤務、現在は整形外科医業医として、治療を行っており、その治療経験を講義に反映させる。	
	医師		

授業の位置づけ	整形外科は、上肢、下肢、体幹の運動器官を専門に扱う科で、骨、関節、筋肉、神経などが関係する分野である。骨折や捻挫などの外傷と、変形性関節症や関節リウマチなど、さまざまな疾患がある。 これら運動器の外傷や疾患の治療には、リハビリテーションに関わる理学療法士、作業療法士、などの参加が極めて重要である。 前期では、整形外科の概論から、主に骨疾患、関節リウマチ等の講義を行う。 後期では、神経系の疾患や外傷、および小児整形などの特殊な項目の講義を行う。		
到達目標	整形外科の講義、前期、後期を通じて、疾患、障害を理解して、治療手段につなげる能力を学ぶ		
授業形態	講義	対面授業	

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	腱の外傷・疾患	
2回	筋肉の外傷・疾患	
3回	末梢神経①	1， 絞扼性神経障害
4回	末梢神経①	2， 絞扼性神経障害
5回	末梢神経①	3， 絞扼性神経障害
6回	末梢神経①	4， 絞扼性神経障害
7回	末梢神経②	1， 神経根の障害
8回	末梢神経②	2， 神経根の障害
9回	末梢神経②	3， 神経根の障害
10回	脊髄疾患①	
11回	脊髄疾患②	
12回	脊髄疾患③	
13回	小児整形外科①	
14回	小児整形外科②	
15回	切断	

成績評価	筆記試験100%	受講上のルール・留意点	全授業時間数の3分の2以上出席すること
------	----------	-------------	---------------------

課題やレポートに関するフィードバック

	書名	著書名	出版社名
教科書	はじめての講義 リハビリテーションのための整形外科の歩き方	田中栄 監修	南江堂
参考書			
オフィスアワー	授業前後の休憩時間		

		作業療法学科	夜 間 部
科 目	神経内科学 I	単位・時間数	2単位・30時間
担当講師	大 供 孝	学 年	2年生 前期
実績経験	資格	医師、医学博士、リハビリテーション医学会指導医、脳神経外科学会専門医、脳卒中学会指導医。 臨床経験：病院26年（大学病院7年） 「専門医、指導医として病院にて積極的に治療を行ってきた実務経験を活かし、事例を交えながら講義を行う」	
	医師		

授業の位置づけ	脳神経内科は、疾患が多岐にわたることが特徴です。脳梗塞やてんかん、パーキンソン病、ギラン・バレー症候群、多発性硬化症、重症筋無力症、ALSなどの比較的一般的な疾患もあれば、非常に稀で、診断が簡単にはつかないような疾患もあります。教科書や参考図書を検索し勉強しながら、診察や問診には時間がかかります。難しいこともあります。知見が深まり充実を得られる科です。また、リハビリテーション診療には必須の領域です。さらに難病患者さんに寄り添うと、深く考えさせられることが多いです。高齢化に伴い神経疾患の有病率も上がり、治療が可能な疾患もどんどん増え、神経リハビリテーションの重要性は高まる一方で、将来性も抜群です。授業方法は講義中心です。 講義内容は作業療法士作業療法士国家試験出題基準に則した項目を取り上げるように配慮し、各疾患の項では、治療に加えリハビリテーションに関する記述を含めるよう努めた。また、学習意欲の向上とより効率のよい学習支援のため、参考となるウェブサイトを提示するとともに、復習と確認のために各項ごとに「復讐問題」を加えた。 日常生活での自立と社会参加の実現を支援するリハビリテーション医療では、複数の専門職が連携して取り組む必要がある。そこではそれぞれの立場からの発言が求められ、事例検討における意思の疎通を高めるため、各種専門職にとっては、疾患の確実な理解と専門用語の共有が大切である。その点でも役立つことを期待している。		
到達目標	①神経学の基礎的な知識・理解②神経解剖学および病態を理解できる思考・判断③症状・治療への関心・意欲④診察・評価の技能・表現、の習得と国家試験レベルの知識習得ができる。		
授業形態	講義	「対面と遠隔の併用授業」	

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	神経解剖	神経解剖の基礎
2回	神経生理	神経生理学の基礎
3回	神経薬理	神経薬理学の基礎
4回	分子遺伝学	分子遺伝学の基礎
5回	神経免疫学	神経免疫学の基礎
6回	神経系の発達加齢	神経系の発達と加齢
7回	病歴、診察、意識①	神経診断学、診察法
8回	病歴、診察、意識②	神経診断学、診察法（動画解説または実習）
9回	高次脳機能	各機能の理解と評価
10回	脳神経	各機能の理解と評価
11回	運動	運動機能の理解と評価
12回	感覚	感覚機能の理解と評価
13回	反射	反射の理解と評価
14回	検査	神経疾患の検査
15回	まとめ	前期内容重要項目のまとめと解説

成績評価	試験100%。マークシート方式。 「出席」は評価割合に含めず、欠格要件とします。「授業時間数の3分の1以上欠席した者には単位を与えない。	受講上のルール・留意点	試験は講義内容と教科書の赤字部分から出題します。まとめ授業で試験対策もします。試験不合格者はレポートを提出していただき、単位付与を判定します。
------	---	-------------	---

課題やレポートに関するフィードバック
試験不合格者はレポートを提出していただき、単位付与を判定します。

	書名	著書名	出版社名
教科書	神経内科学テキスト 改定第4版	江藤文夫・飯島 節 編集	南江堂
参考書	病気がみえるvol. 7 脳・神経	医療情報科学研究所	メディックメディア
オフィスアワー	学生が授業で分からないときに質問できる時間帯：各授業の最後10分程度。		

		作業療法学科	夜 間 部
科 目	神経内科学Ⅱ	単位・時間数	2単位・30時間
担当講師	大 供 孝	学 年	2年生 後期
実績経験	資格	医師、医学博士、リハビリテーション医学会指導医、脳神経外科学会専門医、脳卒中学会指導医。 臨床経験：病院26年（大学病院7年） 「専門医、指導医として病院にて積極的に治療を行ってきた実務経験を活かし、実例を交えながら講義を行う」	
	医師		

授業の位置づけ	脳神経内科は、疾患が多岐にわたることが特徴です。脳梗塞やてんかん、パーキンソン病、ギラン・バレー症候群、多発性硬化症、重症筋無力症、ALSなどの比較的一般的な疾患もあれば、非常に稀で、診断が簡単にはつかないような疾患もあります。教科書や参考図書を検索し勉強しながら、診察や問診には時間がかかります。難しいこともありますが、知見が深まり充実を得られる科です。また、リハビリテーション診療には必須の領域です。さらに難病患者さんに寄り添うと、深く考えさせられることが多いです。高齢化に伴い神経疾患の有病率も上がり、治療が可能な疾患もどんどん増え、神経リハビリテーションの重要性は高まる一方で、将来性も抜群です。授業方法は講義中心です。 講義内容は作業療法士作業療法士国家試験出題基準に則した項目を取り上げるように配慮し、各疾患の項では、治療に加えリハビリテーションに関する記述を含めるよう努めた。また、学習意欲の向上とより効率のよい学習支援のため、参考となるウェブサイトを提示するとともに、復習と確認のために各項ごとに「復讐問題」を加えた。 日常生活での自立と社会参加の実現を支援するリハビリテーション医療では、複数の専門職が連携して取り組む必要がある。そこではそれぞれの立場からの発言が求められ、事例検討における意思の疎通を高めるため、各種専門職にとっては、疾患の確実な理解と専門用語の共有が大切である。その点でも役立つことを期待している。		
到達目標	①神経学の基礎的な知識・理解②神経解剖学および病態を理解できる思考・判断③症状・治療への関心・意欲④診察・評価の技能・表現、の習得と国家試験レベルの知識習得ができる。		
授業形態	講義	「対面と遠隔の併用授業」	

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	脳卒中	脳血管疾患の概要と代表的疾患
2回	変性疾患	変性疾患の概要と代表的疾患
3回	脱髄疾患	脱髄疾患の概要と代表的疾患
4回	末梢神経	末梢神経疾患の概要と代表的疾患
5回	筋疾患	筋疾患の概要と代表的疾患
6回	神経筋接合部疾患	神経筋接合部疾患の概要と代表的疾患
7回	腫瘍	腫瘍性疾患の概要と代表的疾患
8回	脊髄	脊髄疾患の概要と代表的疾患
9回	神経感染症	神経感染性疾患の概要と代表的疾患
10回	先天性疾患	先天性疾患の概要と代表的疾患
11回	代謝、中毒性疾患	代謝、中毒性疾患、の概要と代表的疾患
12回	外傷	外傷性疾患の概要と代表的疾患
13回	自律神経、機能性疾患	自律神経、機能性疾患の概要と代表的疾患
14回	認知症	認知症性疾患の概要と代表的疾患
15回	まとめ	重要項目のまとめと解説

成績評価	試験100％。マークシート方式。「出席」は評価割合に含めず、欠格要件とします。「授業時間数の3分の1以上欠席した者には単位を与えない。	受講上のルール・留意点	試験は講義内容と教科書の赤字部分から出題します。まとめ授業で試験対策もします。試験不合格者はレポートを提出していただき、単位付与を判定します。
------	---	-------------	---

課題やレポートに関するフィードバック
試験不合格者はレポートを提出していただき、単位付与を判定します。

	書名	著書名	出版社名
教科書	神経内科学テキスト 改定第4版	江藤文夫・飯島 節 編集	南江堂
参考書	病気がみえるvol. 7 脳・神経	医療情報科学研究所	メディックメディア
オフィスアワー	学生が授業で分からないときに質問できる時間帯：各授業の最後10分程度。		

科 目	リハビリテーション医学概論Ⅱ		単位・時間数	2単位・30時間
担当講師	石川 秀志・OT学科教員		学 年	2年生 前期
実績経験	資格	OT学科教員：医療福祉領域での臨床経験を下に教授する		
	石川：文学博士・キャリアコンサルタント OT教員：作業療法士			

授業の位置づけ	この授業では、リハビリテーション概論に関する基本的知識を習得する。社会福祉やリハビリテーションとは何か。他の政策との比較や歴史的経緯をもとに理解する。		
到達目標	福祉のこころを理解し、現代社会の状況を考えていくことができる。		
授業形態	講義	併用授業	

授業計画

回数	項目	講義内容
1回	オリエンテーション	授業説明、当事者から作業療法士に（紹介）
2回	リハビリテーション評価	筋力評価
3回	リハビリテーション評価	筋力評価
4回	医療救急体制	医療救急体制とトリアージ
5回	急性期リハビリテーション	急性期リハビリテーションの概要と役割
6回	社会福祉とは	憲法の13条・25条を考えてみる
7回	社会福祉の歴史	日本の社会福祉の歴史
8回	社会福祉の歴史	ヨーロッパにおける社会福祉の歴史
9回	社会福祉法制と行財政	社会福祉の法と行財政の基礎知識について学ぶ
10回	最低生活保障と生活保護制度	貧困問題と生活保護制度について学び、貧困の背景について理解する
11回	児童家庭福祉の課題	児童の権利について学ぶ
12回	障害者総合支援法	障がい者の自立と福祉 「障害者総合支援法」の内容を学ぶ
13回	高齢者の生活と福祉	日本が直面する急速な高齢化について学ぶ
14回	地域福祉	地域において新たな支え合いについて学ぶ
15回	これからの社会福祉	東日本大震災や新型コロナウイルス感染症を乗り越えての福祉を考える

成績評価	筆記試験 レポート	受講上のルール・留意点	授業では、確認の問題を行うことがある。講義をよく聞きできるだけメモを取るようにする。私語で回りに迷惑をかけないこと。
------	--------------	-------------	--

課題やレポートに関するフィードバック
フィードバックは適宜行う

	書名	著書名	出版社名
教科書			
参考書			
オフィスアワー	授業前後の休憩時間		

		作業療法学科	夜間部
科 目	地域実習セミナー	単位・時間数	1単位・30時間
担当講師	松生 容一	学 年	2年生 後期
実績経験	資格	作業療法士：病院、老人保健施設12年、教育分野18年 作業療法士として、訪問や通所など地域にて支援してきた実務経験を活かしてオリエンテーション、演習を行う。	
	作業療法士		

授業の位置づけ	地域における施設の役割や機能、その中で働く作業療法士の業務を知ることにより、知識習得への動機づけを行うとともに、作業療法士としての基本的態度の獲得を目指す。 授業方法：演習・発表		
到達目標	・施設のしくみや役割と医療機関とのつながりを理解する。 ・作業療法士の業務と役割を理解する。 ・対象児・者を支援するチームとスタッフについて理解する。 ・地域における対象児・者の生活について理解する。 ・作業療法士の実際を見聞きし、知識習得への動機づけを行う。 ・自身の見学態度を振り返り、作業療法士としての基本的態度を獲得する。		
授業形態	演習・発表	対面授業（必要に応じて遠隔の併用授業）	

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	オリエンテーション	実習の目的や心構えについて
2回	生活行為向上マネジメント	MTDLPの講義及び演習
3回	生活行為向上マネジメント	MTDLPの講義及び演習
4回	演習（PBL）	症例検討による訪問リハ、通所リハの理解
5回	演習（PBL）	症例検討による訪問リハ、通所リハの理解
6回	演習（PBL）	症例検討による訪問リハ、通所リハの理解
7回	演習（PBL）	症例検討による訪問リハ、通所リハの理解
8回	演習	症例検討に対するグループ発表
9回	事前学習	実習施設や分野に合わせた自己学習
10回	事前学習	実習施設や分野に合わせた自己学習
11回	事前学習	実習施設や分野に合わせた自己学習
12回	実習の報告	実習の報告会
13回	実習の報告	実習の報告会
14回	実習の報告	実習の報告会
15回	実習の報告	実習の報告会

成績評価	提出物（50%） 発表（50%）	受講上のルール・留意点	単位取得には3分の2以上の出席を必要とする。
------	---------------------	-------------	------------------------

課題やレポートに関するフィードバック
FBは個別及び全体に実施する。

	書名	著書名	出版社名
教科書	無し		
参考書			
オフィスアワー	平日の午後（水曜日以外）随時可能 メールでの連絡は随時：y-matsuike@nichireha.ac.jp		

科 目	作業療法管理学		単位・時間数	2単位・30時間
担当講師	深瀬 勝久		学 年	2年生 後期
実績経験	資格	作業療法士として病院勤務などの実務経験を活かし、実例を交えながら講義を行う		
	作業療法士			

授業の位置づけ	・作業療法士は国の社会保障制度（医療保険や介護保険など）のもとで従事していることを認識する。 ・この制度下でさまざまな職業の方々と共に職務を遂行していく「多職種連携」について知る。 ・これからの日本の人口構造や制度の変化に対応できる「マネジメント力」について知る。 ・「職場管理」「組織運営」について知る。 ・専門職としての「職業倫理」を知り、日頃より意識して行動できるようにする。 ・卒業後も専門職として自己研鑽が必要であることを知る。	
到達目標	・「医療保険」と「介護保険」について対象者、保険の概要について説明することができる。 ・「障害者総合支援法」や「就労支援」について対象者や内容の説明をすることができる。 ・専門職に求められる「職業倫理」について説明することができる。 ・職場の「管理」「運営」について具体例を挙げて説明することができる。 ・「質の保証」と「リスクマネジメントについて説明できる。 ・卒後教育について説明できる。	
授業形態	講義・演習	対面と遠隔の併用授業

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	職業人として	社会人基礎力の講義 在学中に身につけることについて個人ワークとグループディスカッション。発表。＊①
2回	社会保障制度	医療保険と介護保険 保険の対象とその概要について講義後に図でまとめて理解をする。＊②
3回	障害者・障害児サービス	障害者手帳、障害者総合支援法 についての講義
4回	就労支援	就労支援に関する施設と内容 就労支援の概要を把握し居住地域の就労支援施設を調べてシートにまとめる。＊③
5回	地域における予防・保健	行政におけるリハビリテーション 地域包括ケアシステムの講義 事例の紹介
6回	職業倫理	専門職に求められる職業倫理についての講義後に自己研鑽の必要性についてグループワーク、発表。＊④
7回	身分法と倫理綱領	法律／職能団体 講義後に作業療法士として勤務できる条件についてグループワーク、発表。＊⑤
8回	業務管理	部門の役割／療法士の業務 組織、記録、診療報酬についての講義
9回	労務管理	労働条件管理や労働環境の整備についての講義、新聞記事を用いた労働に関する問題提起とグループディスカッション。発表。＊⑥
10回	組織マネジメント	組織マネジメント リーダーシップとマネジメントの講義と身近な事例のグループ検討。発表。＊⑦
11回	多職種連携と地域連携	他職種連携 講義と連携事例の紹介
12回	〃	地域連携 地域ケア会議の動画を観ての感想を記載する。＊⑧
13回	医療の質とリスクマネジメント	患者満足度と質／リスクマネジメント 日常のリスクマネジメントについての演習。＊⑨
14回	養成教育と卒後教育	養成教育と卒後教育 専門職になるためとなった後の教育についての講義
15回	〃	自己研鑽、職能団体の役割、学会、学術活動についての講義

成績評価	○＊①～⑨までの成果物（各5点×9）45点 定期試験 55点 計100点 ○授業時間数の3分の1以上欠席した者には単位を与えない	受講上のルール・留意点	スマートフォン、PCなどは指示のあったときのみ使用してください。
------	--	-------------	----------------------------------

課題やレポートに関するフィードバック
授業内は口頭フィードバック、記載したものに関してはコメントを付けて返却。

	書名	著書名	出版社名
教科書	無し		
参考書			
オフィスアワー	月～木 14時～9時30分 教員室 k-fukase@nichireha.ac.jp		

作業療法学科 夜 間 部			
科 目	身体障害評価学Ⅱ	単位・時間数	2単位・48時間
担当講師	松生 容一	学 年	2年 前期
実績経験	資格	作業療法士：病院、老人保健施設12年、教育分野18年	
	作業療法士		

授業の位置づけ	身体障害分野（主に脳卒中患者）における作業療法の実践課程の中で対象者に治療や目標プログラムを決める上で、前提として作業療法評価を行い、情報を得る必要がある。その作業療法評価に必要な、面接・観察・検査・測定などの基本的な技能や知識を身に着けるため、この授業では「身体障害評価学Ⅰ」の延長として、感覚検査、反射検査、筋緊張評価、片麻痺機能検査などの知識・技術を『講義』『演習』を通して学習していく。 ○授業方法：講義、実技演習、ディスカッションなどで、この授業は行われる。		
到達目標	○作業療法における評価の意義を説明できる ○作業療法の評価の目的と手順について、それぞれ具体的に述べることができる ○作業療法評価において「感覚検査」「反射検査並びに姿勢反射検査」「筋緊張検査」「協調性検査」「脳神経検査」「片麻痺機能検査」等について概要の説明、検査実施ができる。		
授業形態	講義・演習	対面授業を基本として行う。	

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	オリエンテーション	身体障害の作業療法評価について
2回	バイタルサインの評価	意識、脈拍、血圧、呼吸の講義及び演習
3回	感覚検査	表在感覚についての講義及び実技演習
4回		深部感覚、複合感覚についての講義及び実技演習
5回	反射検査	反射検査（深部腱、病的）についての講義
6回		反射検査（深部腱、病的）についての実技演習
7回	姿勢反射検査	姿勢反射検査についての講義及び実技演習
8回	協調性検査	協調性（運動失調）についての講義
9回		協調性（運動失調）についての実技演習
10回	脳神経検査	脳神経検査についての講義
11回		脳神経検査についての実技演習
12回	筋緊張検査	筋緊張検査についての講義及び実技演習
13回	片麻痺機能検査	ブルンストロームステージ（上肢）の講義及び実技演習
14回		ブルンストロームステージ（下肢）の講義及び実技演習
15回		ブルンストロームステージ（手指）の講義及び実技演習
16回		上田による片麻痺機能検査（上肢）の講義及び実技演習
17回		上田による片麻痺機能検査（下肢）の講義及び実技演習
18回		上田による片麻痺機能検査（手指）の講義及び実技演習
19回	上肢機能検査	上肢機能検査（STEF）についての講義及び実技演習
20回		脳卒中上肢機能検査（MFT）についての講義及び実技演習
21回	脳卒中片麻痺患者に対する評価	脳卒中片麻痺患者（模擬）に対する検査・測定の演習①（面接、観察等）
22回		脳卒中片麻痺患者（模擬）に対する検査・測定の演習②（感覚検査、反射検査等）
23回		脳卒中片麻痺患者（模擬）に対する検査・測定の演習③（片麻痺機能検査等）
24回		脳卒中片麻痺患者（模擬）に対する検査・測定の演習④（反射検査、筋緊張検査等）

成績評価	ミニテスト10% 定期試験（筆記試験）90%	受講上のルール・留意点	実技が多いため、動きやすい服装（ジャージ、Tシャツ、ケーシーなど）で臨むこと。
------	---------------------------	-------------	---

課題やレポートに関するフィードバック
フィードバックは全体に随時実施する。

教科書	書名	著書名	出版社名
	標準作業療法学 作業療法評価学 第4版	編集 能登真一 他	医学書院
	ベッドサイドの神経の診かた 改訂18版	田崎義昭、斎藤佳雄 著	南山堂
オフィスアワー	平日の午後（水曜日以外）随時可能 メールでの連絡は随時：y-matsuike@nichireha.ac.jp		

作業療法学科				夜間部
科 目	身体障害評価学演習		単位・時間数	1単位・45時間
担当講師	小笹 久志		学 年	2年生 後期
実績経験	資格	実務経験：医療施設5年、教育機関10年 作業療法士として病院にて評価・治療を行ってきた実務経験を活かし、事例を交えながら講義、演習を行う。		
	作業療法士			

授業の位置づけ	身体障害分野の作業療法提供の全体の流れを確認するため、作業療法評価および治療の概要を説明する。 この講義では、各疾患別の評価および治療を説明するため、整形外科学、内科・老年学などで学んだ疾患の理解が必須となる。そのため、すでに履修している各臨床医学の予習・復習をしておくことが望ましい。 講義内では病因・病態や障害像を再確認し、作業療法評価の意義・目的や評価項目を学び、目標設定や治療内容について説明する。			
到達目標	各疾患における病因・病態・障害像を理解する。 各疾患における評価の意義・目的や評価項目を理解する。 各疾患における目標設定や治療内容を理解する。			
授業形態	講義・演習		対面授業	

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	評価概論①	作業療法評価の概要、治療の概要
2回	評価概論②	作業療法評価のまとめ方
3回	骨折①	病因・病態・障害像の理解(上肢)
4回	骨折②	骨折の評価と治療(上肢)
5回	骨折③	病因・病態・障害像の理解(下肢)
6回	骨折④	骨折の評価と治療(下肢)
7回	疼痛①	病因・病態・障害像の理解
8回	疼痛②	疼痛の評価と治療
9回	疼痛③	疼痛の評価演習
10回	疼痛④	疼痛の治療演習
11回	関節リウマチ①	病因・病態・障害像の理解
12回	関節リウマチ②	関節リウマチの評価と治療
13回	評価演習①	演習① 関節可動域測定・徒手筋力検査
14回	評価演習②	演習② 片麻痺機能検査・筋緊張検査
15回	評価演習③	演習③ 感覚検査(表在感覚・深部感覚・複合感覚)
16回	評価演習④	演習④ 協調性検査・上肢機能検査
17回	評価演習⑤	演習⑤ 深部反射検査・姿勢反射検査
18回	評価演習⑥	演習⑥ 脳神経検査(視野検査・眼球運動検査)
19回	悪性新生物①	病因・病態・障害像の理解
20回	悪性新生物②	悪性新生物の評価と治療
21回	糖尿病①	病因・病態・障害像の理解
22回	糖尿病②	糖尿病の評価と治療
23回	評価演習⑦	身体障害評価の演習

成績評価	筆記試験 50％ 提出課題 50％	受講上のルール 留意点	提出課題は必要内容を記載して、提出期限内に提出すること。 授業時間数の3分の1を超えて欠席した者には、単位を与えない。
------	----------------------	----------------	--

課題やレポートに関するフィードバック
フィードバックは授業内でクラス全体に実施する。

	書名	著書名	出版社名
教科書	標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 第3版	編集 能登真一 他	医学書院
	作業療法学全書 改訂第3版 第4巻 作業治療学1 身体障害	編集 菅原洋子	協同医書出版
	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第5版	編集 野村 巖	医学書院
	標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学 第4版	編集 山口昇 玉垣努	医学書院
参考書	作業療法マニュアル 61 大腿骨頸部骨折/転子部骨折の作業療法 第2版 運動・からだ図解 痛み・鎮痛のしくみ	作成協力 泉良太 他 監修 橋口 さおり	作業療法士協会 マイナビ出版
オフィスアワー	火、木、金 14：00～17：00位 教員室 G-mailで相談		

作業療法学科 夜間部			
科 目	精神障害評価学	単位・時間数	1単位・30時間
担当講師	山下 高介	学 年	2年生 前期
実績経験	資 格	病院勤務・訪問看護などを経験。それらの実務経験を踏まえたうえで講義を行う。	
	作業療法士		

授業の位置づけ	作業療法は精神科領域におけるリハビリテーションの中心に据えられており、作業療法を実施するにあたって、様々な精神障害者の特徴を知り、精神科作業療法の一連の流れを理解しておく必要がある。本講義では精神科作業療法を実施する際に、初期の段階で必須となる「評価技法」について、その意義・目的・方法を解説する。精神障害のある人を理解し援助するための基礎技法は、「人を理解する」という観点から他の分野にも通用する大切な技法であり、医療従事者としては必須の能力である。		
到達目標	精神科作業療法における「評価方法」の一環として、（１）患者理解・自己理解について説明できる。（２）精神科作業療法の評価の基礎技法・要点について説明できる。		
授業形態	講義・演習	対面授業・一部遠隔授業	

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	オリエンテーション	授業の進め方，成績評価の説明，作業療法プロセス
2回	精神科作業療法に必要な評価①	作業療法特有の評価
3回	精神科作業療法に必要な評価②	心理精神機能の評価
4回	精神科作業療法に必要な評価③	認知機能の評価
5回	評価を方向づけるもの①	面接と面接評価
6回	評価を方向づけるもの②	リーズニング
7回	確認試験	筆記試験
8回	精神疾患の特性	統合失調症を中心に
9回	評価演習①	面接評価
10回	評価演習②	観察評価：AMPS
11回	評価演習③	観察評価：ESI
12回	評価演習④	観察評価：DPA
13回	評価演習⑤	心理面・精神症状の評価
14回	評価演習⑥	演習の振り返り
15回	授業のまとめ	授業全体の振り返り

成績評価	・確認試験（20%） ・ポートフォリオの作成（10%） ・課題（70%）	受講上のルール・留意点	3分の1を超える授業時間数を欠席したものは試験が受けられない。
------	--	-------------	---------------------------------

課題やレポートに関するフィードバック
フィードバックは全体に実施する，個別のフィードバックも相談にて可とする

	書名	著書名	出版社名
教科書	精神科作業療法の理論と技術	早坂 友成	メジカルビュー社
参考書			
オフィスアワー	月～金（火除く） 14時～21時30分 教員室 メールでの対応可：k-yamashita@nichireha.ac.jp		

科 目	発達障害評価学		単位・時間数	1単位・30時間
担当講師	大西 麓子		学 年	2年生 前期
実績経験	資 格	臨床・教育：50年		
	作業療法士			

授業の位置づけ	発達に障害を持つ子どもや療育者を支援するさい作業療法士は様々な評価を実施する。関わる子どもは生まれた時から障害を持っていることが多い。その障害（疾患）も様々であり、療育者への関与に関しても支援することが重要である。作業療法士が援助を開始するためには、情報を収集し、分析し、解釈しつつ子どもの課題の原因と出現のメカニズムを知る作業が必要である。情報を収集するためには臨床場面でよく実施される臨床観察や使用される評価法を学ぶ必要がある。方法としては臨床観察の仕方と標準化されている評価法を経験し臨床思考はMTDLPと照らし合わせる。自分の体をどのように動かすと、臥位から座ることができるのかな？（運動機能）握ったり、摘んだりするには目の動きや体の位置はどうなっているのかな？（巧緻運動、手と目の協調性）いつも動き回って、集中することが苦手な子どもはなぜ？（公園にある遊具はどのように動かし、脳のどこに作用するのかな）評価する方法が多くなるのでノートのととり方、配布される資料の整理をしっかりとすること。		
到達目標	発達に障害を持つ子どもの様々な疾患の基礎知識と評価の基礎から実施まで学び、必要な評価について具体的に説明ができること。		
授業形態	対面授業		

授業計画

回数	項目	講義内容
1回	発達障害領域について	発達とは 発達障害における評価の意義 症例 1
2回	発達障害の評価（粗大運動）	乳幼児の運動発達：自分の体を動かす。他人の動きを観察する
3回	発達障害の評価 （粗大運動）	乳幼時の運動発達：自分の体を動かす。他人の動きを観察する。
4回	運動発達の評価	粗大運動機能（粗大運動能力尺度等）
5回	運動発達の評価	反射・反応、筋緊張
6回	運動発達の評価	上肢機能検査 症例2
7回	標準化された評価法（量的）	全般的発達検査
8回	標準化された評価法（量的）	全般的発達検査 症例3
9回	特定の領域の検査	知覚・認知機能検査、心理・社会機能検査
10回	特定の領域の検査	知的検査等
11回	特定の領域の検査	感覚統合機能検査
12回	特定の領域の検査	感覚統合機能検査等
13回	特定の領域の検査	エハート視覚機能評価 エハート把持機能評価
14回	発達障害の評価のまとめ	症例 4 ・ 5 をみて評価・分析をする
15回	発達障害の評価のまとめ	発達障害の評価のまとめ

成績評価	・筆記試験(90%) ・レポート提出（10%）	受講上のルール・留意点	・演習では体が動きやすい服装で参加してください。 ・評価実技は沢山の練習といろんな学生さんと練習することが大切です。 ・各項目でプリントを配布します必ず持参すること
------	----------------------------	-------------	--

課題やレポートに関するフィードバック

	書名	著書名	出版社名
教科書	標準作業療法 専門分野 作業療法評価学	岩崎 テル子ら著	医学書院
オフィスアワー	授業前後の休憩時間		

作業療法学科				夜間部	
科 目	作業療法基礎演習		単位・時間数	2単位・30時間	
担当講師	深瀬 勝久 ・ 小笹 久志		学 年	2年生 後期	
実績経験	資格	実務経験（深瀬）：医療施設6年、教育機関17年 実務経験（小笹）：医療施設5年、教育機関10年 作業療法士として医療施設等にて治療を行ってきた実務経験を活かし、実例を交えながら講義・演習を行う。			
	深瀬：作業療法士 小笹：作業療法士				
授業の位置づけ	各分野の作業療法評価で学んだ知識を、演習を通して実践する。 精神分野においては、精神機能を中心に評価技法の演習を行う。 身体分野においては、身体機能を中心に評価技法の演習を行う。 作業活動や作業療法評価・治療の演習を通して、評価学や治療学で習得した知識を活用して、作業療法の実践を学ぶ。				
到達目標	作業療法評価、治療に関する検査方法、作業活動について習得する。 事例検討や演習を実践することにより、各領域の作業療法の流れを理解する。				
授業形態	講義・演習		対面授業		

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	身体分野作業療法	脊髄の解剖
2回	身体分野作業療法	脊髄の機能
3回	身体分野作業療法	脊髄損傷の病態
4回	身体分野作業療法	脊髄損傷の評価
5回	身体分野作業療法	脊髄損傷の目標設定
6回	身体分野作業療法	脊髄損傷の治療
7回	身体分野作業療法	脊髄損傷のまとめ
8回	精神分野作業療法	オリエンテーション 全体説明 精神分野
9回	精神分野作業療法	作業活動指導演習① デモンストレーション
10回	精神分野作業療法	作業活動指導演習② 作業選択
11回	精神分野作業療法	作業活動指導演習③ 作業準備
12回	精神分野作業療法	作業活動指導演習④ 作業実施 1 G
13回	精神分野作業療法	作業活動指導演習⑤ 作業実施 2 G
14回	精神分野作業療法	作業活動指導演習⑥ 作業実施 3 G
15回	精神分野作業療法	作業活動指導演習⑦ 作業実施 4 G

成績評価	提出課題 10%（小笹） 筆記試験 40%（小笹） 提出課題 50%（深瀬）	受講上のルール 留意点	提出課題は必要内容を記載して、提出期限内に提出すること。 授業時間数の3分の1を超えて欠席した者には、単位を与えない。
------	--	----------------	--

課題やレポートに関するフィードバック
フィードバックは授業内でクラス全体に実施する。

	書名	著書名	出版社名
教科書	標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 第3版	編集 能登真一 他	医学書院
	標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学 第4版	編集 山口昇 玉垣努	医学書院
	作業療法学全書 改訂第3版 第4巻 作業治療学1 身体障害	編集 菅原洋子	協同医書出版
オフィスアワー	火、水、木、金 14：00～17：00位 教員室 G-mailで相談		

		作業療法学科	夜間部
科 目	身体障害治療学Ⅰ	単位・時間数	1単位 ・ 30時間
担当講師	井口 佳晴	学 年	2年生 前期
実績経験	資格	私は、リハビリテーションセンターや国立病院機構など身体障害領域施設で実務経験を積んできました。これらの実務経験を活かして、治療技術の基本的事項について演習を交えて、解説します。	
	作業療法士		

授業の位置づけ	身体障害領域で働く作業療法士として、身に付けておくべき基本的な知識や技術について、実技を取り入れながら解説する。		
到達目標	①身体障害領域の作業療法の一連の過程を理解する。②機能障害に対する作業療法の手段を理解する。		
授業形態	講義・演習	対面授業	

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	オリエンテーション	講義 「講義の手順について・参考資料について・定期試験について」 身体作業療法の概要
2回	障害者の心理について	講義・グループディスカッション「障害者の心理について」
3回	作業療法の過程について	講義 「身体障害領域での作業療法過程について」
4回	作業療法の過程について	講義 「身体障害領域での作業療法過程について」
5回	筋力低下に対する対処手段	講義・演習「筋力低下に対する評価・対処手段について」
6回	筋力低下に対する対処手段	講義・演習「筋力低下に対する評価・対処手段について」
7回	関節可動域制限に対する対処手段	講義・演習「関節可動域制限に対する評価・対処手段について」
8回	関節可動域制限に対する対処手段	講義・演習「関節可動域制限に対する評価・対処手段について」
9回	知覚障害に対する対処手段	講義・演習「知覚障害に対する評価・対処手段について」
10回	知覚障害に対する対処手段	講義・演習「知覚障害に対する評価・対処手段について」
11回	筋緊張異常に対する対処手段	講義・演習「筋緊張異常に対する評価・対処手段について」
12回	筋緊張異常に対する対処手段	講義・演習「筋緊張異常に対する評価・対処手段について」
13回	協調性・巧緻性の低下に対する対処手段	講義・演習「協調性・巧緻性の低下に対する評価・対処手段について」
14回	協調性・巧緻性の低下に対する対処手段	講義・演習「協調性・巧緻性の低下に対する評価・対処手段について」
15回	トピックス	講義・演習「電気刺激を用いた治療について」

成績評価	筆記試験 100%	受講上のルール・留意点	講義時間数の3分の1以上欠席した者には、単位を与えない。
------	-----------	-------------	------------------------------

課題やレポートに関するフィードバック
フィードバックはクラス全体に実施する。

	書名	著書名	出版社名
教科書	作業療法学全書 改訂第3版 第4巻 作業療法学1 身体障害	菅原 洋子 編集	協同医書出版
参考書			
オフィスアワー	授業前後の休憩時間		

		作業療法学科 夜間部	
科 目	身体障害治療学Ⅱ	単位・時間数	1単位・30時間
担当講師	小笹 久志	学 年	2年生 後期
実績経験	資格	実務経験：医療施設5年、教育機関10年 作業療法士として病院にて評価・治療を行ってきた実務経験を活かし、実例を交えながら講義、演習を行う。	
	作業療法士		

授業の位置づけ	身体障害分野の作業療法提供の全体の流れを確認するため、作業療法評価および治療の概要を説明する。 この講義では、各疾患別の評価および治療を説明するため、神経内科学、内科・老年学などで学んだ疾患の理解が必須となる。そのため、すでに履修している各臨床医学の予習・復習をしておくことが望ましい。 講義内では病因・病態や障害像を再確認し、作業療法評価の意義・目的や評価項目を学び、目標設定や治療内容について説明する。		
到達目標	各疾患における病因・病態・障害像を理解する。 各疾患における評価の意義・目的や評価項目を理解する。 各疾患における目標設定や治療内容を理解する。		
授業形態	講義	対面授業	

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	脳血管障害①	脳の解剖と機能
2回	脳血管障害②	病態・障害像の理解
3回	脳血管障害③	頭部画像の見かた CT
4回	脳血管障害④	頭部画像の見かた MRI
5回	脳血管障害⑤	脳血管障害の評価 検査・測定
6回	脳血管障害⑥	脳血管障害の評価 統合・解釈
7回	脳血管障害⑦	脳血管障害の治療 予後予測・治療方針
8回	脳血管障害⑧	脳血管障害の治療 治療・訓練・指導・援助
9回	心疾患①	病態・障害像の理解
10回	心疾患②	心疾患の評価と治療
11回	呼吸器疾患①	病態・障害像の理解
12回	呼吸器疾患②	呼吸器疾患の評価と治療
13回	神経・筋疾患①	パーキンソン病の病態・障害像の理解
14回	神経・筋疾患②	パーキンソン病の評価と治療
15回	評価演習	身体障害評価の演習

成績評価	筆記試験 90% 提出課題 10%	受講上のルール 留意点	提出課題は必要内容を記載して、提出期限内に提出すること。 授業時間数の3分の1を超えて欠席した者には、単位を与えない。
------	----------------------	----------------	--

課題やレポートに関するフィードバック
フィードバックは授業内でクラス全体に実施する。

	書名	著書名	出版社名
教科書	標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 第3版 作業療法学全書 改訂第3版 第4巻 作業治療学1 身体障害標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第5版 標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学 第4版	編集 能登真一 他 編集 菅原洋子 編集 野村 巖 編集 山口昇 玉垣努	医学書院 協同医書出版 医学書院 医学書院
参考書	プロメテウス解剖学アトラス 頭頸部／神経解剖 第 脳卒中治療ガイドライン2021〔改訂2023〕	監訳 坂井 建雄 河田 光博 編集 一般社団法人日本脳卒中学会 脳卒中ガイドライン委員会	医学書院 株式会社協和企画
オフィスアワー	火、木、金 14：00～17：00位 教員室 G-mailで相談		

作業療法学科 夜間部			
科 目	精神障害治療学 I	単位・時間数	1単位・30時間
担当講師	山下 高介	学 年	2年生 後期
実績経験	資格	病院勤務・訪問看護などを経験。それらの実務経験を踏まえたうえで講義を行う。	
	作業療法士		

授業の位置づけ	作業療法は精神医療におけるリハビリテーションの中心に据えられており、評価から治療へいたる一連の流れや臨床思考過程を理解しておくことは、臨床の現場に出る前に必須のことである。そのため、作業療法の専門的な知識を活用した精神障害領域における実践について、座学と演習を通して学ぶ。		
到達目標	（１）評価から治療計画までの流れを症例検討を通して理解することができる。（２）治療構造と援助方法について理解できる。（３）作業療法理論や疾患の回復過程に応じた作業療法と援助方法について理解できる。		
授業形態	講義・演習	対面と遠隔の併用授業	

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	オリエンテーション	授業の進め方，成績評価の説明
2回	作業療法の観察視点	PE0モデルと精神症状・認知機能，疾患特性，障がい
3回	精神科作業療法における目標の考え方	作業の目標と精神症状の関係
4回	作業療法プロセス	目標と面接と観察の関係
5回	作業療法の評価と支援	作業療法特有の評価と支援
6回	精神症状の評価と支援	精神症状に対する評価と支援方法
7回	認知機能・心理面の評価と支援	認知リハビリテーションや首尾一貫感覚
8回	統合失調症	統合失調症の作業療法
9回	抑うつ症候群と双極性障害	抑うつ症候群と双極性障害の作業療法
10回	依存症候群	依存症候群の作業療法
11回	確認試験	筆記試験
12回	精神科作業療法の観察①	作業の観察
13回	精神科作業療法の観察②	認知機能と精神症状の観察
14回	精神科作業療法の評価①	評価計画の立案
15回	精神科作業療法の評価②	評価計画へのフィードバック

成績評価	・ 確認試験（20%） ・ 課題（80%）	受講上のルール・留意点	3分の1を超える授業時間数を欠席したものは試験が受けられない。
------	--------------------------	-------------	---------------------------------

課題やレポートに関するフィードバック
フィードバックは全体に実施する，個別のフィードバックも相談にて可とする

	書名	著書名	出版社名
教科書	精神科作業療法の理論と技術	早坂 友成	メジカルビュー社
参考書			
オフィスアワー	月～金（火除く） 14時～21時30分 教員室 メールでの対応可：k-yamashita@nichireha.ac.jp		

科 目	発達障害治療学Ⅰ		単位・時間数	1単位・30時間
担当講師	大西 麓子		学 年	2年生 後期
実績経験	資格	臨床・教育：50年		
	作業療法士			

授業の位置づけ	発達に何らかの障害を持つ子どもや者に対する作業療法について、障害特性を学び、発達段階ふまえ評価、支援目標や内容について学ぶ。特に治療学Ⅰでは出会う機会が多い脳性麻痺児・者、軽度発達障害児について援助方法を学ぶ。障害の特性を知る為に動画見て、記録する作業もある。		
到達目標	発達に障害を持つ児や者に対する作業療法士の役割について説明ができる。脳性麻痺児・者の多様性について説明ができ、援助方法等説明ができる。軽度発達障害児に対する作業療法・感覚統合について説明ができる。		
授業形態	対面授業		

授業計画

回数	項目	講義内容
1回	発達障害に対する作業療法の理念と役割	発達とは 発達課題とは
2回	疾患および障害の理解	発達に障害を持った児・者に対する作業療法士の役割について
3回	脳性まひ児の作業療法①	脳性麻痺児・者への理解と援助の進め方
4回	脳性まひ児の作業療法②	脳性麻痺、痙直型（四肢麻痺）
5回	脳性まひ児の作業療法③	脳性麻痺、痙直型（両麻痺）
6回	脳性まひ児の作業療法④	脳性麻痺、痙直型（片麻痺）
7回	脳性まひ児の作業療法⑤	脳性麻痺、アテトーゼ型
8回	脳性まひ児の作業療法⑥	脳性麻痺児・者への援助方法
9回	脳性まひ児の作業療法⑦	脳性麻痺児・者への援助方法・抱っこの方法
10回	セルフケア	更衣動作：自分たちで体験する
11回	セルフケア	更衣動作：自分たちで体験する
12回	軽度発達障害について	軽度発達障害の援助法の1つの感覚統合療法について
13回	軽度発達障害について	注意欠陥他動性障害。自閉スペクトラム症等の作業療法
14回	軽度発達障害について	発達性協調運動障害等の作業療法
15回	まとめ	試験の解説・質問

成績評価	・定期試験（80点） ・実技参加（20点）	受講上のルール・留意点	・定期試験は別日程にて実施 ・自分たちで体験する授業では動きやすい服装で ・実技の際はいつも決まった同士で実施しない事
------	--------------------------	-------------	---

課題やレポートに関するフィードバック

	書名	著書名	出版社名
教科書	・発達障害の作業療法 「実践編」 第3版 ・子どもの理解と援助のために[感覚統合Q＆A] 改訂第2版	岩崎清隆・岸本光夫・鴨下賢一 土田 玲子監修	三輪書店 医歯薬出版
オフィスアワー	授業前後の休憩時間		

科 目	発達障害治療学Ⅱ		単位・時間数	1単位・30 時間
担当講師	大西 麓子		学 年	2年生 後期
実績経験	資格	臨床・教育：50年		
	作業療法士			

授業の位置づけ	発達に障害を持つ子供たちには、生命維持・身体を成長させる・楽しい場面・様々な体の使い方が必要な摂食・食事場面が問題になることが多い。両親もなかなか援助しにくい動作である。ここでは自分で食べたり、食べさせてもらい口腔機能だけでなく姿勢や筋緊張、援助の仕方を学ぶ。また私たちの援助を待っている子どもたち（進行性筋萎縮症、重症心身障害児・者、小児精神疾患の子どもたちについても学ぶ。子どもたちを援助するためにはおもちゃや体を大きく動かす遊具をよく使う。それらで遊びながら分析することが大切である。		
到達目標	障害を持つ子供の摂食・食事動作の意義を述べることができ、実際に援助ができること。3つの疾患関して説明できること。治療的玩具を作り、その必要性について説明できること。感覚統合療法で使用する遊具の意義をの出すことができること。		
授業形態	対面授業		

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	セルフケア（摂食・食事動作）	実際に自分で固形物・半固形物・水分を食べ、飲んで口腔内の動きを分析する。
2回	セルフケア（摂食・食事動作）	他人に食べさせてもらう（自分で食べた時の感覚は）。
3回	セルフケア（摂食・食事動作）	人に食べさせる（食べさせる時の感じ）。
4回	セルフケア（摂食・食事動作）	口腔内の動きはどうなっているのか実際に経験して、どんなことが必要なのか分析する。
5回	神経・筋疾患の作業療法	神経・筋疾患の作業療法の実際
6回	神経・筋疾患の作業療法	神経・筋疾患の作業療法の実際
7回	重症心身障害児・者の作業療法	重症心身障害児・者の作業療法
8回	重症心身障害児・者の作業療法	重症心身障害児・者の作業療法
9回	小児・思春期における精神障害の作業療法	小児・思春期における精神障害の作業療法
10回	小児・思春期における精神障害の作業療法	小児・思春期における精神障害の作業療法
11回	遊びの治療的活用	おもちゃを作ろう：どんなおもちゃをなんのために作るか？
12回	遊びの治療的活用	おもちゃの活動分析をする。
13回	感覚統合療法で使用する遊具の治療的活用	感覚統合療法で使用する遊具で遊んでみよう
14回	感覚統合療法で使用する遊具の治療的活用	感覚統合療法で使用する遊具で遊んでみて、活動分析をする
15回	まとめ	試験の解説・質問

成績評価	・記述試験（80点） ・レポート（20点）	受講上のルール・留意点	・定期試験は別日程にて実施 ・摂食・食事指導の実技では動きやすい服装で ・感覚統合療法で使用する遊具で遊ぶ時も動きやすい服装 ・積極的に遊具に挑んでください
------	--------------------------	-------------	---

課題やレポートに関するフィードバック

	書名	著書名	出版社名
教科書	・発達障害の作業療法「実践編」第3版 ・子どもの理解と援助のために〔感覚統合Q＆A〕	岩崎清隆・岸本光夫・鴨下賢一 土田 玲子監修	三輪書店 協同医書
オフィスアワー	授業前後の休憩時間		

		作業療法学科	夜間音
科 目	日常生活活動学	単位・時間数	1単位・30時間
担当講師	田中 克一	学 年	2年生 前期
実績経験	資格	実務経験：医療・介護施設15年、教育機関4年	
	作業療法士	医療・介護施設での日常生活活動に対する評価・介入経験を活かし講義を行う	

授業の位置づけ	作業療法は「人は作業を通して健康や幸福になる」という基本理念と学術的根拠に基づいて行われ、作業には、日常生活活動、家事、仕事、趣味、遊び、対人交流、休養など、人が営む生活行為が含まれる（日本作業療法士協会 2018）。 対象となる疾患・障害における、作業遂行評価について、生活行為やそれを行うのに必要な心身の活動を踏まえ説明・実施する。 対象者にとって個別的な目的や価値における作業ニードの評価について説明する。 作業療法の専門性として、MTDLP事例を通した治療に至る考え方についても学ぶ。 本講義では作業療法士が日常生活活動に介入する上で基本となる知識について講義する。本講義は身体障害、老年期障害評価学・治療学等に繋がる内容となっている。		
到達目標	・日常生活活動の概念・範囲・ICFについて理解する ・ADL, IADL, QOL, 生きがいの評価の概要、人-作業-環境モデルについて理解する ・生活行為（食事・入浴・排泄）の基本事項について理解する ・各疾患別特性による日常生活動作障害について理解する		
授業形態	講義・演習	対面授業	

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	オリエンテーション・日常生活動作の概念について	日常生活動作の概念・範囲・ICF
2回	ADL評価法について	ADL評価法（特にBarthel Index）の特徴
3回	ADL評価法について	ADL評価法（特にFIM）の特徴
4回	IADL評価法について	IADL評価法・人-作業-環境モデル
5回	QOL評価法について	QOL・生きがいの評価法
6回	生活行為（食事）について	食事という生活行為の基本事項について
7回	生活行為（排泄）について	排泄という生活行為の基本事項について
8回	生活行為（入浴）について	入浴という生活行為の基本事項について
9回	各疾患別特性による日常生活動作障害について	脳卒中
10回	各疾患別特性による日常生活動作障害について	高次脳機能障害
11回	各疾患別特性による日常生活動作障害について	脊髄小脳変性症・パーキンソン病
12回	各疾患別特性による日常生活動作障害について	ALS
13回	各疾患別特性による日常生活動作障害について	RA
14回	各疾患別特性による日常生活動作障害について	脊髄損傷
15回	各疾患別特性による日常生活動作障害について	認知症

成績評価	期末テスト（100%）	受講上のルール・留意点	授業時間数の3分の1以上欠席した者には単位を与えない
------	-------------	-------------	----------------------------

課題やレポートに関するフィードバック
課題返却時に実施する

	書名	著書名	出版社名
教科書	ADLとその周辺 第3版	伊藤利之 鎌倉矩子	医学書院
参考書			
オフィスアワー	・「月曜日午後（会議以外の時間）」またはメールで相談 ・上記以外でも空いている際はご相談ください		

科 目	地域作業療法学Ⅰ		単位・時間数	1単位・30時間
担当講師	田中 克一		学 年	2年生 後期
実績経験	資格	実務経験：医療・介護施設15年、教育機関4年		
	作業療法士	医療・介護施設での訪問・通所リハビリテーションや予防的作業療法実践の経験を活かし講義を行う		

授業の位置づけ	どのような障害があっても、また年老いても、住み慣れた所で安心して、その人らしく暮らしていく為に地域における作業療法の重要性が高まっている。 本講義では地域共生社会・地域包括ケアシステムの構築における社会的背景やその概要ならびに、その中での作業療法士の実践的な活動について理解を深め、3年次以降の学びにおいて地域に目を向けることができるようになることが目標である。 また専門性ある思考として、対象者の活動と参加に焦点を当てたアプローチを踏まえ、MTDLPの概要やMTDLPを用いた地域でのリハビリテーション事例についても学習をしていきます。		
到達目標	・地域共生社会、地域包括ケアシステムの構築における作業療法士の役割について理解する ・地域資源の把握方法や多職種連携、「地域に出て活動すること」を理解する ・生活行為向上マネジメントの概要について理解する		
授業形態	講義・演習	対面授業	

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	オリエンテーション	オリエンテーション・地域作業療法概論
2回	地域共生社会	地域共生社会・地域包括ケアシステム・介護予防・日常生活支援総合事業について
3回	多職種連携	多職種連携・地域作業療法におけるコミュニケーションの基本について
4回	地域資源①	①地域資源の把握と活用について②自身の住んでいる地域を知る
5回	地域資源②	
6回	福祉機器・住宅改修①	(国際福祉機器展に参加) ①福祉機器に触れてその用途について理解する ②福祉機器についてまとめる ③住宅改修について理解する ④住宅改修についてまとめる
7回	福祉機器・住宅改修②	
8回	福祉機器・住宅改修③	
9回	福祉機器・住宅改修④	
10回	生活行為向上マネジメント	生活行為向上マネジメントの概要
11回	住環境整備	住宅改修、手すり設置等
12回	車椅子	車椅子の種類、適合寸法
13回	予防的作業療法②	訪問C、通所C、地域ケア会議における作業療法士の役割、実際
14回	訪問・通所リハ	訪問・通所リハビリテーションにおける作業療法の役割、実際
15回	地域での取り組み	子ども食堂・認知症カフェ・釣りリハ・バリアフリースター・高次脳サロン・自動車運転支援等

成績評価	課題提出で評価	受講上のルール・留意点	授業時間数の3分の1以上欠席した者には単位を与えない
------	---------	-------------	----------------------------

課題やレポートに関するフィードバック
フィードバックは個々ならびに全体に適宜実施する

	書名	著書名	出版社名
教科書	事例で学ぶ 生活行為向上マネジメント 最新作業療法学講座 地域作業療法学	日本作業療法士協会 小林法一・小林隆司	医歯薬出版株式会社
参考書	作業療法マニュアル57 生活行為向上マネジメント 改訂第3版	日本作業療法士協会	
オフィスアワー	・「月曜日午後（会議以外の時間）」またはメールで相談 ・上記以外でも空いている際はご相談ください		

		作業療法 学科	夜間 部
科 目	地域実習	単位・時間数	1単位・45時間
担当講師	作業療法学科教員	学 年	2年生 後期
実績経験	資格		
	作業療法士		

授業の位置づけ	地域実習は、臨床実習指導者のもとで、地域で支援を必要とする人々や、その家族に作業療法を用いた援助を提供するための知識・技術を習得することを目的とする。 1. 地域における作業療法および作業療法士の役割と機能を学ぶ 2. 臨床実習指導者の指導、援助のもとに、地域での支援や援助の実際的方法を学ぶ 3. 地域包括ケアシステムや生活行為の重要性について学ぶ		
到達目標	今までの学内での講義・演習で修得した、知識をもとに、指導者の指導・援助のもと、地域での作業療法士の役割や、対象児・者への支援・援助を理解することを目標とする。 ①作業療法学生としての礼儀・礼節・接遇が体现でき、基本的なルールを遵守することができる。 ②実習に意欲的に取り組むことが出来る ③地域での作業療法および作業療法士の役割について説明することが出来る ④地域での他職種連携について、事例を用いながら説明することが出来る ⑤生活行為、および生活行為向上マネジメントの必要性を説明できる		
授業形態	講義・演習・実習	対面授業	

授業計画

実習前・臨床実習・実習後の学習上の注意点			
実習前 ①地域実習に関連する授業の指定教科書等・講義資料のポイントは実習前に整理し、確認すること。 ②地域包括ケアシステム、生活行為向上マネジメントの知識を整理し、確認すること。 臨床実習 ①臨床現場では作業療法分野だけでなく、多職種連携を常に思い浮かべて、広範囲の知識と技術を体系的に学んでいく。 ②臨床現場では積極的に様々なことを体験、見学するように努めること。 ③習得した知識は毎日書類（ポートフォリオ）として記録すること。 実習後 ①実習中に学んだ点を整理し、発表の準備を行うこと。 ②必要に応じて実習担当者と面談し、実習の総括を実施すること。 ③実習の成果を書類にまとめ、提出すること。			

成績評価	実習地評価、課題・提出物をもとに総合的に判断する。	受講上のルール・留意点	原則として遅刻、早退、欠席は認めない。
------	---------------------------	-------------	---------------------

課題やレポートに関するフィードバック
実習地での課題やレポートのフィードバックは実習地で実施する。また、実習全体に対する相談およびフィードバックは、「実習中の電話やメール」「臨床実習地訪問の面談時」「実習終了後」に担当教員からも行う。

	書名	著書名	出版社名
教科書	臨床実習の手引き	学校資料	
参考書			
オフィスアワー	担当教員への連絡は電話またはメールで随時可能		

科 目	作業療法研究法	単位・時間数	1単位・15時間
担当講師	河邊 宗知	学 年	3年生 後期
実績経験	資格	実務経験 22年 作業療法士として、精神科病院、精神科訪問看護、発達支援センターにて臨床を行う。また作業療法士養成機関で教員を努めている。	
	作業療法士/公認心理師		

授業の位置づけ	リハビリテーションや作業療法における研究の意義を考え、研究に必要な基本的な知識や方法論を習得する。研究法の楽手を通して、問題解決への積極的な意欲や探究心を養う。授業内で研究疑問の提出から、模擬的な研究計画書の作成までを体験する。		
到達目標	研究の目的、研究様式、研究の流れ、方法について学ぶ。研究の倫理について学ぶ。文献の探し方、読み方、文献レビューの方法について学ぶ。 1. 研究の一連の過程について説明することが出来る 2. エビデンスとエビデンスのレベルについて説明することが出来る 3. 各研究デザインの相違について説明することが出来る 4. 研究倫理の重要性について説明することが出来る 5. 文献レビューの重要性について説明し、文献検索を行うことが出来る		
授業形態	講義・演習	併用授業	

授業計画

回数	項目	講義内容
1回	研究法総論	研究とは、研究の基礎知識、エビデンスとエビデンスのレベルについて
2回	文献検索	文献検索の方法 文献の批判的吟味 演習1：研究疑問
3回	研究計画	研究倫理、研究計画と研究計画書
4回	量的研究	実験研究、準実験研究 演習2：研究疑問を深める
5回	量的研究	シングルシステムデザイン
6回	調査研究	アンケート調査、質問項目、選択肢の作成 演習3：研究の方法の策定
7回	質的研究	事例研究 グラウンデッドセオリーアプローチ など
8回	研究計画の作成	まとめ 演習4：計画書の作成

成績評価	授業内での作成課題 100%	受講上のルール・留意点	授業回数が少ないが、毎回の課題作成が必要となるため、授業への積極的な参画が必要とされる。
------	----------------	-------------	--

課題やレポートに関するフィードバック
授業内容の理解を深めるため、授業内で課題の実施やレポートの作成を行う。必要に応じて、提出課題についてのフィードバックを行う。

	書名	著書名	出版社名
教科書	特になし		
参考書	授業毎の配布資料		
オフィスアワー	主として、授業内、授業前後の時間に質問を受け付ける。 必要に応じて、メールでの連絡をしていただきたい m-koube@nichireha.ac.jp		

科 目	作業療法特講		単位・時間数	1単位・24時間
担当講師	田中克一・外部講師		学 年	3年生 前期
実績経験	資格	作業療法士として病院勤務などの実務経験を活かし、実例を交えながら講義を行う。 専任教員・外部講師が自分の担当する対象者の症例報告を通して実践的な講義を行う。		
	作業療法士			

授業の位置づけ	症例報告を通して作業療法の評価・治療について理解を深める。 各領域での臨床に触れ、その内容について理解できるようになる。		
到達目標	領域ごとの治療について理解できる。 領域ごとに合わせた理論を習得する。 領域ごと、評価や治療で用いられる検査・評価方法について理解できる。		
授業形態	講義・演習		対面授業・一部遠隔授業の可能性あり

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	オリエンテーション	臨床実習について
2回	オリエンテーション	臨床実習について
3回	症例検討	身体障害領域の症例検討
4回	症例検討	身体障害領域の症例検討
5回	症例検討	身体障害領域の症例検討
6回	症例検討	身体障害領域の症例検討
7回	症例検討	精神障害領域の症例検討
8回	症例検討	精神障害領域の症例検討
9回	症例検討	発達領域の症例検討
10回	症例検討	発達領域の症例検討
11回	症例検討	老年期障害の症例検討
12回	症例検討	老年期障害の症例検討

成績評価	症例検討報告30% レポート70%	受講上のルール・留意点	課題提出は締め切り厳守 評価には授業全体の2/3の出席が必要
------	----------------------	-------------	-----------------------------------

課題やレポートに関するフィードバック
フィードバックは全体に実施する

	書名	著者名	出版社名
教科書	なし		
参考書	各領域の教科書・授業資料		
オフィスアワー	・「月曜日午後（会議以外の時間）」またはメールで相談 ・上記以外でも空いている際はご相談ください		

作業療法学科 夜間部			
科 目	作業療法総合演習 I	単位・時間数	2単位・60時間
担当講師	作業療法学科 教員	学 年	3年生 後期
実績経験	資格	各分野担当の教員 作業療法士として医療・療養・介護・療育施設にて治療を行ってきた実務経験を活かし、実例を交えながら講義・演習を行う。	
	作業療法士		

授業の位置づけ	臨床実習 I の実施前に、実習直前の準備教育を行う。 1)身体障害系セミナー 2)老年期障害系セミナー 3)発達障害系セミナー 4)精神障害系セミナー 各評価学・治療学の振り返りの講義、実技演習。		
到達目標	事例報告を中心とした演習、評価実技などを共同学習において学び、評価実習や総合実習で必要な知識を確認する。各領域の評価学・治療学などの振り返りを通じて、作業療法についての理解を深める。		
授業形態	演習	対面と遠隔の併用授業	

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	オリエンテーション	作業療法総合演習 I の全体説明
2回	評価演習	身体障害分野① 情報収集
3回	評価演習	身体障害分野② 面接、観察
4回	評価演習	身体障害分野③ 検査
5回	評価演習	身体障害分野④ 測定
6回	評価演習	身体障害分野⑤ 全体像のまとめ
7回	評価演習	身体障害分野⑥ 目標設定
8回	評価演習	身体障害分野⑦ 考察
9回	評価演習	老年期障害分野① 情報収集
10回	評価演習	老年期障害分野② 面接、観察
11回	評価演習	老年期障害分野③ 検査
12回	評価演習	老年期障害分野④ 測定
13回	評価演習	老年期障害分野⑤ 全体像のまとめ
14回	評価演習	老年期障害分野⑥ 目標設定
15回	評価演習	老年期障害分野⑦ 考察
16回	評価演習	発達障害分野① 情報収集
17回	評価演習	発達障害分野② 面接、観察
18回	評価演習	発達障害分野③ 検査
19回	評価演習	発達障害分野④ 測定
20回	評価演習	発達障害分野⑤ 全体像のまとめ
21回	評価演習	発達障害分野⑥ 目標設定
22回	評価演習	発達障害分野⑦ 考察
23回	評価演習	精神障害分野① 情報収集
24回	評価演習	精神障害分野② 面接、観察
25回	評価演習	精神障害分野③ 検査
26回	評価演習	精神障害分野④ 測定
27回	評価演習	精神障害分野⑤ 全体像のまとめ
28回	評価演習	精神障害分野⑥ 目標設定
29回	評価演習	精神障害分野⑦ 考察
30回	まとめ	全体の振り返り、まとめ

成績評価	提出課題 50% 事例報告評価 50%	受講上のルール・留意点	提出課題は必要内容を記載して、提出期限内に提出すること。 単位取得には3分2以上の出席を必要とする。
------	------------------------	-------------	---

課題やレポートに関するフィードバック
フィードバックはクラス全体に実施する。

作業療法学科 夜間部			
科 目	作業療法臨床セミナー I	単位・時間数	2単位・60時間
担当講師	作業療法学科 教員	学 年	3年生 後期
実績経験	資格	分野担当ごとの各教員 作業療法士として医療・療養・介護・療育施設にて治療を行ってきた実務経験を活かし、実例を交えながら講義・演習を行う。	
	作業療法士		

授業の位置づけ	臨床実習Ⅰの実施前に、実習直前の準備教育を行う。 1)身体障害系セミナー 2)老年期障害系セミナー 3)発達障害系セミナー 4)精神障害系セミナー 専門領域別に事例報告を行い、質疑応答、討論を行う。 領域別の事例報告を踏まえて臨床実習Ⅱの準備学習を行う。		
到達目標	事例報告を中心とした相互学習を通じて、実習経験を共有し、次期の評価実習や総合実習に必要な知識を習得する。		
授業形態	演習	対面と遠隔の併用授業	

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	オリエンテーション	作業療法臨床セミナーⅠの全体説明
2回	事例のまとめ	レポート・レジュメのまとめ方① 情報収集(一般、社会的、医学的)
3回	事例のまとめ	レポート・レジュメのまとめ方② 作用療法評価(面接、観察、検査・測定)
4回	事例のまとめ	レポート・レジュメのまとめ方③ 全体像のまとめ
5回	事例のまとめ	レポート・レジュメのまとめ方④ 目標設定 考察
6回	事例発表	身体障害分野① 症例A 発表
7回	事例発表	身体障害分野② 症例A 検討
8回	事例発表	身体障害分野③ 症例B 発表
9回	事例発表	身体障害分野④ 症例B 検討
10回	事例発表	身体障害分野⑤ 症例C 発表
11回	事例発表	身体障害分野⑥ 症例C 検討
12回	事例発表	老年期障害分野① 症例D 発表
13回	事例発表	老年期障害分野② 症例D 検討
14回	事例発表	老年期障害分野③ 症例E 発表
15回	事例発表	老年期障害分野④ 症例E 検討
16回	事例発表	老年期障害分野⑤ 症例F 発表
17回	事例発表	老年期障害分野⑥ 症例F 検討
18回	事例発表	発達障害分野① 症例G 発表
19回	事例発表	発達障害分野② 症例G 検討
20回	事例発表	発達障害分野③ 症例H 発表
21回	事例発表	発達障害分野④ 症例H 検討
22回	事例発表	発達障害分野⑤ 症例I 発表
23回	事例発表	発達障害分野⑥ 症例I 検討
24回	事例発表	精神障害分野① 症例J 発表
25回	事例発表	精神障害分野② 症例J 検討
26回	事例発表	精神障害分野③ 症例K 発表
27回	事例発表	精神障害分野④ 症例K 検討
28回	事例発表	精神障害分野⑤ 症例L 発表
29回	事例発表	精神障害分野⑥ 症例L 検討
30回	まとめ	全体の振り返り、まとめ

成績評価	提出課題 50% 事例報告評価 50%	受講上のルール・留意点	提出課題は必要内容を記載して、提出期限内に提出すること。 授業時間数の3分の1を超えて欠席した者には、単位を与えない。
------	------------------------	-------------	--

課題やレポートに関するフィードバック
フィードバックはクラス全体に実施する。学生的事例報告を踏まえて、適宜フィードバックを行う。

		作業療法 学科		夜 間 部
科 目	身体障害治療学Ⅲ		単位・時間数	1単位・30時間
担当講師	伊藤伸 仲木右京 木下修		学 年	3年生 前期
実績経験	資格	作業療法士・理学療法士として積極的に治療を行ってきた実務経験を活かし、実例を交えながら講義を行う		
	作業療法士・理学療法士			
授業の位置づけ	1. 義肢（上肢義手）の基礎知識、適応となる対象者への作業療法介入を学ぶ。 2. ハンドセラピーの概要、代表各疾患のハンドセラピーの実際、スプリント作製実習 3. 義足の基礎知識、適応について学ぶ			
到達目標	1. 義肢と装具の機能と適応について理解する。 2. 切断者に対する義肢装着訓練について理解する。 3. ハンドセラピーの目的、内容について知る。代表疾患のハンドセラピーについて知る。 4. スプリントの作製を経験する			
授業形態	講義		併用授業	
授業計画				
回数	項目	講義内容		
1回	上肢義手	義手の機能と適応		
2回	上肢義手	上肢切断者への作業療法		
3回	ハンドセラピー	上肢の骨折		
4回	ハンドセラピー	上肢の骨折に対する作業療法		
5回	ハンドセラピー	上肢の末梢神経損傷		
6回	ハンドセラピー	上肢の末梢神経損傷に対する作業療法		
7回	ハンドセラピー	上肢の末梢神経損傷に対する作業療法		
8回	ハンドセラピー	腱損傷に対する作業療法		
9回	ハンドセラピー	スプリント作製実習 1		
10回	ハンドセラピー	スプリント作製実習		
11回	ハンドセラピー	スプリント作製実習 2		
12回	ハンドセラピー	スプリント作製実習		
13回	ハンドセラピー	試験		
14回	ハンドセラピー	試験フィードバック、スプリント評価		
15回	義足	義足の機能		
16回	義足	義足の適応		
成績評価	スプリント出来ばえ、定期試験 授業時間数の3分の1以上欠席した者には単位を与えない	受講上のルール・留意点		
課題やレポートに関するフィードバック				
実技実習に関しては、必要であれば随時フィードバックされるが、個々にではなく、実習グループ全体に対して行われる場合もある。その他の講義に関する課題でのフィードバックは、担当教員に一任する。				
	書名	著書名	出版社名	
教科書	義肢装具のチェックポイント	日本整形外科学会／日本リハビリテーション医学会監修	医学書院	
参考書				
オフィスアワー	授業前後の休憩時間			

作業療法学科 夜間部			
科 目	身体障害治療学演習	単位・時間数	1単位・45時間
担当講師	松生 容一 ・ 小笹 久志	学 年	3年生 後期
実績経験	資 格	実務経験（松生）：医療・福祉施設12年、教育機関18年 実務経験（小笹）：医療施設5年、教育機関10年 作業療法士として医療施設等にて評価・治療を行ってきた実務経験を活かし、実例を交えながら講義、演習を行う。	
	松生：作業療法士 小笹：作業療法士		

授業の位置づけ	講義で学んだ各疾患の障害の理解を深め、また対象者に必要な評価・治療手技の選択方法を学ぶ。 実技演習にて評価の復習と、各疾患の障害や特性に合わせた評価法を学ぶ。		
到達目標	身体障害分野の評価を、対象者の症状に合わせて適切に選択・実施できる。 また得られた評価から、各対象者に合わせた治療プログラムを選択できる。		
授業形態	演習	対面授業	

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	オリエンテーション	全体説明
2回	身体障害評価、治療演習	レポート作成①（評価のまとめ）
3回	身体障害評価、治療演習	レポート作成②（ICF）
4回	身体障害評価、治療演習	レポート作成③（目標設定）
5回	身体障害評価、治療演習	レポート作成④（考察）
6回	身体障害評価、治療演習	レポート作成⑤（治療計画立案）
7回	身体障害評価、治療演習	評価計画の作成（評価項目の列举）
8回	身体障害評価、治療演習	評価計画の作成（評価内容の時間、留意事項等検討）
9回	身体障害評価、治療演習	レポート課題に対してのフィードバック（グループディスカッション）
10回	身体障害評価、治療演習	レポート課題に対してのフィードバック（個別フィードバック）
11回	身体障害評価、治療演習	評価・治療方法の実技演習（片麻痺機能検査、感覚検査、反射）
12回	身体障害評価、治療演習	評価・治療方法の実技演習（ROM、MMT）
13回	身体障害評価、治療演習	評価・治療方法の実技演習（動作分析等）
14回	身体障害評価、治療演習	評価・治療方法の実技演習（STEF、MFT等）
15回	身体障害評価、治療演習	評価・治療方法の実技演習（HDS-R、MMSE等）
16回	身体障害評価、治療演習	治療介入についての検討（グループワーク）
17回	身体障害評価、治療演習	治療介入についての検討（実践演習）
18回	身体障害評価、治療演習	模擬患者演習（面接）
19回	身体障害評価、治療演習	模擬患者演習（移乗介助）
20回	身体障害評価、治療演習	Teaching Assistantによる実技指導・演習
21回	身体障害評価、治療演習	Teaching Assistantによる実技指導・演習
22回	身体障害評価、治療演習	Teaching Assistantによる実技指導・演習
23回	身体障害評価、治療演習	Teaching Assistantによる実技指導・演習

成績評価	提出課題50% 実技試験50%	受講上のルール 留意点	実技演習の服装 ケーシー、リハシューズ 実技試験では、身だしなみも評価する。 提出課題は必要内容を記載して、提出期限内に提出すること。 成績評価対象は、出席日数3分の2以上を満たすことが条件となる。
------	--------------------	----------------	--

課題やレポートに関するフィードバック
フィードバックはクラス全体に実施する。レポートに対し、グループ単位でフィードバックを行う。

	書名	著書名	出版社名
教科書	標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 第3版	編集 能登真一 他	医学書院
	標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学 第4版	編集 山口 昇 玉垣 努	医学書院
	作業療法学全書 改訂第3版 第4巻 作業治療学1 身体障害	編集 菅原洋子	協同医書出版
	ベッドサイドの神経の診かた 改定第18版	著者 田崎義昭 斎藤佳雄	南山堂
オフィスアワー	火、水、木、金 14：00～17：00位 教員室 G-mailで相談		

作業療法学科 夜間部			
科 目	精神障害治療学Ⅱ	単位・時間数	1単位・30時間
担当講師	山下 高介	学 年	3年生 前期
実績経験	資格	病院勤務・訪問看護などを経験。それらの実務経験を踏まえたうえで講義を行う。	
	作業療法士		

授業の位置づけ	作業療法は精神医療におけるリハビリテーションの中心に据えられており、評価から治療へいたる一連の流れや臨床思考過程を理解しておくことは、臨床の現場に出る前に必須のことである。そのため、作業療法の専門的な知識を活用した精神障害領域における実践について、座学と演習を通して学ぶ。		
到達目標	（１）評価から治療方法までの流れを症例検討を通して理解することができる。（２）治療構造と援助方法について理解できる。（３）回復過程に応じた作業療法と援助方法について理解できる。		
授業形態	講義・演習	対面と遠隔の併用授業	

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	オリエンテーション	授業の進め方，成績評価の説明，精神障害治療学Ⅰのおさらい
2回	統合失調症	統合失調症の作業療法
3回	抑うつ症候群と双極性障害	抑うつ症候群と双極性の作業療法
4回	依存症候群	依存症の作業療法
5回	精神科作業療法の支援方法	精神科作業療法における支援方法における整理
6回	確認試験	筆記試験
7回	精神科作業療法の基礎知識	PEOモデルと精神科作業療法特有の視点
8回	面接と目標設定①	面接の演習
9回	面接と目標設定②	目標設定の演習
10回	観察評価①	作業に焦点を当てた観察
11回	観察評価②	認知機能に焦点を当てた観察
12回	観察評価③	精神症状に焦点を当てた観察
13回	面接と目標設定③	目標設定の演習と治療プランの立案
14回	課題学習①	面接の実践と評価計画
15回	課題学習②	評価計画のブラッシュアップ

成績評価	・ 確認試験（20%） ・ 課題（80%）	受講上のルール・留意点	3分の1を超える授業時間数を欠席したものは試験が受けられない。
------	--------------------------	-------------	---------------------------------

課題やレポートに関するフィードバック
フィードバックは全体に実施する，個別のフィードバックも相談にて可とする

	書名	著書名	出版社名
教科書	精神科作業療法の理論と技術	早坂 友成	メジカルビュー社
参考書			
オフィスアワー	月～金（火除く） 14時～21時30分 教員室 メールでの対応可：k-yamashita@nichireha.ac.jp		

科 目	精神障害治療学演習		単位・時間数	1単位・45時間
担当講師	深瀬 勝久		学 年	3年生 後期
実績経験	資格	臨床経験 6 年、教育経験 1 5 年、の実務経験をもとに講義を行う。		
	作業療法士			
授業の位置づけ	精神科作業療法では、患者様の疾患の特性に合わせて治療や援助を実施していく。本講義では疾患毎の特徴を踏まえ、具体例や「演習」を通して治療構造、治療の要点、治療効果などについて授業を進める。			
到達目標	（１）治療計画・治療構造づくりについて説明できる。（２）グループによる模擬的な治療演習を実施し、要点について説明できる。（３）ケースの紙上演習を実施し、要点について説明できる。			
授業形態	講義・演習		対面と遠隔の併用授業	

授業計画

回数	項目	講義内容
1回	精神医学の振り返り	オリエンテーション
2回	精神医学の振り返り	統合失調症の基礎知識
3回	精神医学の振り返り	感情障害の基礎知識
4回	精神医学の振り返り	その他の障がいの基礎知識
5回	評価の振り返り	情報収集（他部門）
6回	評価の振り返り	情報収集（家族その他）
7回	評価の振り返り	観察（外観・第一印象）
8回	評価の振り返り	観察（日常生活活動・対人関係）
9回	評価の振り返り	観察（作業活動）
10回	評価の振り返り	面接
11回	評価の実際	模擬患者の観察①(プロセスレコード)
12回	評価の実際	模擬患者の観察②(プロセスレコード)
13回	評価の実際	模擬患者の観察③(プロセスレコード)
14回	評価の実際	模擬患者の観察④(プロセスレコード)
15回	評価の実際	模擬患者の観察⑤(プロセスレコード)
16回	評価の実際	模擬患者の観察⑥(プロセスレコード)
17回	評価の実際	模擬患者の観察⑦(プロセスレコード)
18回	評価の実際	模擬患者の観察⑧(プロセスレコード)
19回	評価の実際	模擬患者の観察⑨(プロセスレコード)
20回	評価の実際	模擬患者の観察⑩(プロセスレコード)
21回	評価の実際	評価のまとめ
22回	評価の実際	焦点化・考察
23回	評価の実際	まとめ

成績評価	授業内課題30% 模擬患者症例報告70%	受講上のルール・留意点	3分の1を超える授業時間数を欠席したものは試験が受けられない。
------	-------------------------	-------------	---------------------------------

課題やレポートに関するフィードバック
フィードバックは全体に実施する

	書名	著書名	出版社名
教科書	・精神障害と作業療法	山根寛	三輪書店
参考書			
オフィスアワー	月～木 14時～9時30分 教員室 k-fukase@nichireha.ac.jp		

科 目	発達障害治療学演習		単位・時間数	1単位・45時間
担当講師	大西 麓子		学 年	3年生 後期
実績経験	資格	臨床・教育：50年		
	作業療法士			

授業の位置づけ	発達障害領域の中では脳性まひ疾患の対象児・者を診る機会が多い。対象年齢は0歳から成人であるが、この授業では成人の脳性まひの方を動画で観察、評価し、主訴にもとずき問題点（質問・疑問点）をグループで話し合いながら、短期目標・長期目標を立て、支援方法を考える体験をしてもらうこととする。対象者に直接触れることは不可能であるが評価・支援を動画（担当講師が出向いて撮影）で観察する。そして学生同士で対象者の状態を模倣し、ハンドリングを実践しながら解決方法を見出すこととする。		
到達目標	発達障害領域の脳性まひ疾患の基礎知識と評価の基礎から実践まで学び、対象者に必要な援助方法を実施できる（特に成人の場合）。		
授業形態	対面授業		

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	発達障害児に対する治療媒介	自分で作成したおもちゃの発表
2回	発達障害児に対する治療媒介	自分で作成したおもちゃの発表
3回	就学時の作業療法について	小学1年生から6年生までの授業の中から1科目を選び、作業活動分析
4回	就学時の作業療法について	小学1年生から6年生までの授業の中から1科目を選び、作業活動分析 発表
5回	疾患・障害別作業療法	知的発達障害における作業療法
6回	疾患・障害別作業療法	二分脊椎・分娩麻痺児の作業療法
7回	発達障害治療学演習・企画書作成に向けてのオリエンテーション	発達障害の評価－治療過程の確認企画書作成に必要な内容、手順と様式、機器の貸し出し方法と予算請求方法と期限、障害児者4名の方の情報提供
8回	提供情報の共有化・レポート作成に向けての指導	校内実習のまとめと情報の共有化、レポート作成のポイント
9回	企画書作成	担当したメンバーさんの動画をみながら
10回	企画書作成、実習のシュミレーション	企画書に沿って校内実習の当日のシュミレーションを実施する
11回	校内実習のシュミレーション（30分×2G）と修正	企画書に沿って校内実習の当日のシュミレーションを実施する
12回	企画書提出	企画書完成させ、各担当の教員に提出
13回	企画書のフィードバック	企画書のフィードバック、ハンドリング
14回	企画書のフィードバック	企画書のフィードバック、ハンドリング
15回	ケース検討・ケースレポート作成に向けて	レポート作成に向けての指導
16回	ケース検討・ケースレポート作成に向けて	レポート作成に向けての指導
17回	ケース検討・ケースレポート作成に向けて	情報の共有化、レポート作成のポイント
18回	ケース検討・ケースレポート作成に向けて	情報の共有化、レポート作成のポイント
19回	ケース検討・ケースレポート作成に向けて	情報の共有化、レポート作成のポイント
20回	ケース検討・ケースレポート作成に向けて	情報の共有化、レポート作成のポイント
21回	ケース発表のための準備	発表のためのレジメ作成、練習
22回	演習結果の共有化のための発表	ケース発表（4ケース）
23回	各人でまとめる・感想文提出	各人のまとめ作業、感想文作成

成績評価	・筆記試験（30点） ・課題提出（個人：おもちゃ作成・ケーススタディー）（20点） ・演習のまとめ・発表（50点）	受講上のルール・留意点	・1年次での授業（人間発達学）や小児学、発達障害評価学・治療学を再度学習して授業に臨んでください。 ・演習では動きやすい服装で参加してください ・演習はグループで実施しますので、各人の役割を十分理解し、相談しながら意見を出し、自分のものにしてください。
------	---	-------------	--

課題やレポートに関するフィードバック

	書名	著書名	出版社名
教科書	発達障害の作業療法 第3版 実践編	岩崎清隆・岸本光夫・鴨下賢一	三輪書店
オフィスアワー	授業前後の休憩時間		

科 目	老年期障害治療学		単位・時間数	2単位・60時間
担当講師	松生 容一		学 年	3年 前期
実績経験	資格	作業療法士：病院・老人保健施設12年、教育分野18年、実務経験を活かし、実例を加えながら講義を行う。		
	作業療法士			

授業の位置づけ	高齢社会でニーズの高まる作業療法の治療実践についての基本的枠組みについて講義及び演習を通し、学習する。 授業方法：「講義」「デスカッション」「グループワークおよび発表」の形式で進めていく。		
到達目標	＜高齢期における作業療法の治療検討および実践ができる＞ ○高齢社会を理解できる ○高齢期の課題を理解できる ○社会制度を理解できる ○高齢期の作業療法を理解できる ○高齢期の特徴を理解できる ○高齢期に多い疾患について理解できる ○認知症の全体像を理解できる		
授業形態	講義・演習	対面授業中心だが、遠隔授業と併用して行う。	

授業計画

回数	項目	講義内容
1回	オリエンテーション	この授業の説明、老年期障害治療学について
2回	高齢期の理解	高齢社会について
3回		高齢者の特徴（高齢期に多い疾患、状態像）について
4回		高齢者の特徴（高齢期に多い疾患、状態像）について
5回	高齢期の社会情勢	社会制度「介護保険法について」（説明）
6回		社会制度「介護保険法について」（各自調べ学習）
7回		社会制度「介護保険法について」（調べ学習のグループごとのまとめ）
8回		社会制度「介護保険法について」（発表）
9回	認知症	認知症概論「認知症とは、認知症の種類・特徴」
10回		認知症概論「認知症とは、認知症の種類・特徴」
11回		認知症者に対する評価について（記述式）
12回		認知症者に対する評価について（観察式）
13回		認知症者への関わり方、アプローチについて（回想法、学習療法など）
14回		認知症者への関わり方、アプローチについて（各種セラピーの紹介）
15回		認知症者に対する関わり方（PBL）
16回		認知症者に対する関わり方（PBL）
17回	フレイル、サルコペニア、ロコモティブシンドロームについて	フレイル、サルコペニア、ロコモティブ・シンドロームについての講義
18回		フレイル、サルコペニア、ロコモティブ・シンドロームの評価（実技演習）
19回	高齢者に対する作業療法	レクリエーション講義・実習
20回		高齢者を対象とした集団作業療法をグループで計画する。
21回		高齢者施設で働く作業療法の実際
22回		高齢者施設で働く作業療法の実際
23回	高齢者の介助法	トランスファー、車椅子等の介助実技（講義）
24回		トランスファー、車椅子等の介助実技（演習）
25回	高齢期作業療法のプログラム立案に向けた理論について	人間作業モデル、COPM、ADOCなどの紹介
26回		
27回	高齢期障害の事例検討	グループでの事例検討
28回		グループでの事例検討
29回		グループでの事例検討
30回		グループでの事例検討・発表

成績評価	筆記試験 80％ レポート 20％	受講上のルール・留意点	許可を得た以外での、スマートフォン、タブレットの使用は禁止。実技の授業では動きやすい服装（ジャージ、Tシャツなど）で臨むこと。
------	----------------------	-------------	---

課題やレポートに関するフィードバック

フィードバックは全体に実施する。

	書名	著書名	出版社名
教科書	標準作業療法学「高齢期作業療法学」第3版	編集：松房利憲 新井健五	医学書院
参考書			
オフィスアワー	平日の午後（水曜日以外） 随時可能 メールでの連絡は随時：y-matsuike@nichireha.ac.jp		

作業療法 学科 夜 間 部			
科 目	日常生活活動学演習	単位・時間数	1単位・45時間
担当講師	山田 慶	学 年	3年生 後期
実績経験	資格	実務経験：病院（身体障害分野）、通所リハ等 9年、教育機関 6年	
	作業療法士		

授業の位置づけ	作業療法において日常生活活動への視点は「その人らしさ」の再獲得を支援するために重要であり、支援のためには日常生活活動の評価が必要である。 この授業では、MTDLPの生活行為工程分析に該当する作業療法評価から支援プログラム立案までの道筋を、CVAの日常生活活動の分析を中心に学習する。 基盤となる知識は日常生活活動学をはじめ、今まで学んだ医学的知識全般である。		
到達目標	CVAの日常生活活動を中心とした作業療法評価から支援プログラム立案までの道筋を説明できる。 また、観察記録やBI、FIMなどの評価法を実際に活用することができる。		
授業形態	講義・自己学習・グループワーク		

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	日常生活活動評価法①	評価とは、日常生活活動の評価方法
2回	日常生活活動評価法②	日常生活活動とは、作業分析
3回	日常生活活動評価法③	日常生活活動指導マニュアルの作成
4回	日常生活活動評価法④	発表
5回	吸引	喀痰吸引の講義
6回	吸引	喀痰吸引の実技演習
7回	日常生活活動評価法⑤	「Barthel Index」「FIM」を用いての評価
8回	日常生活活動評価法⑥	ペーパー・ペイシェントを用いた「BI」「FIM」の評価
9回	日常生活活動評価法⑦	グループ討議
10回	日常生活活動評価法⑧	グループ発表
11回	症例検討（CVA）①	評価計画、評価のまとめとICF分類
12回	症例検討（CVA）②	グループ討議
13回	症例検討（CVA）③	評価結果の解釈（概念図）
14回	症例検討（CVA）④	グループ討議
15回	症例検討（CVA）⑤	予後予測と目標の設定
16回	症例検討（CVA）⑥	グループ討議
17回	症例検討（CVA）⑦	治療プログラムの立案と設定方法
18回	症例検討（CVA）⑧	グループ発表
19回	片麻痺者のADL支援①	起居、車椅子駆動、歩行
20回	片麻痺者のADL支援②	階段昇降、床上動作、更衣、排泄
21回	ADL観察記録練習①	CVA 更衣
22回	ADL観察記録練習②	CVA 排泄
23回	ADL観察記録練習③	グループ討議

成績評価	定期試験（40％） 課題提出（60％）	受講上のルール・留意点	・授業時間数の3分の1以上欠席した者には単位を与えません。 ・課題提出に関してやむを得ず欠席した場合は相談にきてください。
------	------------------------	-------------	--

課題やレポートに関するフィードバック
フィードバックは適宜実施する。

	書名	著書名	出版社名
教科書	ADLとその周辺-第3版-	伊藤利之 鎌倉矩子	医学書院
参考書			
オフィスアワー	火曜日以外の午後、もしくはメール。		

作業療法学科 夜間部			
科 目	高次脳機能障害治療学	単位・時間数	1単位・30時間
担当講師	伴野 麻矢	学 年	3年生 前期
実績経験	資格	高次脳機能障害者の通所グループや個別訓練を担当していました。そこでの臨床経験を活かして講義を行います。	
	作業療法士		

授業の位置づけ	『高次脳機能』とは人が毎日の生活を営む上で欠かせないコミュニケーションや様々な行為の土台になる機能です。人間がその人らしい生活を送るためにとても必要な機能です。脳血管疾患や頭部外傷などで脳に損傷を負ってしまった場合、今までのその人らしさを失い、家族や周りの人たちはどう関われば良いのか困惑し、生活のしづらさを抱えてしまいます。 この授業では高次脳機能障害の障害特性を学び、その評価方法や社会生活においてどのような支障があり、それに対してどのような関わりが必要かを実例を交えながら講義を行います。高次脳機能障害にはたくさんの種類があり、障害特性を捉えにくい、イメージしづらい障害もありますが、講義内でなるべく多くのビデオや私が臨床で診てきた高次脳機能障害の方々の話を交えて皆さんがイメージしやすいよう解説します。自分の生活に置き換えて高次脳機能を捉えていくことも大切です。障害特性をイメージしながら受講して欲しいと思います。		
到達目標	①高次脳機能に関わる脳の局在を説明できる。 ②それぞれの脳の局在が障害されたときどのような障害がでるか、障害名と障害特性を説明できる ②高次脳機能障害の評価概要を理解し、病態に応じた評価を選定、実施ができる。 ③病態・障害別の病態が生活上で及ぼす影響、問題を理解し、介入方法を説明できる。		
授業形態	講義・演習		

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	高次脳機能障害の基礎知識	脳の機能とは何か/高次脳障害とは何か/高次脳機能のプロセス
2回		脳の局在と機能/高次脳機能障害の病態と原因
3回	優位半球損傷による高次脳機能障害	言語野の機能/失語症とは/失語症の分類と病態に応じた評価
4回		失語症の病態に応じた介入
5回		失行症とは/失行症の分類と病態に応じた評価
6回		失行症の病態に応じた介入
7回	認知（対象認知）の障害による高次脳機能障害	失認の分類 ①視覚性の認知とは/視覚失認の分類と病態 視覚失認の病態に応じた評価と介入/バリント症候群について
8回		②身体に関する失認/身体失認の分類と病態/身体失認の病態に応じた評価と介入/ ③病態失認の病態と評価/介入
9回	視空間認知の障害による高次脳機能障害	視空間失認の分類/半側空間無視の病態
10回		半側空間無視の評価（代表的な検査バッテリー）の紹介と介入/地誌的障害の病態と評価・介入
11回	注意機能の障害による高次脳機能障害	注意機能とは/注意の段階による分類/注意障害の病態に応じた評価（代表的なバッテリー）と介入
12回	記憶の障害による高次脳機能障害	記憶のメカニズム/記憶の構造/記憶の分類
13回		記憶障害の病態と評価・介入
14回	前頭葉機能の障害による高次脳機能障害	前頭葉機能について/遂行機能障害の病態/評価と介入
15回		社会的行動障害の病態/評価と介入 代表的な検査バッテリーの紹介

成績評価	定期試験	受講上のルール・留意点	※各項目でプリントを配布する。必ず持参すること
------	------	-------------	-------------------------

課題やレポートに関するフィードバック

	書名	著書名	出版社名
教科書	標準作業療法学 高次脳機能作業療法学	能登真一	医学書院
参考書	高次脳機能障害ポケットマニュアル第3版	原寛美	医歯薬出版
オフィスアワー	水曜日を除く平日（不在の場合はメールで相談してください）		

科 目	職業関連活動学		単位・時間数	1単位・30時間
担当講師	手塚雅之・田中克一		学 年	3年生 前期
実績経験	資格	精神科病院の臨床経験8年、「専門学校」を中心に教育歴20年。養成教育にたずさわりながら、身障系病院、高齢者施設、精神病院などでも経験を重ねた。それらの実務経験をもとに講義を行う。		
	作業療法士・健康運動実践指導者 ・修士（学術）			

授業の位置づけ	作業療法士は病院や施設などの、院内でのリハビリテーションのみならず、退院後、社会復帰した後の「職業復帰」および「在職中の仕事の進め方」などについても指導・援助を行う医療職である。リハビリテーションの専門家として「就労へ向けての評価の方法」「多職種との連携」「就労移行支援施設」、障がい者を取り巻く「就労に関する法律」、「援助・指導の方法」などについて知識を有しておくことは大切で、臨床の現場でも対応が求められることがある。本講義では、障がい者の就労に関する支援全般について、具体例も交えながら講義を進める。		
到達目標	（１）就労支援の評価について説明できる。（２）就労支援に関する「法律」について理解できる。（３）就労に関する作業療法士の指導・援助方法について説明できる。		
授業形態	講義・演習	対面と遠隔の併用授業	

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	職業関連活動学の概要	職業リハビリテーションとは、マズローのモデル、
2回	職業とは何か 職業の意義	職業とは、職業の定義・分類・意義、職業体験
3回	障がい者にとっての職業の意味	障がい者にとっての職業
4回	公共の支援	国・地域の障害者職業センター、ハローワークでの対応
5回	就労支援の法律	障害者総合支援法、就労移行支援
6回	障害別特徴	身体障害者、精神障害者、知的障害者の雇用、職場での課題
7回	就労支援の法律	障害者総合支援法、就労移行支援
8回	職場での支援	ジョブコーチ、企業の就労支援
9回	就労支援の流れ	就労支援（職業リハビリテーションにおける支援）の流れを理解する
10回	就労支援の実際	各領域の就労支援の評価・治療・援助と就労
11回	就労支援の実際	各領域の就労支援の評価・治療・援助と就労
12回	就労支援の実際	各領域の就労支援の評価・治療・援助と就労
13回	就労支援の実際	各領域の就労支援の評価・治療・援助と就労
14回	就労支援の実際	各領域の就労支援の評価・治療・援助と就労
15回	まとめ	就労支援のまとめ

成績評価	試験60%、課題40%	受講上のルール・留意点	3分の1を超える授業時間数を欠席したものは試験が受けられない。
------	-------------	-------------	---------------------------------

課題やレポートに関するフィードバック
フィードバックは全体に実施する

	書名	著者名	出版社名
教科書	就労支援の作業療法-基礎から臨床実践まで-	中村俊彦・建木健・藤田さより	医歯薬出版株式会社
参考書			
オフィスアワー	・「月曜日午後（会議以外の時間）」またはメールで相談 ・上記以外でも空いている際はご相談ください		

作業療法学科 夜間部			
科 目	作業療法総合演習Ⅱ	単位・時間数	2単位・60時間
担当講師	作業療法学科 教員	学 年	3年生 後期
実績経験	資格	各分野担当の教員 作業療法士として医療・療養・介護・療育施設にて治療を行ってきた実務経験を活かし、実例を交えながら講義・演習を行う。	
	作業療法士		

授業の位置づけ	臨床実習Ⅰの実施後に振り返りを行い、臨床実習Ⅱの準備教育を行う。 1)身体障害系セミナー 2)老年期障害系セミナー 3)発達障害系セミナー 4)精神障害系セミナー 各評価学・治療学の振り返りの講義、実技演習。		
到達目標	事例報告を中心とした演習、評価実技などを共同学習において学び、総合実習で必要な知識を確認する。 評価学。治療学などの振り返りを通じて、作業療法についての理解を深める。		
授業形態	演習	対面と遠隔の併用授業	

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	オリエンテーション	作業療法総合演習Ⅰの全体説明
2回	評価・治療演習	身体障害分野① 情報収集
3回	評価・治療演習	身体障害分野② 面接、観察
4回	評価・治療演習	身体障害分野③ 検査・測定
5回	評価・治療演習	身体障害分野④ 全体像のまとめ
6回	評価・治療演習	身体障害分野⑤ 目標設定
7回	評価・治療演習	身体障害分野⑥ 治療立案、再評価
8回	評価・治療演習	身体障害分野⑦ 考察
9回	評価・治療演習	老年期障害分野① 情報収集
10回	評価・治療演習	老年期障害分野② 面接、観察
11回	評価・治療演習	老年期障害分野③ 検査・測定
12回	評価・治療演習	老年期障害分野④ 全体像のまとめ
13回	評価・治療演習	老年期障害分野⑤ 目標設定
14回	評価・治療演習	老年期障害分野⑥ 治療立案、再評価
15回	評価・治療演習	老年期障害分野⑦ 考察
16回	評価・治療演習	発達障害分野① 情報収集
17回	評価・治療演習	発達障害分野② 面接、観察
18回	評価・治療演習	発達障害分野③ 検査・測定
19回	評価・治療演習	発達障害分野④ 全体像のまとめ
20回	評価・治療演習	発達障害分野⑤ 目標設定
21回	評価・治療演習	発達障害分野⑥ 治療立案、再評価
22回	評価・治療演習	発達障害分野⑦ 考察
23回	評価・治療演習	精神障害分野① 情報収集
24回	評価・治療演習	精神障害分野② 面接、観察
25回	評価・治療演習	精神障害分野③ 検査・測定
26回	評価・治療演習	精神障害分野④ 全体像のまとめ
27回	評価・治療演習	精神障害分野⑤ 目標設定
28回	評価・治療演習	精神障害分野⑥ 治療立案、再評価
29回	評価・治療演習	精神障害分野⑦ 考察
30回	まとめ	全体の振り返り、まとめ

成績評価	提出課題 50% 事例報告評価 50%	受講上のルール 留意点	提出課題は必要内容を記載して、提出期限内に提出すること。 単位取得には3分の2以上の出席を必要とする。
------	------------------------	----------------	--

課題やレポートに関するフィードバック
フィードバックはクラス全体に実施する。

作業療法 学科 夜間 部			
科 目	臨床実習 I	単位・時間数	6単位・270時間
担当講師	作業療法学科教員	学 年	3年生 後期
実績経験	資格		
	作業療法士		

授業の位置づけ	臨床実習 I は、臨床実習指導者のもとで、作業療法の評価の修得と実践を行う 1. 各臨床実習施設における作業療法および作業療法士の役割と機能を学ぶ 2. 臨床実習指導者の指導、援助のもとに、実習生が対象児・者を全体的に把握する 3. 2. の評価に基づき実習生は、臨床実習指導者の指導・援助のもとに評価のまとめを行い、作業療法目標を設定する 4. 作業療法士としての基本的態度を習得し、専門職としての能力の向上・充実をはかる		
到達目標	今までの学内での講義・演習、および臨床実習（早期見学実習：1年次、見学実習：2年次）で修得した、知識、コミュニケーション能力、作業療法の検査、臨床的推論・思考のもとに、指導者の指導・援助のもと、対象児・者への作業療法検査・評価が実施できることを目標とする。 ①作業療法士としての礼儀・礼節・接遇が体现でき、基本的なルールを遵守することができる。 ②実習に意欲的に取り組むことが出来る ③作業療法の業務を理解し、対象者に対してリスク管理を行うことが出来る ④作業療法評価の計画・準備を行うことができる ⑤対象者の観察・検査結果から、全体像をまとめることが出来る ⑥必要な事項を選択肢、記録を行うことが出来る ⑦状況に応じて、指導者やスタッフに連絡・報告・相談ができる。		
授業形態	実習	対面授業	

授業計画

実習前・臨床実習・実習後の学習上の注意点		
実習前 ①実習担当者と面談し、実習の実施方法を確認し、効果的な実習を実施できるように準備する。 ②各授業の指定教科書等・講義資料のポイント、臨床実習前講義で実施した内容は実習前に整理し、確認すること。 ③コミュニケーション技能、実技練習を入念に実施し、実習に備えること。 臨床実習 ①臨床現場では作業療法分野だけでなく、多職種連携を常に思い浮かべて、広範囲の知識と技術を体系的に学んでいく。 ②臨床現場では積極的に様々なことを体験、見学するように努めること。 ③習得した知識は毎日書類（ポートフォリオ）として記録すること。 実習後 ①実習中に学んだ点を整理し、発表の準備を行うこと。 ②必要に応じて実習担当者と面談し、実習の総括を実施すること。 ③実習の成果を書類にまとめ、提出すること。		
回数	項目	講義内容
第1週	施設の概要を知る 施設における作業療法の役割を知る 対象者との初回面接 対象者の観察・検査・評価	施設及び作業療法室についてのオリエンテーションを受け、対象児・者の観察、作業療法の用い方、道具などに触れる。対象児・者の協力を得て、検査・評価の実践を行う。
第2週	対象者の観察・検査・評価	臨床実習指導者の指導の下で、対象児・者の協力を得て、作業療法検査・評価の実践を行う。必要な記録を残す。
第3週	対象者の評価及びまとめ リハビリテーションおよび作業療法目標の設定 臨床実習指導者からのフィードバック	臨床実習指導者のもとで、対象児・者の協力を得て観察・検査・評価の実践をし、情報の整理、統合、解釈を行い、リハビリテーションおよび作業療法目標の設定を試みる。必要な記録を残す。

成績評価	実習地評価、課題・提出物、OSCEをもとに総合的に判断する。	受講上のルール・留意点	原則として遅刻、早退、欠席は認めない。
------	--------------------------------	-------------	---------------------

課題やレポートに関するフィードバック
実習地での課題やレポートのフィードバックは実習地で実施する。また、実習全体に対する相談およびフィードバックは、「実習中の電話やメール」「臨床実習地訪問の面談時」「実習終了後」に担当教員からも行う。

書名		著書名	出版社名
教科書	臨床実習の手引き	学校資料	
参考書			
オフィスアワー	担当教員への連絡は電話またはメールで随時可能		

		作業療法学科	夜間部
科 目	作業療法臨床セミナーⅡ	単位・時間数	2単位・60時間
担当講師	作業療法学科 教員	学 年	4年生 通年
実績経験	資格	分野担当ごとの各教員 作業療法士として医療・療養・介護・療育施設にて治療を行ってきた実務経験を活かし、実例を交えながら講義・演習を行う。	
	作業療法士		

授業の位置づけ	実習直前に準備教育を行い、臨床能力の向上を目指す。 実習で経験してきたことを振り返り、次期の実習に活かす。 実習終了後には実習で経験してきたことを振り返り、知識と経験の定着を促す。 具体的には、臨床実習Ⅱの終了後、事例報告を中心とした相互学習を通じて、学習経験を共有する。		
到達目標	MTDLPのシートを活用しOTの臨床思考を学びながら事例報告、討論が行える。臨床場面での応用を含めた展開方法などについても知る。		
授業形態	演習	対面と遠隔の併用授業	

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	オリエンテーション	作業療法臨床セミナーⅡの全体説明
2回	事例のまとめ	レポート・レジュメのまとめ方① 情報収集(一般、社会的、医学的)
3回	事例のまとめ	レポート・レジュメのまとめ方② 作用療法評価(面接、観察、検査・測定)
4回	事例のまとめ	レポート・レジュメのまとめ方③ 全体像のまとめ
5回	事例のまとめ	レポート・レジュメのまとめ方④ 目標設定 考察
6回	事例発表	身体障害分野① 症例A 発表
7回	事例発表	身体障害分野② 症例A 検討
8回	事例発表	身体障害分野③ 症例B 発表
9回	事例発表	身体障害分野④ 症例B 検討
10回	事例発表	身体障害分野⑤ 症例C 発表
11回	事例発表	身体障害分野⑥ 症例C 検討
12回	事例発表	老年期障害分野① 症例D 発表
13回	事例発表	老年期障害分野② 症例D 検討
14回	事例発表	老年期障害分野③ 症例E 発表
15回	事例発表	老年期障害分野④ 症例E 検討
16回	事例発表	老年期障害分野⑤ 症例F 発表
17回	事例発表	老年期障害分野⑥ 症例F 検討
18回	事例発表	発達障害分野① 症例G 発表
19回	事例発表	発達障害分野② 症例G 検討
20回	事例発表	発達障害分野③ 症例H 発表
21回	事例発表	発達障害分野④ 症例H 検討
22回	事例発表	発達障害分野⑤ 症例I 発表
23回	事例発表	発達障害分野⑥ 症例I 検討
24回	事例発表	精神障害分野① 症例J 発表
25回	事例発表	精神障害分野② 症例J 検討
26回	事例発表	精神障害分野③ 症例K 発表
27回	事例発表	精神障害分野④ 症例K 検討
28回	事例発表	精神障害分野⑤ 症例L 発表
29回	事例発表	精神障害分野⑥ 症例L 検討
30回	まとめ	全体の振り返り、まとめ

成績評価	提出課題 50% 事例報告評価 50%	受講上のルール・留意点	提出課題は必要内容を記載して、提出期限内に提出すること。 授業時間数の3分の1以上を超えて欠席した者には、単位を与えない。
------	------------------------	-------------	--

課題やレポートに関するフィードバック
フィードバックはクラス全体に実施する。学生的事例報告を踏まえて、適宜フィードバックを行う。

科 目	地域作業療法学Ⅱ		単位・時間数	2単位・30時間
担当講師	松生容一、外部講師		学 年	4年 後期
実績経験	資格	作業療法士：病院、老人保健施設12年、教育分野18年		
	作業療法士			
授業の位置づけ	地域社会でリハビリテーション業務に携わる作業療法士や多職種による講義、演習授業により、各分野（身体、精神、老年、発達、就労支援）での地域作業療法を学ぶ。 授業方法：「講義」「ディスカッション」「グループワーク」「個別演習」などを実施する。			
到達目標	○地域作業療法についての概要を理解できる ○各分野（身体、精神、老年、発達、就労支援など）の地域作業療法について理解できる ○自ら地域作業療法士の役割に問題意識を持ち、検討することができる			
授業形態	講義		併用授業	

授業計画

回数	項目	講義内容
1回	地域作業療法概論	地域リハビリテーションについて
2回	地域作業療法概論	地域作業療法について
3回	地域作業療法各論	身体障害分野の地域作業療法「講義」
4回	地域作業療法各論	身体障害分野の地域作業療法「演習」
5回	地域作業療法各論	精神障害分野の地域作業療法「講義」
6回	地域作業療法各論	精神障害分野の地域作業療法「演習」
7回	地域作業療法各論	老年期障害分野の地域作業療法「講義」
8回	地域作業療法各論	老年期障害分野の地域作業療法「演習」
9回	地域作業療法各論	発達障害分野の地域作業療法「講義」
10回	地域作業療法各論	発達障害分野の地域作業療法「演習」
11回	地域作業療法各論	就労支援分野の地域作業療法「講義」
12回	地域作業療法各論	就労支援分野の地域作業療法「演習」
13回	地域作業療法各論	訪問リハビリテーションについて「講義」
14回	地域作業療法各論	訪問リハビリテーションについて「演習」
15回	地域作業療法のまとめ	地域における作業療法士の役割の検討「講義・演習」

成績評価	レポート 100%	受講上のルール・留意点	講義ごとのレポート提出を必須とし、合算したものを成績評価とする。 成績評価は、講義全体の2/3以上の出席が必要となる。
------	-----------	-------------	--

課題やレポートに関するフィードバック
フィードバックは適宜全体に実施する。

	書名	著書名	出版社名
教科書	なし		
参考書	標準作業療法学 地域作業療法学 第2版	編集：小川恵子	医学書院
オフィスアワー	平日の午後（水曜日以外）随時可能 メールでの連絡は随時：y-matsuike@nichireha.ac.jp		

科目	作業療法特論	単位・時間数	12単位・360時間
担当講師	作業療法学科教員	学年	4年生 後期
実績経験	資格	作業療法士として病院勤務などの実務経験を活かし、実例を交えながら講義を行う 各領域の専門知識を活かし、学生との双方向での教育を行う。	
	作業療法士		

授業の位置づけ	基礎分野・専門基礎分野・専門分野の1年～4年前期までの学習を振り返り、作業療法実践のために必要な知識を再学習する。 臨床における実地的な知識をグループワークなどを通して習得する		
到達目標	解剖学・生理学・運動学・心理学などの基礎分野の知識を習得する 各臨床医学を含む専門基礎分野の知識を習得する 作業療法の専門分野の知識を各領域ごとに習得する		
授業形態	講義・演習	対面授業・一部遠隔授業	

授業計画

回数	項目	講義内容
1期	基礎分野	解剖学・生理学・運動学・心理学などの基礎分野について（講義・グループワーク）
2期	専門基礎分野	各臨床医学などの専門基礎分野について（講義・グループワーク）
3期	専門分野	評価学・治療学などの作業療法専門分野について（講義・グループワーク）

成績評価	各期での試験100%	受講上のルール・留意点	グループで行う演習に関して、必ず役割を持ち、傍観者にならないこと。 成績評価には授業全体の2／3の出席が必要
------	------------	-------------	---

課題やレポートに関するフィードバック
随時FBを行う。

	書名	著書名	出版社名
教科書			
参考書	講義開始時に説明		
オフィスアワー	随時		

作業療法 学科		夜間 部	
科 目	臨床実習Ⅱ	単位・時間数	16単位・720時間
担当講師	作業療法学科教員	学 年	4年生 通年

授業の位置づけ	臨床実習Ⅱは、臨床実習指導者のもとで、職業人としての総合的、かつ、作業療法の基本的技能の取得と実践を行う 1. 臨床実習指導者の指導・援助を受けながら、対象児・者の評価、作業療法の計画・実施、その記録報告、再評価という一貫した作業療法のプロセスを体験・習得する。 2. 作業療法士としての、管理・運営業務を学ぶ 3. 他職種との協働（チーム医療）を体験・習得する。 4. 対象児・者に対する、総合リハビリテーションサービスの中での、作業療法の意義を考え、作業療法士の役割と機能を学ぶ		
到達目標	今までの学内での講義・演習、および臨床実習（早期見学実習：1年次、見学実習：2年次、臨床実習Ⅰ：3年次）で修得した、知識、コミュニケーション能力、作業療法の検査、臨床的推論・思考をもとに、指導者の指導・援助のもと、対象児・者への評価、作業療法の計画・実施、その記録報告、再評価という一貫した作業療法のプロセスを体験・習得することを目標とする。 ①作業療法士としての礼儀・礼節・接遇が体现でき、基本的なルールを遵守することができる。 ②実習に意欲的に取り組むことが出来る ③作業療法の業務を理解し、対象者に対してリスク管理を行うことが出来る ④作業療法評価の計画・準備を行うことができる ⑤対象児・者の観察・検査結果から、全体像をまとめることが出来る ⑥対象児・者の評価結果をもとに、作業療法計画の立案を行うことが出来る ⑦作業療法計画を臨床実習指導者の指導・援助のもとに体験・実施することが出来る ⑧必要な事項を選択肢、記録を行うことが出来る ⑨状況に応じて、指導者やスタッフに連絡・報告・相談ができる。		
授業形態	講義・演習・実習	対面授業	

授業計画

実習前・臨床実習・実習後の学習上の注意点		
実習前 ①実習担当者と面談し、実習の実施方法を確認し、効果的な実習を実施できるように準備する。 ②各授業の指定教科書等・講義資料のポイント、臨床実習前講義で実施した内容は実習前に整理し、確認すること。 ③コミュニケーション技能、実技練習を入念に実施し、実習に備えること。 臨床実習 ①臨床現場では作業療法分野だけでなく、多職種連携を常に思い浮かべて、広範囲の知識と技術を体系的に学んでいく。 ②臨床現場では積極的に様々なことを体験、見学するように努めること。 ③習得した知識は毎日書類（ポートフォリオ）として記録すること。 実習後 ①実習中に学んだ点を整理し、発表の準備を行うこと。 ②必要に応じて実習担当者と面談し、実習の総括を実施すること。 ③実習の成果を書類にまとめ、提出すること。		
回数	項目	講義内容
第1～2週	施設の概要を知る 施設における作業療法の役割を知る 対象者との初回面接 対象者の観察・検査・評価	施設及び作業療法室についてのオリエンテーションを受け、対象児・者の観察、作業療法の用い方、道具などに触れる。対象児・者の協力を得て、検査・評価の実践を行う。必要な記録を残す。
第3～4週	治療計画立案・実施	臨床実習指導者の指導・援助の下で、評価結果から作業療法計画を立案する。必要な記録をその他の課題の遂行を行う。
第5～6週	作業療法実施・再評価	臨床実習指導者の指導の下で、対象児・者の協力を得て、治療の実践、観察、作業面接、治療計画の修正等を行う。一定期間後に再評価を行い、治療経過をまとめて考察する。記録およびその他の課題の遂行を行う。
第7～8週	再評価 治療経過のまとめおよび考察 今後の課題のまとめ・引継ぎ 実習終了の報告・フィードバック 事務手続き	臨床実習指導者の下で、治療経過をまとめて考察する。ケーススタディの発表。記録その他の課題の遂行を行う。必要な記録を残す。

成績評価	実習地評価、課題・提出物・OSCEをもとに総合的に判断する。	受講上のルール・留意点	原則として遅刻、早退、欠席は認めない。
------	--------------------------------	-------------	---------------------

課題やレポートに関するフィードバック
実習地での課題やレポートのフィードバックは実習地で実施する。また、実習全体に対する相談およびフィードバックは、「実習中の電話やメール」「臨床実習地訪問の面談時」「実習終了後」に担当教員からも行う。

書名		著書名	出版社名
教科書	臨床実習の手引き	学校資料	
参考書			
オフィスアワー	担当教員への連絡は電話またはメールで随時可能		